

2019

入学生用

履修要項

国際文化学科

国際学部

Faculty of International Studies

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学国際学部 国際文化学科

2019年度入学生用履修要項

『履修要項』は卒業まで使用しますので、大切に保管し、活用してください。

また、『履修要項』配付後に発生した変更、学年暦、各種日程、各学部 窓口事務及び、学部共通の各教育プログラム・諸課題については、履修要項WEBサイトを通じてお知らせします。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です

(お気に入り登録しておくとう便利です)

学部・学科英文名

龍谷大学 Ryukoku University

国際学部 Faculty of International Studies

国際文化学科 Department of Intercultural Communication

国際学部の学生の皆さんへ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんが入学に至るまでには、それぞれの思いがあったことと思います。数ある大学、学部の中から、縁あって龍谷大学国際学部に入學されましたこと、本当に有り難く思います。第一志望の人も、第二・第三志望等の人もスタートラインは同じです。驕ることなく臆することなく、入学後どのように学修を進めていくかが重要です。学生時代をいかに過ごすかによって人生は大きく変わってきます。

龍谷大学は、1639年に西本願寺の「学寮」として産声を上げ、以来、さまざまな歴史的な困難の中、途切れることなく教育と研究の歴史を刻んできました。紛れもなく、日本で最古の教育機関です。本年は、創設380年の記念の年となり、本学の存在意義を世界に問う様々な事業を進めつつあります。

国際学部 (Faculty of International Studies) は、伝統ある龍谷大学の中で、2015年度に開設された学部で、農学部と並んで最も新しい学部です。国際学部の前身である「国際文化学部」は、1996年に瀬田学舎に開設され23年を経過しました。深草学舎移転とともに2015年度に誕生した「国際学部」は、2学科を擁する学部として、本年3月に最初の卒業生を送り出しました。2019年度入学の皆さんは、完成年度翌年の新たな学部展開の1期生となります。

国際学部には、異なる文化間をつなぎ、よりよい世界の実現に向けた対話を促すファシリテーター (促進者) を育成する「国際文化 (Intercultural Communication: IC) 学科」と、外国語運用能力を含む豊かなコミュニケーション能力と教養を国際舞台で活かし、リーダーシップを発揮できる人材を育成する「グローバルスタディーズ (Global Studies: GS) 学科」があります。

IC学科では、専任教員の約42%が海外出身で、居ながらにして異文化交流が可能で、11カ国語の幅広い外国語を学ぶ機会も提供しています。必修の「国際文化実践プログラム」や、3つのコースを用意しています。2019年度にはコース横断型の「国際ツーリズムプログラム」も設置しました。

また、GS学科では、専攻科目の約80%は「英語」または「英語+日本語」で開講しており、「日本一勉強する学科」を自負しています。TOEIC[®]L&Rの卒業要件は730点で、卒業までに830点をめざします。教員や学生メンターの支援のもと、国際舞台に立つリーダーを養成します。留学は全員必修です。

IC学科、GS学科は、それぞれめざすところは違いますが、同じ国際学部生として切磋琢磨して、お互いの特徴や良い点を活かし、刺激し合いながら学修を進めていって欲しいと思います。

私たち教員は、全力で、皆さんの頑張りをサポートします。また教務課職員も一丸となって、皆さんを見守ります。

高島屋やワコール、伊藤忠商事といった企業の前身として知られる近江商人は、「売り手よし、買い手よし、世間よし」といういわゆる「三方よし」を经营理念としていたそうです。仏教に培われた社会奉仕の精神は、当事者である売り手と買い手だけの利益だけでなく、それが社会にとっても意味のある活動につながることを目指していたのです。自分も相手も社会も、充足感・幸福感、そして静かな達成感にひたれるような学修になるよう、私たちは自らを律し教育・研究に邁進します。卒業後の皆さんが、胸を張って、龍谷大学国際学部が「母校」と呼べるようになることを願っています。

2019年4月1日

国際学部長
三谷 真澄

2019年度入学生用 龍谷大学国際学部国際文化学科 履修要項 目 次

学生のみなさんへ

学年暦

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の教育理念・目的

学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針策定の基本方針

国際学部の教育理念・目的

卒業認定・学位授与の方針

教育課程編成・実施の方針

文化の多様性に接する学内環境の整備

学生支援の方針

ガイダンス

大学からの連絡・通知の掲示

休講・補講・教室変更情報

第1部 履修の心得

I 履修をはじめるにあたって

1. 長期的な履修計画を立てること…………… 2
2. 系統的に科目を履修すること…………… 2
3. 自主的に学修をすること…………… 2
4. オフィスアワー…………… 2

II シラバス

1. シラバスとは何か…………… 4
2. シラバスに記載されている情報…………… 4
3. シラバスの利用方法…………… 4

III 単位制度と単位の認定

1. 単位制度…………… 5
2. 履修登録制度…………… 6
3. 授業科目の履修…………… 6
4. 授業時間…………… 6
5. 卒業要件単位および学士号…………… 7

IV 授業科目の開設方法

1. セメスター制…………… 9
2. 授業科目の開設方法…………… 9
3. 学期完結型授業科目の開講方式…………… 10
4. 授業科目と授業テーマ…………… 10
5. 先修制…………… 11
6. グレイドナンバー制…………… 12

V 履修登録

1. 履修登録手続スケジュール…………… 13
2. 履修登録制限単位数…………… 13
3. 予備・事前登録…………… 14
4. 履修登録要件…………… 14
5. 履修辞退制度…………… 15
6. 配当セメスターの考え方…………… 16

VI 成績評価

1. 成績評価の方法…………… 17
2. 成績評価の基準…………… 17
3. GPA 制度…………… 18
4. 成績疑義…………… 18
5. 筆答試験の時期…………… 18
6. 受験資格…………… 18
7. 受験の注意事項…………… 19
8. 答案の無効…………… 19
9. 筆答試験における不正行為…………… 19
10. レポート試験における不正行為…………… 19
11. 追試験…………… 20
12. 筆答試験時間…………… 21

第2部 教育課程

I 教育課程の編成方法

- カリキュラム概念図…………… 24
1. 授業科目の区分…………… 26
 2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目…………… 26
 3. クラスの編成…………… 26
 4. コース制…………… 26

II 教養教育科目の教育目的および履修方法

1. 教養教育とは…………… 27
 - (1) 教養教育の理念・目的
 - (2) 教養教育科目とは
2. 「仏教の思想」科目…………… 27
3. 教養科目…………… 29
4. 予備登録について…………… 30

III 国際文化学科での学び

1. 1年次…………… 31
2. 2年次…………… 32
3. 3年次および4年次…………… 33

Ⅳ 科目区分と卒業に必要な単位数	
1. 学科外国語科目	34
2. 教養教育科目	34
3. 学科基礎科目	34
4. 学科専攻科目	35
5. 国際文化実践	35
6. フリーゾーン	35
7. 単位互換科目、教職課程、博物館学芸員課程、 本願寺派教師資格課程など	36
Ⅴ 各コース紹介	
1. 多文化共生コース	37
2. 世界と日本コース	38
3. 芸術・メディアコース	39
Ⅵ 国際ツーリズムプログラム (International Tourism Program) について	
1. 制度の概要	40
2. 修了要件	40
Ⅶ キャリア教育とキャリアデザイン	
1. 想定する進路	41
2. キャリア科目	42
3. その他	42
Ⅷ 履修方法	
1. 必修外国語の履修方法	44
2. コース選択について	46
3. 国際ツーリズムプログラム (ITP) について	46
4. 国際文化実践について	47
5. 演習および卒業論文の履修方法	50
6. 必修科目の再履修	50
7. 開設科目	51
Ⅸ 卒業論文	
1. 卒業論文執筆および提出要領	64
2. 注意事項	66
3. 評価方法	66
Ⅹ その他の教育課程・教育プログラム	
1. 留学／国際交流プログラム・単位互換制度・ 各種インターンシッププログラム	67

第3部 諸課程

I 諸課程	
1. 諸課程	70
2. 特別研修講座・各種講座・試験	71

第4部 学修生活の手引き

I 窓口事務・保健管理センター・ 障がい学生支援室	
1. 窓口事務	74
2. 保健管理センター	74
3. 障がい学生支援室	74
II 授業休止の取扱基準	75
III 学籍の取り扱い	
1. 学籍とは	76
2. 学籍簿	76
3. 学生証	77
4. 学籍の喪失	78
5. 休学と復学	78
6. 再入学	79
7. 編入学・転入学	79
8. 9月卒業	79

第5部 Q&A

登録・履修・試験について	82
留学制度・留学生について	85
証明書について	87
学籍について	88
学生生活について	89
こんな場合には?	92

第6部 教員

国際学部 専任教員名簿	96
国際文化学科 専任教員紹介	97

第7部 付録

学舎・教室見取図	112
留学サポートデスクについて	131

学生のみなさんへ

この履修要項は、龍谷大学国際学部において開設されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修・修得しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、履修に関する詳細なガイダンス（履修説明会）が行われますのであわせて利用してください。それでもなお、不明な点があれば国際学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

2019年4月

学 年 暦

学年暦として、大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程を定めています。毎年度変更となりますので、履修要項WEBサイトで必ず確認してください。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です。

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育理念・目的

建学の精神に基づき「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成する。

[学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針]

龍谷大学の教育理念・目的を実現するために設置された学部・研究科は、広く社会に貢献できる教養教育・専門教育及びより高度な専門教育・研究を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。

国際学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、異文化への理解と敬意を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人間を育成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針 [学士（国際文化学）]

国際学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を次に掲げる。

〈国際学部（国際文化学科）の学生に保証する基本的な資質・能力〉

○教養教育科目により保証する資質・能力

●専攻科目により保証する資質・能力

①：建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している。

②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

●日本を含む世界の様々な国、地域、宗教等における文化の多様な側面を理解することができる。

●日本語および外国語で書かれた文献資料等を調査し、かつ、批判的に読み解くことができる。

●英語をはじめ、任意の外国語をその文化的背景も含めて学び、かつ、実践的に活用することができる。

●「世界と日本をつなぐ」上で求められる、言語・人文・社会科学にわたる幅広い教養を身につけている。

●社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。

●フィールド調査など実践的な授業や活動を通じて、異なる文化間に生じる諸問題を発見し、解決する上で役立つ実践的な経験を持っている。

●異なる文化の独自性を尊重できると同時に、自らが所属する文化の特質や意義を認識している。

●異なる文化間に内在する課題を発見し、互恵的・建設的な解決策を論理的に導く能力を持っている。

●レポートや卒業論文など、一定の書式に沿って自己の主張をまとめることができる。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- 世界の様々な国、地域における言語や文化に対する幅広い関心と、飽くなき探究心を持っている。
- 国際的な諸問題と深く関わる世界三大宗教（仏教・キリスト教・イスラーム教）に対する関心を持っている。
- 日本社会や日本文化の歴史的な蓄積を理解した上で、現代的な諸課題に対する関心を持っている。
- 複雑化、多様化する国際社会の状況を踏まえ、一面的に物事を捉えない視座を持っている。
- 自らの所属する文化を常に相対的に眺め、様々な文化を優劣関係で捉えない寛容な精神を持っている。
- 常に他者の立場に配慮しながら、主体的に物事に対して思考・判断・行動することができる。

〈学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法〉

1. 学部にて4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。

教育課程編成・実施の方針

国際学部の教育理念・目的および卒業認定・学位授与の方針に明示した「基本的な資質・能力」をすべての学生が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるよう学習環境・支援体制を整備する。併せて、国際学部の教育理念・目的を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備する。

〈国際学部（国際文化学科）の教育内容〉

- 教養教育科目にかかる教育内容
- 専攻科目にかかる教育内容

①：建学の精神の具現化

- 建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。

②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得

- 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
- 外国語運用能力を涵養するため、1年次には週5回、2年次には週3回の「学科外国語科目」（英語・中国語・コリア語・フランス語から選択）を開講する。
- 2年次から「学科専攻科目」として、学科外国語科目で提供した外国語に加えて、さらに多様な外国語科目（ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ポルトガル語）を配置する。
- 大学での学びの基礎を確立するため、「基礎演習A・B」（各2単位）を1年次に展開する。
- 今後の学びにとって重要な学修スキルを身につけるため「調査分析の基礎A・B」を設ける。
- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するため、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を実現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）の発展・向上

- 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。
- 「世界を学び、日本を知る」という学科の理念に基づき、また、国内外の多様な文化を結ぶファシリ

テーターを育成するため、『多文化共生』、『世界と日本』、『芸術・メディア』の3コースを設ける。

- 各コースでは、学問領域を系統的に学修できるよう、入門的科目等の基礎科目、専攻科目をバランスよく配置してカリキュラムを展開する。
- 学生は、学科専攻科目46単位のうち34単位をコース提供科目から取得する。
- 3年次からは「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（「演習Ⅰ」は登録必修。各2単位）を開講し、各自の興味あるテーマについての学びを深める。
- 4年次に「卒業論文」（6単位）を履修し、論文としての結実を目指す。これにより、一貫して専任教員の下で少人数教育を受けることを可能とする。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- 留学生を積極的に受け入れ、また、充実したサポート体制の下に学生の海外留学（交換留学および私費留学）を推奨し、語学力向上とともに、授業内外での異文化理解の促進、異文化交流機会の拡充に努める。
- 他受講者や社会との関わりを持つことのできる国際または文化をテーマとした実践的な取り組みの機会（国際文化実践）を提供する。

〈教育方法〉

- ・学生が、自らの学修目的や進路希望に応じて各科目の性格や開講時期（担当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう、多様な授業形態（講義・演習・実習など）により科目を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要、到達目標、講義方法、授業評価の方法、授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

〈学修成果の評価〉

- ・学修成果の有無やその内容・水準等を評価するため、科目の特性に応じておおよそ次の4種類の方法のいずれか、または複数を合わせて評価する。
 - ①筆答試験による評価
 - ②レポート試験による評価
 - ③実技試験による評価
 - ④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

文化の多様性に接する学内環境の整備

本学部は、教育目標を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備しています。

1. 教員の38%は海外出身で、日本人教員の多くもバイリンガルです。海外出身教員の出身国・地域は、アメリカ、イギリス、フランス、ベルギー、スロバキア、ニュージーランド、フィリピン、中国、韓国、台湾と国際色豊かです。教員と日常的・意識的に接する機会を増やし、国際的な視野を身に付けるよう努めて下さい。
2. 本学部の前身である国際文化学部生を含めると約110名の外国人留学生在籍（2018年度）しており、キャンパスにいながらにして国際交流できる好環境にあります。留学生の苦勞を理解した上で、積極的にアプローチし、サポートすることは学部内の重要な国際交流になっています。身近なところから国際交流を始めることは、本格的な国際人への道につながります。また、海外からの留学生のために充実した日本語教育を提供し、また大学生活を支える教務課での対応を英語、中国語でも行うなどの事務体制を整えています。
3. 深草学舎 和顔館1Fに設置されている「グローバルコモンズ」において、留学生と交流できるラウンジ、外国語のスキルアップを目指すことができるスタジオや語学学習・各種試験対策ができるスペース（約130席）が整備されています。また、同「グローバルコモンズ」内には国際学部 に所属する学生からの留学に関する相談を随時受け付ける「国際学部 留学サポートデスク」が設置され、専門のアドバイザーに各種の相談ができる環境です。
4. 本学部では短期留学や長期留学などの留学制度を充実させており、本学部で身に付けた知識やスキルを海外で試し、高めることができます。また留学中に修得した単位を学部の卒業要件単位として認定することができ、4年間での卒業も可能となっています。より実践的な能力を身に付けたいと思っている人は早めに、そして計画的に自分の目的に合った留学形態を考えることができます。
5. 専門科目を中心に多くの科目を英語で開講しており、英語を使って専門分野を学修する機会が提供されています。また、学科間の垣根を越えて、それらの英語開講科目の一部を相互に受講する事ができます。特に将来、英語科教員を目指す学生は、英語による講義を受講することにより英語教育について幅広く考えることが重要です。
6. 専門性を育成する横習の選択肢を多く用意しています。現地調査やフィールドワークにもとづき卒業論文を進めていく演習や、英語で受講し、英語で卒業論文をまとめる演習など、さまざまな分野と地域にわたる演習があります。自分の研究スタイルと研究対象を早めに見つけ、有意義な卒業論文に取り組むために、方法論的な授業と知識中心の授業を系統的に履修しましょう。

本学部では以上の環境と共に、外国語科目や演習など、すべての学年で少人数教育を導入し、学生の主体的な参加を可能としています。このようなクラスは、コミュニケーション能力向上の練習の場となります。ただし、国際社会においては、自発的な行動とコミュニケーションが常識となっていますので、学生は自らの積極的な参加が不可欠であることを忘れてはなりません。大学生活では学生自身の積極性が最も重要であるため、こうした本学部独自の環境を大いに利用することを期待します。

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の3つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- ・修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- ・留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- ・障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- ・本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、保健管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人間の成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくよう取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to faceの面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

ガイダンス

学期の始めには各種ガイダンスが行われます。

履修説明会は、履修に関する詳細なガイダンスで、みなさんが学修の履修計画を立て、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンス等も開催されます。

これらの連絡は、次ページ「大学からの連絡・通知の掲示」のとおり行われるので、十分に注意してください。

大学からの連絡・通知の掲示

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行います。また、ポータルサイト上でも適宜、連絡や通知を行います。掲示やポータルサイトを見落とししたために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る、また、ポータルサイトを確認する習慣をつけましょう。

なお、電話による問い合わせには、一切応じません。

〈各種掲示内容別の掲示板とその位置〉

掲示板の名称	掲示の内容	設置場所
国際学部掲示板	履修方法、定期試験、レポート作成など、教育課程に関すること（一部休講・補講情報）	6号館（紫英館）東側 （短期大学部は、21号館1階）
学生部掲示板	奨学金やアルバイトなど、学生生活に関すること	樹林
教学部掲示板	履修方法など教育課程に関すること	6号館（紫英館）東側
学部共通コース掲示板	学部共通コースに関すること	
グローバル教育推進センター掲示板	留学生別科・JEP Kyoto・国際交流に関すること	6号館（紫英館）東側
教職センター掲示板	教職課程に関すること	6号館（紫英館）東側
キャリアセンター 掲示板	就職、資格講座などに関すること	5号館（紫明館）1階 キャリアセンター

（注）大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所が変更になる場合があります。

休講・補講・教室変更情報

本学開講科目にかかる休講・補講・教室変更情報については、ポータルサイト上で公開しています。

〈アクセス方法〉

手段	アクセス方法
Web版	本学ホームページ (https://www.ryukoku.ac.jp/) のクイックリンクにある「ポータルサイト」からアクセスしてください。ポータルサイトの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。
アプリ版	龍谷大学ポータルサイトアプリサポートWeb (https://ru.portal.ac/support/) からアプリをダウンロードしてください。初回利用時には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

〈公開期間〉

内容	公開期間	
休 講	30日後までの情報を公開	
補 講	予定している全ての情報を公開	
教室変更	臨時変更	30日後までの情報を公開
	恒常変更	前後30日分の情報を公開

〈注意事項・補足〉

- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
- ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。
- ・本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。
- ・休講、補講、教室変更情報の公開については、メールでの配信サービスも行っています。
Web版ポータルサイトの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。
- ・休講、補講、教室変更情報については、本学のポータルサイト以外に一部掲示板でも公開しています。

第1部 履修の心得

I 履修をはじめるときにあたって

大学では、履修や学生生活に関するすべてのことが自分の責任に委ねられています。それだけに、各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんは、これら2つの「授業科目の区分」から、卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また、各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が教育方針に基づいて配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、履修計画を立てるときには、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

2. 系統的に科目を履修すること

大学での学業は、学部毎に定められた所定の要件を満たすことで完了しますが、その一環として一定の単位数を修得する必要があります（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたには多くの組合せがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数をそろえるだけの履修は、たとえ4年間で学んだとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて、各科目の性格やその科目の配当セメスターを考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんの自ら選んだテーマに主体的に取組み、専門的な視点に立って研究することが肝要になります。「演習」をはじめる前に、「演習」における自身のテーマの研究にとって土台となる知識や思考力、さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に授業を受けるだけでなく、授業そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、授業以外に自主的な学修が必要です。そのため、シラバス（講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したもの）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、授業を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問をしたり、友人・先輩とディスカッションをしたりすることで理解を深めることも大切です。

4. オフィスアワー

国際学部専任教員のオフィスアワーを国際学部掲示板・ポータルサイトなどでお知らせします。

- (1) オフィスアワーとは、学生の皆さんが、事前に面会の約束をせずに教員の研究室を自由に訪れてよい時間です。教員は授業の内容や学習方法、学修上の問題等について質問や相談に応じます。
- (2) 教員は特定の時間帯をオフィスアワーとして設け、その時間は必ず研究室に在室することになっています。ただし、会議や出張などの理由により、やむを得ず不在にする場合もあります。

オフィスアワーに教員を訪ねる際に予約は必要ありませんが、事前に相談事項をメール等で伝えておくと、スムーズな問題解決につながるかもしれません。

オフィスアワーの時間帯でなくても、教員が在室しており、都合が悪くなければ、学生からの質問・相談に応じますので、遠慮無く研究室を訪ねてください。

Ⅱ シラバス

1. シラバスとは何か

シラバス (Syllabus) とは、各科目の講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したものです。

本学で開講されている全ての科目は、あらかじめWeb上に公表されたそれぞれのシラバスに沿って実施されます。

シラバスには、科目名だけでは分からない、詳細な情報が記載されています。学生の皆さんはシラバスを熟読し学習計画を立て、系統的な履修を行ってください。

2. シラバスに記載されている情報

シラバスには、主に次のような情報が掲載されています。

- ① 科目名とサブタイトル (授業テーマ)
- ② 講義概要
- ③ 到達目標
- ④ 講義方法
- ⑤ 授業時間外における予・復習の指示
- ⑥ 系統的履修のための補足情報
- ⑦ 成績評価の方法
- ⑧ テキスト・参考文献
- ⑨ 履修上の注意・担当者からの一言
- ⑩ オフィスアワー・教員との連絡方法
- ⑪ 講義計画 (各回の学修内容やキーワード)

※授業計画、授業時間外における予・復習の指示、参考文献、履修上の注意・担当者からの一言、オフィスアワー・教員との連絡方法、講義計画については、授業期間中に変更されることがあります。最新の情報を参照してください。

3. シラバスの利用方法

シラバスはすべてWeb上で公開されています。ポータルサイトからリンクをたどって参照してください。

Ⅲ 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修は単位制で行われています。単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

<単位とは>

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では、単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では、1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では、学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位
学期連結型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき） ＝4単位

○外国語・スポーツ・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき） ＝1単位
学期連結型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位

<単位の認定>

1つの授業科目に定められた単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- (2) その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- (3) その科目の試験を受け、その成績評価で合格（60点以上）をすること。（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限りません。詳細は、シラバスの成績評価の方法で確認して下さい。）

2. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この手続きをしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まなければなりません。

<履修登録の方法>

後に説明するセメスター制により、履修登録は、第1学期、第2学期の年2回行われます（ただし、4年次生以上は、第1学期に第2学期開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。

第1学期履修登録は、第1学期開講科目と学期連結型（通年）科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。

第2学期履修登録は、第2学期開講科目を登録します。なお、第2学期登録時に学期連結型（通年）科目の履修を放棄して別の第2学期開講科目を登録することはできません。

3. 授業科目の履修

履修登録をした科目を履修するということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容には、授業形態に応じて、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修（予・復習）とを含んでいます。

このうち、授業時間内における学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。**総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。**

また、授業時間外における自主的な学修（予・復習）は、「シラバス」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっているとと言えます。

4. 授業時間

本学における1回の授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して、各講時の時間帯は次のとおりです。

<授業配置時間>

	時間帯	月	火	水	木	金	土
1 講時	9:00 ~ 10:30	○	○	○	○	○	○
2 講時	10:45 ~ 12:15	○	○	○	○	○	○
3 講時	13:15 ~ 14:45	○	○	○	○	○	○
4 講時	15:00 ~ 16:30	○	○	○	○	○	○
5 講時	16:45 ~ 18:15	○	○	○	○	○	
6 講時	18:25 ~ 19:55	○	○	○	○	○	
7 講時	20:05 ~ 21:35	○	○	○	○	○	

5. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書(学位記)です。卒業するためには、教育課程(カリキュラム)にしたがって学修し、学部毎に定められた所定の要件を満たすことが必要で、その一環として、124単位以上を修得しなければなりません。

<卒業の要件>

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

(1) 所定在学年数

本学の教育課程(カリキュラム)を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間は所定在学年数に加えません。

(2) 所定単位の修得

本学の教育課程(カリキュラム)は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定しています(詳細は「第2部 教育課程」の「I. 教育課程の編成方法」を参照)。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

科目区分	必要単位数	必修・選択科目
①学科外国語科目	20	1年次：英語週5回または初修外国語週3回+英語週2回 (必修・20単位) 2年次：英語週3回または初修外国語週3回 (必修・20単位)
②教養教育科目	18	仏教の思想A・B(必修・4単位) 教養科目(基幹科目) 人文科学系科目(選択必修・2単位) 社会科学系科目(選択必修・2単位) 自然科学系科目(選択必修・2単位) 選択科目(選択・8単位)
③学科基礎科目	16	基礎演習A、基礎演習B、国際文化学入門(必修・6単位)
④学科専攻科目	46	所属コースが提供する科目(演習Ⅱ～Ⅳ・卒業論文含む) から34単位以上 「演習Ⅰ」(登録必修・2単位)
⑤国際文化実践	4	「国際文化実践Ⅰ」(必修・2単位) 「国際文化実践ⅡA～ⅡG」(選択必修・2単位)
⑥フリーゾーン	20	
合計	124	

(注) フリーゾーンについて

卒業要件124単位の内、各①～⑤の必要単位を超えた単位数が「フリーゾーン」として認定されます。

(参考) 卒業要件とフリーゾーンへの流れ

科目区分	仏教思想	教養教育	外国語	基礎必修	基礎選択	専攻必修	専攻選択	国際文化実践	フリーゾーン	合計
単位数	4	14	20	4	12	34	12	4	20	124
余剰単位はフリーゾーンで認定										

<卒業の時期>

(1) 卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

(2) 9月卒業の取り扱い

教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の者について、前期終了時（9月）に卒業を認定することがあります。

(注) 9月卒業を希望する者は、4月の登録関係書類配付時に申し出て、所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください（本人の申し出がなければ、9月卒業の対象にはならないので注意してください）。

Ⅳ 授業科目の開設方法

1. セメスター制

国際学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1学年を、原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分^{*}し、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目は、それを履修し単位を修得しないと卒業することができない科目です。また、選択必修科目も同じ性格を有する科目です。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

※実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分・日程は、毎年度、学年暦によって決定されます。

2. 授業科目の開設方法

各授業科目は、原則として各セメスターを単位として開設されていますが、実際には科目の性格等により次の2つの開講方式をとっています。

① 【学期完結型（前期・後期型）】		講義科目	外国語科目	実技科目
	[学期]	2単位		1単位
	(授業15週間)	4単位		2単位
	[週1回]			
	[週2回]			
② 【学期連結型（通年型）】		講義科目	外国語科目	実技科目
	[学期]	4単位		2単位
	(授業30週間)			
	[週1回]			

[留意点]

- 学期完結型として開講される4単位の講義科目および2単位の初修外国語科目は、1週間に2回（例えば月曜日1講時と木曜日1講時）の授業を行い、1つの学期で完結するものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことにはならないので、注意する必要があります。
- 学期連結型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が1週間に1回の授業を行い、2つの学期（1年間）で完結するものです。
- 同一科目の授業が第1学期（前期）・第2学期（後期）とも開講される場合があります。この場合は、特に指定のある場合を除き、いずれの学期で履修しても構いません。
(注1) それぞれの科目には配当セメスターが設定されています。設定された配当セメスター以降の履

修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や担当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。

(注2)すでに修得した科目(=既修得科目)の再履修はできません。

(4) サマーセッションを利用して開講される科目については、下記の取扱となります。

区 分	取扱学期	期間・留意事項
サマーセッション	第2学期 (後期)科目	・開講期間については、掲示等で確認してください。 ・第1学期(前期)開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。

(注)履修登録できる科目数は2科目までとなります。

授業日程が他の科目と重複する場合は、1科目しか履修登録できない場合がありますので、各科目の開講日程に注意してください。

サマーセッションの開講期間・開講場所などについては、別途掲示等にてお知らせします。

3. 学期完結型授業科目の開講方式

学期完結型授業のうち、週2回開講方法をとる授業は時間割上、原則として一定の規則(組合せ)にしたがって配置されています。

この科目は、週2回の授業を1学期間継続して受講し、合格することではじめて定められた単位を修得したことになります。

週2回のうち一方の授業時間に、誤って他の科目を履修登録した場合は、それらに関する登録は無効となりますので注意してください。

学期完結型授業(週2回開講科目)の開講組合せ(原則)

月1 - 木1	火1 - 金1	水1 - 土1
月2 - 木2	火2 - 金2	水2 - 土2
月3 - 木3	火3 - 金3	
月4 - 木4	火4 - 金4	

注1)見方:「月1」は「月曜日1講時」を示しています。

注2)1日に2講時連続で開講される科目もあります。

4. 授業科目と授業テーマ

「授業科目」は単位を認定する区分を示すものです。講義科目はこの授業科目名のみではどのような内容の授業であるか判断ができないことから、原則として「授業テーマ」が示されています。

同じ授業科目名で複数のクラスが開講されている場合は、特に指定の無い限りどの授業テーマのクラスを履修しても構いません。ただし、単位の認定を受けることができるのは1つの科目に対して1回だけです(授業テーマが異なっていたとしても、同じ授業科目を複数クラス履修することはできません)。

また「授業科目」を選ぶにあたっては、「シラバス」で講義の進め方、系統的履修の方法等を確認してください。

5. 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、履修要件として指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。先修制が設定されている科目は次のとおりです。

【必修外国語・英語】

科目名	履修要件となる科目名
EC II -Speaking	EC I -Speaking
EC II -Writing	EC I -Writing
EC II -Reading	EC I -Reading
EC III -Speaking	EC II -Speaking
EC III -Writing	EC II -Writing
EC III -Reading	EC II -Reading
EC IV -Speaking	EC III -Speaking
EC IV -Writing	EC III -Writing
EC IV -Reading	EC III -Reading
EC II -Seminar A	EC I -Seminar A
EC II -Seminar B	EC I -Seminar B

※EC：English Communicationの略

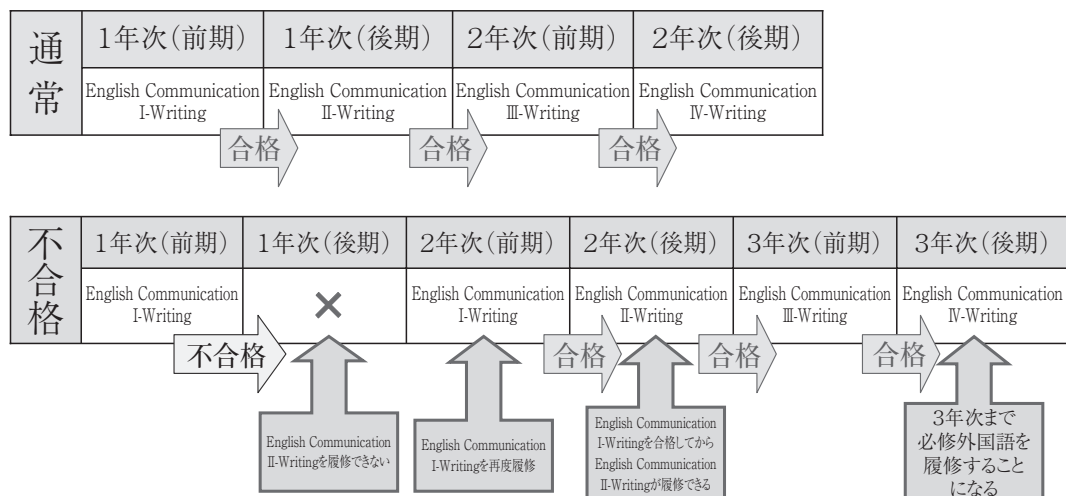
【国際文化実践】

科目名	履修要件となる科目名
国際文化実践Ⅱ	国際文化実践Ⅰ

⚠ 注意事項

※フランス語・中国語・ロシア語・日本語を「外国語」と表記しています。

〈参考〉先修制について



6. グレイドナンバー制

国際学部で開設される授業科目には、グレイドナンバーが付されています。これは科目のレベルを簡明に表示したものです。学修計画の設計にあたって、参考にしてください。

(1) 国際文化学科開設科目のグレイドナンバーについて

アルファベットと数字を組み合わせた6桁のグレイドナンバーが設定されています。このグレイドナンバーから、「開設学科」「配当年次」「科目分野」「授業で使用される言語」を判断することができます。

例) English Communication I -Speaking (C1101X)

$\frac{C}{①} \frac{1}{②} \frac{1}{③} \frac{01}{④} \frac{X}{⑤}$

- ①開設学科を表します：C=国際文化学科 / G=グローバルスタディーズ学科
- ②配当年次を表します：1=1年次、2=2年次など
- ③科目分野を表します：1=学科外国語、2=学科基礎、3=学科専攻（コース共通）、4=学科専攻（多文化共生）、5=学科専攻（世界と日本）、6=学科専攻（芸術・メディア）、7=演習、8=卒業論文、9=国際文化実践
A=学科専攻（多文化共生／世界と日本／芸術・メディア）
- ④科目番号を表します：1-99
- ⑤教授言語を表します：J=日本語、E=英語、B=日本語と英語の併用、X=担当教員による、Y=その他

(2) グローバルスタディーズ学科提供科目のグレイドナンバーについて

アルファベットと数字を組み合わせた6桁のグレイドナンバーが設定されています。このグレイドナンバーから、「開設学科」「配当年次」「科目分野」「授業で使用される言語」を判断することができます。

例) 英語 (Reading) I (G1101B)

$\frac{G}{①} \frac{1}{②} \frac{1}{③} \frac{01}{④} \frac{B}{⑤}$

- ①開設学科を表します：G=グローバルスタディーズ学科 / C=国際文化学科
- ②配当年次を表します：1=1年次、2=2年次など
- ③科目分野を表します：1=学科外国語、2=学科基礎、3=学科専門、4=演習、8=留学、9=その他
- ④学問領域を表します：10～=C分野、20～=G分野、30～=E分野、40～=C+G分野、50～=C+E分野、60～=G+E分野、70～=C+G+E分野、80/90～=その他
- ⑤教授言語を表します：J=日本語、E=英語、B=日本語と英語の併用、X=担当教員による、Y=その他

(3) 教養教育科目のグレイドナンバーについて

以下の基準で、3桁の数字のグレイドナンバーが設定されています。

	基 礎				→	応 用	
グレイド	100	200	300	400	500		

V 履修登録

1. 履修登録手続スケジュール

履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト (<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/kyoga/rishu/>) で確認してください。

2. 履修登録制限単位数

大学での学修においては、単位制度の趣旨、教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、国際学部では次のとおり**履修登録制限**を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よく考えて卒業までの履修計画を立てる必要があります。

所属セメスター 学部	1	2	3	4	5	6	7	8	計
1年次入学生	22	22	22	22	22	22		48	180
3年次編転入学生					24	24		48	96

(注1) 編転入学した者のカリキュラムは、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた学年の在學生と同様のカリキュラムを適用します。再入学した者については、原則離籍前と同年度のカリキュラムを、復学した者については、休学前と同年度のカリキュラムをそれぞれ適用します。

(注2) 通年科目の単位数は、第1学期と第2学期で2分割して計算します。

(注3) この履修制限には、以下の科目は含まれないことから、制限単位を超えて履修登録することができます。ただし、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）や健康管理の点からすれば、制限単位を大幅に超える登録は好ましくありません。

- ① 随意科目（授業時間割表に「随意」、「教職」、「本山」のいずれかの記号のある科目）
- ② 授業期間外に開講される科目（国際文化実践ⅡA～G含む）
- ③ 大学コンソーシアム京都科目（単位互換科目、インターンシップ）

3. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だって行われるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この手続きをしなければ受講できません。

履修登録 — 1) 予備登録 ……………	受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。
（広義）	教養教育科目においてこの手続きが必要です。
2) 事前登録 ……………	受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより決めます。
	一部の専攻科目においてこの手続きが必要です。
3) 履修登録（本登録） ……	履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が
（狭義）	確定します。

4. 履修登録要件

(1) 履修登録要件

有効な履修登録を行うためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目は、担当されているセメスターに登録してください。
- ② 所属年次に担当されている授業科目以外に下級年次担当の授業科目を登録することができます。ただし、諸事情により不開講となる場合や開講期（開講セメスター）が変更される場合がありますので注意してください。
- ③ 履修登録は授業時間割表に従って登録してください（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結型授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください）。
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑤ 二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑥ 各セメスター（学期）および各年次において、定められている履修登録制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、掲示板に掲示します。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、国際学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期間に必ず登録してください。
履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト（<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>）で確認してください。
- ④ 履修登録は確実にを行うため、パソコンで行ってください。
- ⑤ 受講登録確認表の出力による登録確認

本人が登録した授業科目は、登録完了後、各自がその場で「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、国際学部教務課窓口へ申し出てください。また、出力した受講登録確認票は、必ず保管してください。

5. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、「授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合」や「受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合」など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履修は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修が記録として残ります。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、『履修要項』および『シラバス』を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履修および履修辞退履修として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	選択必修科目については、学部（学科・専攻・コース）によって取扱が異なる場合があります。
事前登録が必要となる科目（注）	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習、介護等体験に関する科目	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
サマーセッション科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・専攻・コース）において設定する科目別表「学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり。

（注）教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

◆学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部等	履修辞退の対象外とする科目
国際学部 国際文化学科	事前登録が必要となる科目 演習 I～IV

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は各学期において1週間程度設けられます。履修説明会・ポータルサイト等で確認してください。

(5) 履修辞退の申出方法

履修辞退の申出期間にポータルサイトの「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中にポータルサイトを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に国際学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目について、第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目の単位数は履修登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に学期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出による授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年科目の辞退を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の授業料は徴収しません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

6. 配当セメスターの考え方

それぞれの科目には配当セメスターが設定されており、設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示しています。

- 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- 配当セメスターにかかわらず、開講期（開講セメスター）は年度により変更することがあります。
- 一部の科目については、配当セメスター以外での履修を行うことができないなどの特性があります。詳細は、国際学部教務課窓口にて確認してください。
- 9月入学・半期休学等の理由により、科目配当に極端な不利益があると判断されるときは、配当セメスターより前の履修を認めることがあります。ただし、履修登録にあたっては予め国際学部教務課窓口で相談してください。

Ⅵ 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価には、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（=既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90~100点)	A (80~89点)	B (70~79点)	C (60~69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月中旬、第2学期（後期）分を3月下旬に配付します。期日と場所は、別途掲示等でお知らせします。

3. GPA 制度

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達度判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。

GPAは、各教科の評価点（100点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

評価点	グレイドポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\Sigma (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\Sigma (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「心の科学」（2単位）80点、「人権論A」（2単位）40点、「アジアの歴史」（4単位）76点を登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = \frac{(2 \times 4) + (2 \times 3) + (2 \times 0) + (4 \times 2)}{2 + 2 + 2 + 4} = \frac{22}{10} = 2.2$$

※随意科目、履修辞退した科目については、ここでいう登録科目には含みません。

※成績を評価点（100点満点）で評価しない科目は算入しません。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、国際学部教務課窓口に提出してください。**授業担当者に直接申し出てはいけません。**

なお、申出期間については、別途掲示等で確認してください。

5. 筆答試験の時期

定期試験（学期末・学年末試験）	個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験
追試験	定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験（追試験の項を参照のこと）

6. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。
- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

7. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること。
- (2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- (3) 学生証を携帯すること。
- (4) 学生証は写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。

万一学生証を忘れた場合には、事前に国際学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。

- (5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- (8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

8. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合
- (2) 指定された場所に提出しない場合
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合
- (4) 受験態度の不良な場合

9. 筆答試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合
 - ② 監督者の指示に従わない場合
 - ③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合
 - ④ カンニングペーパー等を所持していた場合
 - ⑤ 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合
 - ⑥ 許可された以外のものを参照した場合
 - ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合
 - ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合
 - ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合
 - ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合

10. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

11. 追試験

(1) 追試験の受験資格

追試験は次の各号のいずれかの理由により定期試験を欠席し、所属学部が認めると受験することができます。

- ① 病気、怪我又は試験時における体調不良等
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀への参列
- ③ 公認サークルの公式戦への選手としての参加
- ④ 交通機関の遅延等
- ⑤ 交通事故、災害等
- ⑥ 就職活動（説明会、筆記試験、面接等）
- ⑦ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）の受験
- ⑧ 単位互換科目の試験受験
- ⑨ インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）又は博物館実習への参加
- ⑩ 裁判員（候補者）への選任
- ⑪ 短期大学部における実習等への参加により本学学部の定期試験を受験できなかった場合
- ⑫ その他所属学部が特に必要と認める理由

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に国際学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取り扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取ることができるもの」のみを証明書として取り扱います。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に国際学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

(2) 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

(3) 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

詳細については、定期試験前に国際学部掲示板にて確認してください。

12. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルサイトにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時刻	終了時刻	
		教養教育科目 文・経済・経営・政策・国際学部専攻科目 短期大学部共通科目・専攻科目 学部共通コース科目 諸課程科目 (60分)	法学部専攻科目 (70分)
1講時	9:00	10:00	10:10
2-A講時	10:30	11:30	11:40
2-B講時	12:00	13:00	13:10
3-A講時	13:30	14:30	14:40
3-B講時	15:00	16:00	16:10
4講時	16:30	17:30	17:40
5講時	18:00	19:00	19:10
6講時	19:15	20:15	-
7講時	20:30	21:30	-

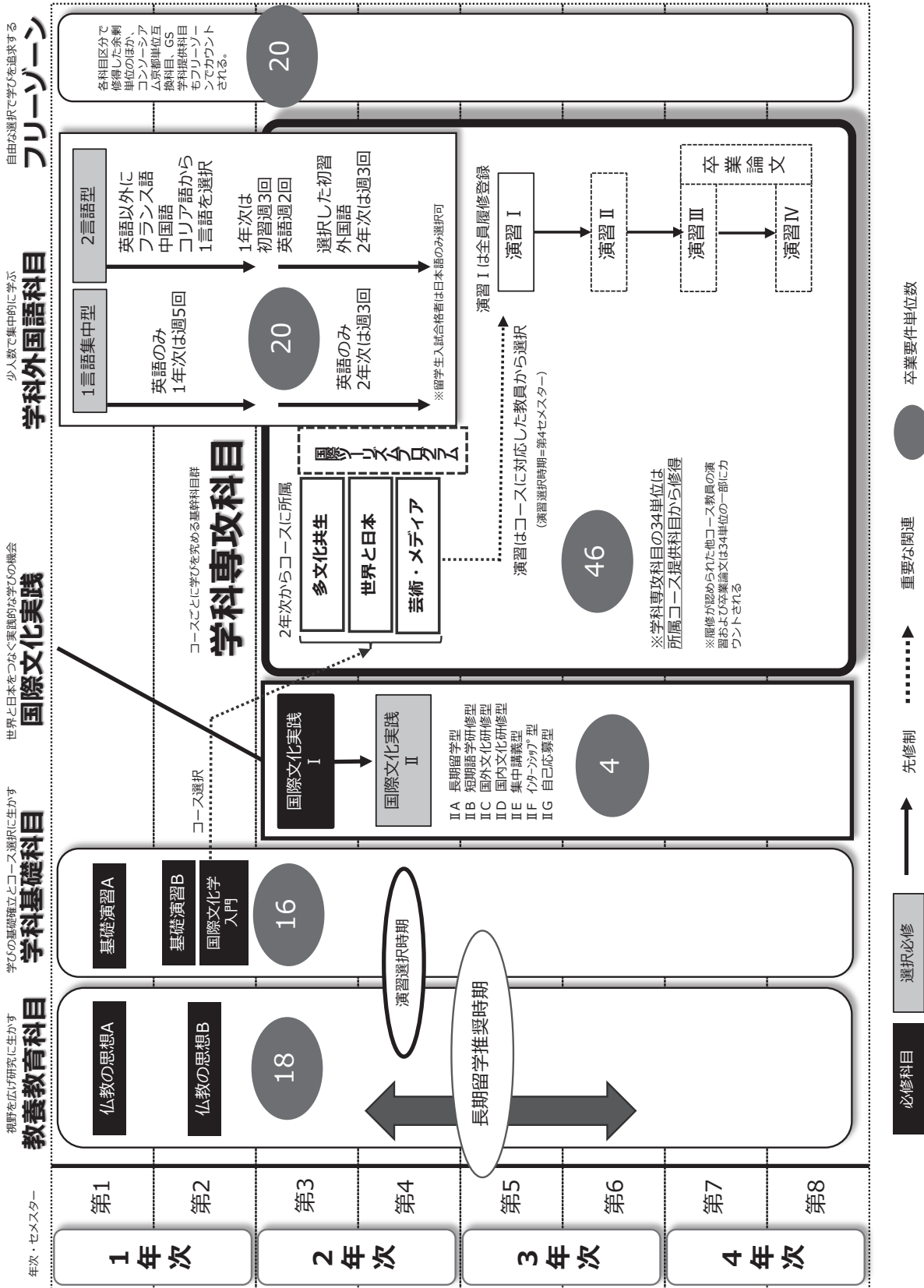
(注1) 教養教育科目および学部共通コース科目のうち、学部提供科目については、当該学部が定める試験時間となります。

(注2) 科目の特性によって、試験時間を変更することがあります。

第2部 教育課程

I 教育課程の編成方法

国際文化学科 カリキュラム概念図



1 年生
1 セメスター 2 セメスター

● 学科基礎科目
基礎演習A
基礎演習B
国際文化学入門

■ 外国語 (1・2 年生)
○ 1 言語集中型 (英語)
English Communication I-IV (Speaking, Writing, Reading)
English Communication I・II (Seminar A/B)

○ 2 言語型 (フランス語・中国語・コリア語)
フランス語 I-IV 中国語 I-IV コリア語 I-IV
English Communication I・II (Seminar A/B)
※留学生入試合格者は「日本語」を選択

● 学科基礎科目

キャリア・ガイダンス
現代経済と文化
文化人類学入門
多文化共生入門
多文化交流入門
宗教学概論 (初級/上級)
映像文化入門
環境共生論入門
まちづくり入門
社会心理学
言語と文化入門
歴史入門
東アジアの地域交流



コース選択



2 年生
3 セメスター 4 セメスター

■ 国際文化実践 (2 年生 ~ 4 年生)
国際文化実践 I A ~ F

● 学科専攻科目 (共通)
English Workshop A/B 上級英語 A/B Advanced English A ~ D フランス語セミナー I-III コリア語セミナー I-III 日本語セミナー E ~ H
ヘルシア語セミナー I A/B ヘルシア語セミナー II A/B トルコ語セミナー II アラビア語セミナー II スペイン語セミナー II ドイツ語セミナー II
ロシア語セミナー I-IV ポルトガル語セミナー I-IV 実践フランス語 A/B 実践中国語 A/B 実践コリア語 A/B ケーブル時代の切り設計

海外留学 [交換留学・私費留学・短期留学 (学科企画・自己応募) ・ BIE プログラム]

グローバルスタディーズ学科提供科目

● 学科専攻科目 (コース提供科目から34単位以上修得)

多文化共生コース
住居環境概論 居住環境概論 多文化共生と宗教 キリスト教の文化 B 環境人類学 環境保全論
フィールド実習 イスラームの文化 B イスラームの社会 B イスラームの社会 A 言語と文化 B 言語と文化 A
音声学概論 NGO / NPO 論 国際政治学入門 都市計画論 比較宗教思想 自然と文化 社会調査法 英語外書講読 A 英語外書講読 B 比較言語学

世界と日本コース
世界の宗教と日本 日本の宗教 日本の仏教文化 アジアの仏教文化 アジアの文化遺産 東アジアの古代文化 中央アジアと日本 日本の経済と社会
国際人口移動 国際経済と日本 海外における日本観 オセアニアと日本 パンパシフィックの移民 日本の社会 日本の言語文化 日本語からみた歴史と文化
日本語教育入門 日本語教育実践 日本の思想 日本の近現代と国際関係 京ことばと京文化 世界と日本の民俗 世界と日本の文学 Comparative Culture

芸術・メディアコース
映像文化論 A 映像文化論 B 映像文化論 C 映像文化論 D 映像文化論 E 大衆文化論 A 大衆文化論 B 大衆文化論 C 大衆文化論 D 大衆文化論 E
メディア文化論 A メディア文化論 B メディア文化論 C メディア文化論 D 芸術表現法 A 芸術表現法 B 芸術表現法 C 芸術表現法 D 芸術表現法 E 日本の美術
アジアの美術 西洋の美術 音楽芸術論 アートマネジメント 伝統芸能論 欧米の演劇

国際ツーリズムプログラム (コース横断型)
観光学入門 観光社会学 ホスピタリティ論 観光心理学 国際観光論 観光文化論 A / B 京都観光学 A / B 文化・観光政策 旅行の法律 旅行の契約
国内旅行の実務 海外旅行の実務 実践フランス語 C / D 実践コリア語 C / D 実践中国語 C / D English Workshop C / D

3 年生
5 セメスター 6 セメスター

● 演習
演習 I (登録必修) 演習 II 演習 III 演習 IV
卒業論文

● 学科専攻科目 (共通)
English Workshop A ~ D フランス語セミナー I-III コリア語セミナー I-III 日本語セミナー E ~ H
ヘルシア語セミナー I A/B ヘルシア語セミナー II A/B トルコ語セミナー II アラビア語セミナー II スペイン語セミナー II ドイツ語セミナー II
ロシア語セミナー I-IV ポルトガル語セミナー I-IV 実践フランス語 A/B 実践中国語 A/B 実践コリア語 A/B ケーブル時代の切り設計

海外留学 [交換留学・私費留学・短期留学 (学科企画・自己応募) ・ BIE プログラム]

グローバルスタディーズ学科提供科目

● 学科専攻科目 (コース提供科目から34単位以上修得)

多文化共生コース
住居環境概論 居住環境概論 多文化共生と宗教 キリスト教の文化 B 環境人類学 環境保全論
フィールド実習 イスラームの文化 B イスラームの社会 B イスラームの社会 A 言語と文化 B 言語と文化 A
音声学概論 NGO / NPO 論 国際政治学入門 都市計画論 比較宗教思想 自然と文化 社会調査法 英語外書講読 A 英語外書講読 B 比較言語学

世界と日本コース
世界の宗教と日本 日本の宗教 日本の仏教文化 アジアの仏教文化 アジアの文化遺産 東アジアの古代文化 中央アジアと日本 日本の経済と社会
国際人口移動 国際経済と日本 海外における日本観 オセアニアと日本 パンパシフィックの移民 日本の社会 日本の言語文化 日本語からみた歴史と文化
日本語教育入門 日本語教育実践 日本の思想 日本の近現代と国際関係 京ことばと京文化 世界と日本の民俗 世界と日本の文学 Comparative Culture

芸術・メディアコース
映像文化論 A 映像文化論 B 映像文化論 C 映像文化論 D 映像文化論 E 大衆文化論 A 大衆文化論 B 大衆文化論 C 大衆文化論 D 大衆文化論 E
メディア文化論 A メディア文化論 B メディア文化論 C メディア文化論 D 芸術表現法 A 芸術表現法 B 芸術表現法 C 芸術表現法 D 芸術表現法 E 日本の美術
アジアの美術 西洋の美術 音楽芸術論 アートマネジメント 伝統芸能論 欧米の演劇

国際ツーリズムプログラム (コース横断型)
観光学入門 観光社会学 ホスピタリティ論 観光心理学 国際観光論 観光文化論 A / B 京都観光学 A / B 文化・観光政策 旅行の法律 旅行の契約
国内旅行の実務 海外旅行の実務 実践フランス語 C / D 実践コリア語 C / D 実践中国語 C / D English Workshop C / D

4 年生
7 セメスター 8 セメスター

● 演習
演習 I (登録必修) 演習 II 演習 III 演習 IV
卒業論文

● 学科専攻科目 (共通)
English Workshop A ~ D フランス語セミナー I-III コリア語セミナー I-III 日本語セミナー E ~ H
ヘルシア語セミナー I A/B ヘルシア語セミナー II A/B トルコ語セミナー II アラビア語セミナー II スペイン語セミナー II ドイツ語セミナー II
ロシア語セミナー I-IV ポルトガル語セミナー I-IV 実践フランス語 A/B 実践中国語 A/B 実践コリア語 A/B ケーブル時代の切り設計

海外留学 [交換留学・私費留学・短期留学 (学科企画・自己応募) ・ BIE プログラム]

グローバルスタディーズ学科提供科目

● 学科専攻科目 (コース提供科目から34単位以上修得)

多文化共生コース
住居環境概論 居住環境概論 多文化共生と宗教 キリスト教の文化 B 環境人類学 環境保全論
フィールド実習 イスラームの文化 B イスラームの社会 B イスラームの社会 A 言語と文化 B 言語と文化 A
音声学概論 NGO / NPO 論 国際政治学入門 都市計画論 比較宗教思想 自然と文化 社会調査法 英語外書講読 A 英語外書講読 B 比較言語学

世界と日本コース
世界の宗教と日本 日本の宗教 日本の仏教文化 アジアの仏教文化 アジアの文化遺産 東アジアの古代文化 中央アジアと日本 日本の経済と社会
国際人口移動 国際経済と日本 海外における日本観 オセアニアと日本 パンパシフィックの移民 日本の社会 日本の言語文化 日本語からみた歴史と文化
日本語教育入門 日本語教育実践 日本の思想 日本の近現代と国際関係 京ことばと京文化 世界と日本の民俗 世界と日本の文学 Comparative Culture

芸術・メディアコース
映像文化論 A 映像文化論 B 映像文化論 C 映像文化論 D 映像文化論 E 大衆文化論 A 大衆文化論 B 大衆文化論 C 大衆文化論 D 大衆文化論 E
メディア文化論 A メディア文化論 B メディア文化論 C メディア文化論 D 芸術表現法 A 芸術表現法 B 芸術表現法 C 芸術表現法 D 芸術表現法 E 日本の美術
アジアの美術 西洋の美術 音楽芸術論 アートマネジメント 伝統芸能論 欧米の演劇

国際ツーリズムプログラム (コース横断型)
観光学入門 観光社会学 ホスピタリティ論 観光心理学 国際観光論 観光文化論 A / B 京都観光学 A / B 文化・観光政策 旅行の法律 旅行の契約
国内旅行の実務 海外旅行の実務 実践フランス語 C / D 実践コリア語 C / D 実践中国語 C / D English Workshop C / D

■ … 必修 ● … 選択

1. 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8 Semester）にわたっており、国際文化学科の内容は次のとおり構成されています。これらの分類のことを「授業科目の区分」といいます。

- ・教養教育科目（「仏教の思想」科目、「教養科目」）
- ・専攻科目（「外国語科目」、「学科基礎科目」、「学科専攻科目」、「国際文化実践プログラム」）

2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目

すべての科目は「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」、「随意科目」のいずれかに指定されています。

「必修科目」 卒業要件を満たすために必ず履修し単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

「選択必修科目」 指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して単位を修得しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。

「選択科目」 該当の分野からどの科目を履修するかはすべて学生の選択に任されている科目です。ただし、卒業要件上、一定の単位数を修得することが義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

「随意科目」 主として各種の資格取得にかかわる科目であって、卒業要件とは無関係です。そのため、随意科目は教養教育科目、学部専攻科目の区分の外に置かれます。

3. クラスの編成

- (1) クラスとは
クラスとは教育上の効果を考慮して、受講者を適切な規模に分割したものです。
- (2) クラスの種類
クラスには次の種類があります。
 - ① 必修外国語クラス
 - ② 学部専攻教育クラス（基礎演習等）これらはそれぞれに定員が異なるためクラスの構成員は一致しません。

4. コース制

2年次から全員が「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」のいずれかのコースに所属します。所属コースによって、日本を含む世界の多様な言語と文化を学ぶに当たり、どの様な分野・対象・方法等から深く学ぶかが変わってきます。

5. 国際ツーリズムプログラム (International Tourism Program)

所属コースにかかわらず、2年次から希望すれば「国際ツーリズムプログラム」の科目を履修できます。但し、国際ツーリズムプログラムの修了証を得るためには、修了要件を充足するための科目及び単位数を取得することが必要です。

Ⅱ 教養教育科目の教育目的および履修方法

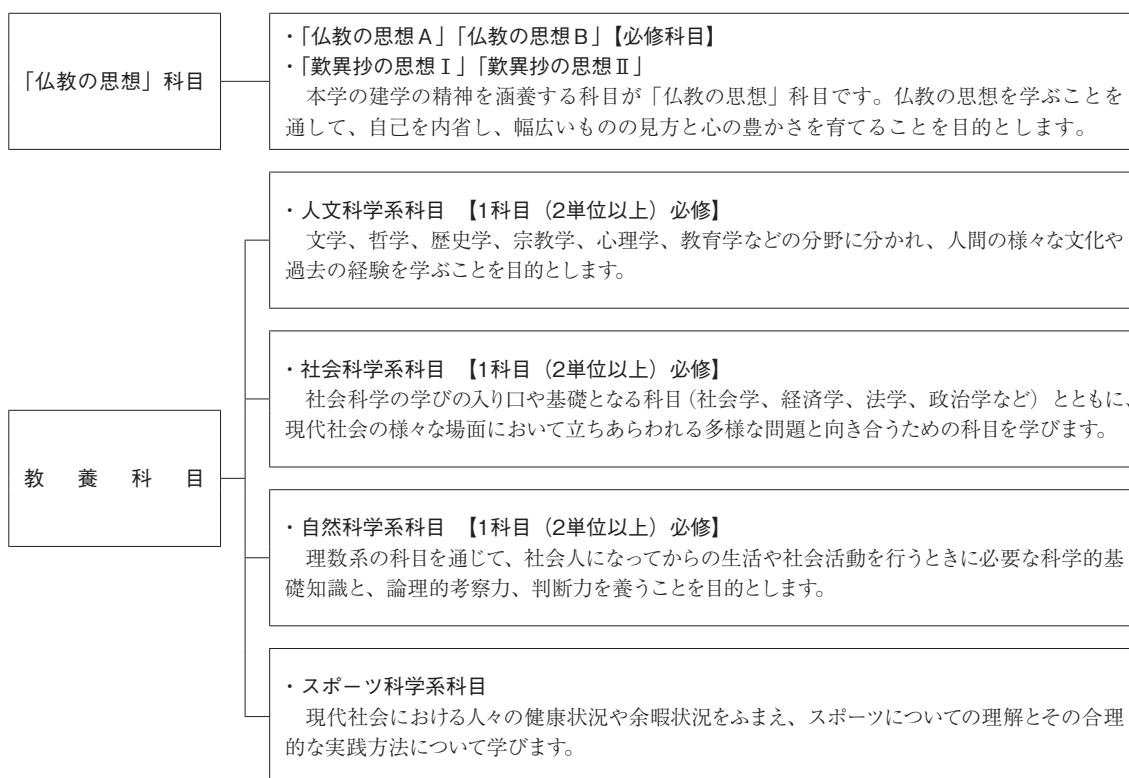
1. 教養教育とは

(1) 教養教育の理念・目的

龍谷大学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

(2) 教養教育科目とは

教養教育は、「仏教の思想」科目、教養科目の科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。



2. 「仏教の思想」科目

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想A」「仏教の思想B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」が開講されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性と

なっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また、入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、次のような教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法

① 必修科目

「仏教の思想A」「仏教の思想B」は必修科目です。配当されたセメスターにおいて必ず履修してください。

② 選択科目

「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」は選択科目で、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

③ クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、「仏教の思想A」「仏教の思想B」は同一の授業担当者になります。

学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。

なお、9月入学生については、所属学部教務課の指示にしたがって履修してください。

④ 「仏教の思想A」「仏教の思想B」の再履修

配当されたセメスターで不合格となった場合は、2年次以降に次のとおり再度履修してください。

なお、この場合は、上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。各自、履修登録を行ってください。

年次	セメスター	科目名
2年次	3	「仏教の思想A」(正規クラスを再履修として履修)
	4	「仏教の思想B」(正規クラスを再履修として履修)
3年次～ (※)	5	「仏教の思想A」(正規クラスを再履修として履修) 「仏教の思想B」(再履修クラス)
	6	「仏教の思想A」(再履修クラス) 「仏教の思想B」(正規クラスを再履修として履修)

(※) 3年次生以上は、同一セメスターで、A・Bを同時履修することが可能です。

3. 教養科目

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている基幹科目（学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目）の中から各1科目（2単位）以上修得する必要があります。なお、「スポーツ科学系科目」及び2単位を超えて修得した基幹科目の単位については、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

人文科学系科目

人文科学は、人間の様々な文化や過去の経験を研究する学問領域で、大きくは文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などに分かれます。人文科学系科目では、先入観や偏見から自由になってものごとを考える力、芸術作品を鑑賞する能力、感情や意見の表現の仕方、人間の心理を理解する方法などを身につけることを目的にしています。

社会科学系科目

社会科学（社会学、経済学、法学、政治学など）は、絶えず変動し複雑さを増す現代社会を広く見渡すとともに、現代社会の諸問題を多角的に捉え、思考・判断する力を養います。そのために、様々な学問分野が培ってきた「ものの見方」や「考え方」、さらには幅広い知識や知的な諸技法を学びます。

自然科学系科目

自然科学は社会生活を送るうえで重要な分野の一つをなしています。社会人になってからの生活や社会活動の際に必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養います。数学、情報科学、物理学、天文学、科学史、地球科学、生物学、環境学、化学などの主要分野をカバーする科目を開設します。

スポーツ科学系科目

生涯にわたり健康で文化的な生活の基礎を築くとともに、文化としてのスポーツに対する理解を促し、現代社会におけるスポーツの役割や人間の身体がもつ可能性について考える機会とするための科目を設定しています。具体的には実際にスポーツや身体活動を行う実習科目や行動変容を促す講義科目を開設します。

(1) 単位認定の方法

単位は、それぞれの科目ごとに認定されます。

(2) 開講方式および履修方法

- ① すべての科目には配当セメスターが設定されており、配当セメスターより前のセメスターにおいては履修できません。
- ② 同一科目名の授業の中にも、学期完結型、学期連結型（通年）の開講方式があり、いずれの方式の授業でも履修できます（ただし、1科目のみ）。
- ③ 同一科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。
よって、同じセメスターにおいて、二つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。
- ④ 同一の科目名でありながら、「〇〇A」「〇〇B」「〇〇C」とある科目や「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「〇〇A」という科目を修得していなくても、「〇〇B」の履修は可能です。なお、「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」の「I」「II」「III」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。

※「スポーツ技術学演習」

- ① 「スポーツ技術学演習」を履修するためには、本学で行う健康診断を受けておかなければなりません。健康診断の日程については履修説明会や本学ホームページにて確認してください。
- ② 各演習ともに、第1回目の授業は「体育館メインフロア（2階）」に集合してください。

4. 予備登録について

教養科目では、各授業科目の受講者数を適正規模に調整するために「予備登録制」がとられています。

したがって、教養科目の受講に際しては、年次にかかわらず、予備登録を行う必要があります。

予備登録を行う際は、予備登録できる上限科目数及び学期ごとに定められている履修登録制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください（一部予備登録が不要な科目もありますので、以下の「(5) 予備登録が不要な科目」を参照してください）。

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

なお、予備登録で希望した科目の受講が許可されなかった場合や、予備登録を行わなかった場合でも、本登録時にWeb履修登録画面に表示されている科目を選択し履修登録（本登録）することができます。

(1) 予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルサイト」から、Web予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。

予備登録期間については、履修説明会および国際学部掲示板で確認してください。

(2) 予備登録できる上限科目数

第1学期（前期）（通年科目含む）：7科目

第2学期（後期）：5科目

なお、4年次生には予備登録科目数の制限はありません。

(3) 予備登録結果発表

予備登録結果はWeb履修登録画面で確認してください。

なお、発表日時（履修登録期間）については、履修説明会および国際学部掲示板で確認してください。

(4) 予備登録にあたっての注意事項

- ① 第1学期履修登録は、第1学期開講科目と学期連結型（通年）科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。第2学期履修登録は第2学期開講科目を登録します（ただし、4年次生以上は、第1学期に第2学期開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。
- ② 各年次について定められている予備登録できる上限科目数および履修登録制限単位の範囲で予備登録をしてください。
- ③ 重複登録（同一曜講時に2科目以上の予備登録をすること）、二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目はすべて無効となります。

(5) 予備登録が不要な科目

以下の科目は予備登録が不要です。受講を希望する場合は、直接、履修登録（本登録）をしてください。

「人権論A・B」（1年次配当科目）

Ⅲ 国際文化学科での学び

「世界と日本をつなぐ人材」となるために、「世界を学び、日本を知る」

国際文化学科では、「世界と日本をつなぐ人材」の育成を目標としています。

世界と日本をつなぐ人材とは、異なる文化間に生じる問題を調整することのできる人材、日本文化を世界に発信できる人材、日本の地域社会における「多文化共生」(=国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと)の推進に貢献できる人材を指します。

そうした人材(「人財」と表現されることもあります)になるためには、日本を含む世界の多様な言語と文化を学ぶことが必要です。そこで国際文化学科では、『世界を学び、日本を知る』という基本理念を掲げ、入学した皆さんが異なる文化間に生じる問題を率先して調整できるファシリテーター(促進者)として成長できるよう、体系的な教育課程(カリキュラム)を提供します。

入学から卒業に至る、一般的な学びの流れは以下のようになります。

1. 1年次

- ・「基礎演習A・B」を履修し、大学での学びに必要な基礎的な学修能力を身につけます。
- ・「仏教の思想A・B」を履修し、龍谷大学の建学の精神を学び、龍谷大学生として求められる基本的な知識を学びます。
- ・外国語については、1言語(英語のみ)または2言語(初修外国語+英語)を選択します。
- ・学科基礎科目のうち、入門系科目を履修し、2年次以降に所属したいコースを考えます。
- ・「国際文化学入門」の授業内で、2年次以降の所属コースを決めます。

「大学での学び」とは、簡単に言えば、自ら問題を発見・設定し、その解決のために資料を収集・分析し、レポートとして文書にまとめたり、口頭発表(プレゼンテーション)したりすることです。中学や高校での学びは知識を詰め込むことに重点が置かれていますが、大学では主体的に「何を、どのように学ぶか」を決め、行動することが求められます。「時間割を自分で考えて組む」ことはその典型です。また、大学の教員はそうした主体的な学びをサポートする役割を担っています。

以上を踏まえ、新入生は、全員必修の「基礎演習A」、「基礎演習B」と「国際文化学入門」を履修し、大学での学びのスタイルに一日でも早く慣れることが求められます。また、本学の建学の精神を涵養する科目として、すべての龍谷大学生が必ず履修する「仏教の思想A」と「仏教の思想B」も1年次に受講します。

その一方で、異なる文化を理解し、異なる文化間をつなぐツール(道具)として、外国語能力を重視する国際文化学科では、1年次から外国語を重点的に学びます。外国語は、1言語集中型(英語のみ週5回)と2言語型(フランス語・中国語・韓国語のいずれか週3回+英語週2回)の履修パターンがあり、入学時にどちらかを選びます(外国人留学生は日本語のみとなります)。

世界の共通語としての英語の重要性は今さら指摘するまでもありませんが、外国語は英語だけではありません。英語以外の外国語に挑戦してみたい人は、初修外国語(フランス語・中国語・韓国語)を学ぶ2言語型も検討してみてください。英語の習得に集中するか、英語に加えてもう一つ外国語を学ぶか。外国語の選択に関しても、上述の「学びの主体性」が求められます。

1年次は外国語を含めて必修科目が多いため、「時間割を自分で組む」余地は多くありませんが、選択科目も存在します。「教養教育科目」のほか、「学科基礎科目」に分類される授業の中から入門系科目を幅広く履修し、入学直後の段階から2年次以降の所属コースを考えておくことが重要です。なお、2年次以降に所属するコースの選択・決定及び国際ツーリズムプログラム履修希望の確認は、後期に開講される「基礎演習

B」内でおこなわれます。

また、海外留学にも積極的に挑戦してください。海外留学には多様な種類・期間などがあります。いずれも相応の準備期間や費用が必要になりますので、海外留学を希望する場合は、早目に情報収集を開始しましょう。

2. 2年次

- ・「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」のいずれかひとつのコースに所属します。
- ・前期に「国際文化実践Ⅰ」を履修し、参加する実践プログラムⅡを選択します。
- ・後期以降に「国際文化実践Ⅱ」を履修し、世界と日本をつなぐ実践学習をします。
- ・国際ツーリズムプログラムの修了を希望している場合、「国際文化実践Ⅱ」の中から指定された内容のもの、と同時に、講義科目を履修します。
- ・1年次に選択した外国語を引き続き履修し、外国語能力のさらなる向上を目指します。
- ・より専門的に「世界を学び、日本を知る」ことができる学科専攻科目の受講が始まります。
- ・3年次から所属を希望する演習（ゼミ）を決めます。

国際文化学科では、2年次から全員が、「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」のいずれかのコースに所属します。

所属コースによって、日本を含む世界の多様な言語と文化を学ぶに当たり、どのような分野・対象・方法等から深く学ぶかが変わってきます。また、3年次以降の演習（ゼミ）の選択にも関係しますので、慎重に選択する必要があります（各コースに関する説明ならびに選択は、「基礎演習B」内でおこなわれます）。

外国語については、1年次に引き続き、選択した外国語（英語・フランス語・中国語・韓国語のいずれか）を週3回学び、運用能力をさらに高めていきます（外国人留学生は日本語のみ）。

また、自身の興味と関心にもとづき、それぞれの科目区分ごとに定められた卒業に必要な単位数（卒業要件単位）を満たすように、「教養教育科目」、「学科基礎科目」、「学科専攻科目」を計画的に履修していきます。1年次に比べて、自分自身で授業を選択できる余地が大きくなりますので、授業の概要を記した「シラバス」を熟読し、主体的に自分の学びをデザインします。

学科専攻科目には、各コースが提供する国際文化に関する専門性の高い科目のほか、コース共通の科目もあります。コース共通科目として、ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語などの外国語も配置しています。また、これまで学んできた英語・フランス語・中国語・韓国語についても、コース共通の学科専攻科目として、より高度で実践的な内容の科目を配置しています。

また、2年次には全員が必ず「国際文化実践Ⅰ」と「国際文化実践Ⅱ」を履修します。国際文化実践は、「世界と日本をつなぐ人材」になるための素養を、様々な実践を通じて体得することを目的としています。前期に履修する国際文化実践Ⅰ（事前学習）は所属コースごとに開講され、各コースで求められる知識や研究方法への理解を深め、後期以降に履修する国際文化実践Ⅱ（実践学習）の内容を決定します。

国際文化実践Ⅱは、国際文化に関わる様々な内容があり（留学・文化研修・インターンシップ・集中講義など）、自分自身の興味や関心にもとづき、教員の助言を受けながら自ら課題を設定し、他の受講者とも協働し、「計画→実行→成果発表」という一連の流れに主体的に取り組むものです（実施の時期・進め方などはプログラムによって異なります）。

国際ツーリズムプログラム（ITP）科目は、2年次前期から履修することが可能です。観光や旅行業に対する関心にもとづき、所属するコースの学修内容と関連づけながら履修することが求められます。

また、2年次の後期に、3年次以降に所属する演習（ゼミ）を選び、決定します。演習（ゼミ）とは、20人程度の少人数で行われる専門的な研究の機会であり、大学生生活後半の柱となるものです。ゼミは3年次～4年次と同じ受講者・担当教員で固定され、演習担当教員の指導や助言を受けながら、大学生生活の集大成となる卒業論文（または卒業制作）を完成させていくものです。

3. 3年次および4年次

- ・演習を履修し、演習担当教員の下で、卒業論文の完成に向けた研究を進めます。
- ・引き続き、教養教育科目、学科基礎科目、学科専攻科目を計画的に履修していきます。
- ・就職活動が3年次後期末頃から本格化してきます。学業と両立できるようにしましょう。

3年次からは**演習**（ゼミ）が始まります。演習では、演習担当教員（指導教員）の助言を日常的に受けながら、各コースならびに各ゼミの専門性を踏まえた研究を進めます。

演習はⅠ～Ⅳで構成され、3年次前期に**演習Ⅰ**（演習Ⅰは全員が必ず履修します）、3年次後期に**演習Ⅱ**、4年次前期に**演習Ⅲ**、4年次後期に**演習Ⅳ**を履修します。また、演習Ⅲと同時に「**卒業論文**」も履修登録し、演習Ⅰ～Ⅳならびに大学生生活の総まとめとして、卒業論文を執筆します。教員によっては、卒業論文の代わりに卒業制作を認める場合があります。なお、演習および卒業論文を不合格になった場合や履修しない場合は、学科専攻科目（コース提供科目）を代わりに履修し、所定の単位数を取って卒業することとなります。

3年次からは必修の外国語科目はありませんが、学科専攻科目として、ドイツ語、ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語のほか、英語、フランス語、中国語、コリア語、日本語についてもより高度で実践的な内容の科目を配置していますので、これらを履修することで外国語能力を高めていくことが可能です。

3年次以降は学科専攻科目の履修が中心となりますが、「学科外国語科目」、「教養教育科目」、「学科基礎科目」についても、科目区分ごとに定められた卒業に必要な単位数を満たしていない場合、これらの科目を引き続き履修することになります。4年次後期末の段階で卒業要件単位を満たしていない場合、卒業ができなくなります（＝留年）ので注意しましょう。

なお、3年次後期末頃から4年次前期にかけて就職活動が本格化します（企業によって時期は異なりますが、近年はこの時期がピークの様です）。就職活動の時期になると、平日でも企業の説明会や面接が頻繁におこなわれます。学業と就職活動が両立できるよう、計画的な履修を心掛けてください。

Ⅳ 科目区分と卒業に必要な単位数

国際文化学科の学生が受講できる授業は、いずれも「科目区分」と呼ばれるグループに分類されています。科目区分ごとに卒業に必要な単位数や、必修科目（必ず修得しなければならない科目）が定められています。裏返せば、どんなに単位を多く取っても、こうした科目区分ごとに定められた要件を満たさないと卒業することができません（各区分で修得した所定以上の単位数を、フリーゾーンを除き他の区分に置き換えることはできません）。本履修要項をよく読み、また、不明な点は国際学部教務課に直接確認するなどして、計画的かつ正確な履修を心がけてください。

1. 学科外国語科目（卒業要件：20単位）

「世界を学び、日本を知る」上で、外国語を習得することは重要です。そのため国際文化学科のカリキュラムでは、外国語科目が大きな比重を占めており、20単位以上修得することが求められます。

学科外国語科目は、英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語（外国人留学生のみ）の5言語で構成されています。いずれの科目も、オーラルコミュニケーション能力を重視した少人数教育を特色としています。国際文化学科の学生は、①1言語集中型（英語のみ）、または②2言語型（英語＋フランス語・中国語・韓国語のいずれか）のどちらかを入学時に選択します。世界共通語としての重要性から、英語はいずれのパターンでも必ず学ぶこととなります。ただし外国人留学生については、日本語のみを2年間学びます。

1言語集中型は1年次に英語週5回、2年次に英語週3回となります。2言語型では、1年次に初修外国語（フランス語・中国語・韓国語）週3回＋英語週2回、2年次に初修外国語週3回となります。2言語型を選択した場合、2年次に必修外国語としての英語の授業はありません。外国人留学生は日本語を1年次に週5回、2年次に週3回学びます。

※外国人留学生で日本語以外の言語を学びたい場合、2言語型選択者で2年次も英語を学びたい場合、3年次以降も外国語を学びたい場合は、「学科専攻科目」内でコース共通科目として配置されている外国語関連科目を履修してください。

2. 教養教育科目（卒業要件：18単位）

教養教育科目は、学生の興味・関心や研究テーマをより視野から理解し、充実したものにすることを目指した科目区分です。人文・社会・自然およびスポーツの分野に属する科目で構成され、深草学舎の他学部学生と共に受講します。様々な科目がありますので、自分の興味・関心・進路の希望に応じて選択・履修してください。なお、教養教育科目のうち、本学の建学の精神を涵養する科目として、「仏教の思想A」（2単位）と「仏教の思想B」（2単位）は、必修科目です。

3. 学科基礎科目（卒業要件：16単位）

国際文化学科の学生として、また、「世界と日本をつなぐ」人材を目指すに当たって、入学後の早い段階で接しておくべき入門的な内容を扱った科目区分です。学科基礎科目には、各教員がその専門にもとづき単独で行う科目のほか、教員が共同で1つの授業（チェーンレクチャー）をおこなう科目もあります。

このうち、「基礎演習A」（2単位）と「基礎演習B」（2単位）は必修です。「基礎演習A」では、少人数教育を通じて、資料の収集、レポートの執筆、プレゼンテーション（口頭発表）など、大学での学びに必要な基礎的な知識や技法を身につけます。「基礎演習B」では、「基礎演習A」での学修内容を再確認しつつ、同時に、2年次以降所属することになるコースの紹介・選択などもおこなわれます。

4. 学科専攻科目（卒業要件：46単位以上 ※うち34単位以上は所属コース提供科目から）

学科専攻科目は、国際文化学科での学修の根幹を成す科目区分です。学科基礎科目での学修内容を土台に、さらに発展した内容を専門的に学ぶ科目を配置しています。学科専攻科目の中に必修科目は設定されていません。

学科専攻科目は大別して二種類あり、コースに関係なく提供されるもの（コース共通科目）と、コースから提供されるもの（コース提供科目）があります。卒業要件として、学科専攻科目から46単位以上修得することが求められますが、そのうち34単位以上は、必ず自身が所属するコースの科目（コース提供科目）を修得しなければなりません。

学科専攻科目には外国語科目も多く含まれますので、外国語能力を伸ばしたい人は、こうした科目を積極的に履修してください。なお、外国語科目（11か国語）の多くはコースに関係なく提供されるコース共通科目であるため、合格した場合は、自身が所属するコースの科目としてはカウントされません（所属コース外の12単位としてカウントされます）。

国際ツーリズムプログラム（ITP）関連科目、「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」（計8単位）、「卒業論文」（6単位）は、所属コース提供科目としてカウントされます。

基本的に「演習Ⅰ～Ⅳ」と「卒業論文」は、所属コースの教員が担当するものを選択します。

なお、演習は必修科目ではありませんが、「演習Ⅰ」は必ず履修登録が必要です。また、「卒業論文」は「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」と同時に履修登録します。演習や卒業論文を不合格となった学生は、他の学科専攻科目で卒業要件に必要な単位数を満たすか、翌年度に再履修することになります。

5. 国際文化実践（卒業要件：4単位）

国際文化実践は、国際文化学科の特色の一つであり、必修科目である「国際文化実践Ⅰ」（2単位）と、選択必修科目である「国際文化実践ⅡA」～「国際文化実践ⅡG」（各2単位）で構成されています。

国際文化実践は、1年次の基礎演習と3年次の演習を橋渡しする科目として位置づけられ、学生自らが課題を設定し、また、他の学生との協働し、国際文化に関わる実践的な学びの機会を追求するプロジェクト型の科目です。

「国際文化実践Ⅰ」は、「国際文化実践Ⅱ」の事前学習に充てられます。また、「国際文化実践Ⅱ」は、①長期留学型、②短期語学研修型、③短期国外文化研修型、④短期国内文化研修型、⑤集中講義型、⑥インターンシップ型、⑦自己応募型の7種類から選択します。科目内容によっては定員が設けられており、また、留学や研修など、授業料とは別に費用がかかるものもあります。

国際文化実践の詳細については、「国際文化実践について」（P.42～）を参照してください。

6. フリーゾーン（卒業要件：20単位）

卒業要件124単位のうち、上記科目区分①～⑤それぞれで定められた卒業に必要な単位数を差し引くと20単位が不足します。これを「どの科目区分にも該当しない領域」という意味で、フリーゾーンと呼びます。

フリーゾーンは、学生自身の興味や関心にもとづき、多様な選択ができ自由に履修することができる区分となっています。「学科外国語科目」、「教養教育科目」、「学科基礎科目」、「学科専攻科目」、「国際文化実践」から余分に修得した単位にかんしては、フリーゾーンで認定されます。

また、開設科目に記載されている、「グローバルスタディーズ学科開講科目」を履修し合格した場合、その単位もフリーゾーンで認定されます。なお、グローバルスタディーズ学科開講目の一部には受講条件が設定されているものがあります。詳細については、該当科目のシラバスを参照してください。

7. 単位互換科目、教職課程、博物館学芸員課程、本願寺派教師資格課程など

上述の科目区分表には含まれないものとして、単位互換科目や資格関連の科目があります。

「単位互換科目」は、「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度を利用し、大学コンソーシアム京都加盟の他大学で開講されている科目や、放送大学の科目を履修するものです（これらの科目は2年次以上で履修できます）。単位互換科目の詳細については、ホームページを参照してください。

また、国際文化学科では、「中学校教諭一種免許（英語科）」、「高等学校教諭一種免許（英語科）」、「博物館学芸員」、「本願寺派教師資格」を取得できます。こうした資格を取得するためには、それぞれの課程が定めた科目を修得する必要があります。詳細については、ホームページ（<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>）を参照してください。

V 各コース紹介

1. 多文化共生コース (Concentration on Multicultural Societies)

〈コース概要ならびに学びの目標〉

異なる文化間の対話や交流の可能性を探るべく、「コミュニケーション」、「宗教」、「社会」、「政治」、「暮らし」、「環境」をキーワードに、文化に関連した現代社会の様々な課題について学びます。グローバル化した現代社会では、ヒトやモノに加えて様々な価値観も国境を越え、文化の多様性が際立つ一方で、異なる文化間の摩擦や対立も深刻化しています。多文化共生コースでは、グローバルな時代に求められる知識や技法を学び、人類が多様性を保ちながら、いかに異文化間のコミュニケーションを図り、生活と環境に配慮しつつ共生していくことができるかを追究していきます。

〈履修モデル〉

学科基礎科目（16単位以上）を通じて、言語・社会・宗教・生活環境など、幅広い分野における多文化共生と異文化理解の必要性を学びます。次いで学科専攻科目（46単位以上。うちコース提供科目から34単位以上）を通じて、アメリカ・ヨーロッパに加え、存在感を強めるアジア・イスラーム世界や、世界三大宗教（仏教、キリスト教、イスラーム教）などについて学びを深めます。また、「国際文化実践プログラムⅠ・Ⅱ」（各2単位）を通じて、実践的な経験を積み、多文化社会の課題とその解決方法を修得していきます。

外国語については、国際共通語としての英語に加えて、コースでの学びと関連の深い、トルコ語、ペルシア語、アラビア語などのイスラーム系諸言語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語などのヨーロッパ系諸言語を学ぶことも期待されます。

〈所属教員ならびに専門分野〉

磯江 源（統語論、比較言語学、音声学）
佐野 東生（中東地域研究、イラン近現代史）
壽崎 かすみ（都市計画、住環境計画、まちづくり）
鈴木 滋（人類学、霊長類学）
ターヒュン ノエル（英語学）
林 則仁（美術史、建築史・意匠）
久松 英二（宗教学）
二葉 晃文（教育言語学）
古川 秀夫（社会心理学、社会学、心理学）

2. 世界と日本コース (Concentration on the World and Japan)

〈コース概要ならびに学びの目標〉

「世界から見た日本」、「日本から見た世界」をキーワードに、世界の多面的な文化について学びます。特にアジアならびに環太平洋地域を中心に、世界の多様な文化の根底にある「基層」を学び、地域研究の枠組みを超えた多様なカルチュラルルート（文化が伝わってきた道程）を解明していきます。その一方で、日本文化と密接に関係する東アジアの言語や文化、移民を含む人々の相互交流が文化に与える影響、仏教を中心とした宗教文化などを深く学ぶことで、自らが所属する文化の正確な理解を目指します。

〈履修モデル〉

学科基礎科目（16単位以上）を通じて、世界と日本の関わり、世界の中における日本の位置づけ、また、フィールドワークなど調査分析方法の基礎を学びます。次いで学科専攻科目（46単位以上。うちコース提供科目から34単位以上）を通じて、興味と関心にもとづく専門的な観点から、世界と日本の関わりについて学びます。また、「国際文化実践プログラムⅠ・Ⅱ」（各2単位）を通じて、世界と日本の関わりを実体験し、一つの国や地域を学ぶだけでは見えてこない、世界と日本を結ぶ文化的なつながりを追究します。

必修外国語（20単位以上）については、国際共通語としての英語に加えて、中国語や韓国語を履修し、東アジアの影響を強く受けた日本社会・文化の理解を深めることが期待されます。

〈所属教員ならびに専門分野〉

泉 文明（日本語学、日本語教育学、京都学）
 カルロス マリア（国際労働移動、アジア経済、開発経済学）
 史 形嵐（現代中国語文法、対外国人中国語教育）
 徐 光輝（中国考古学）
 嵩 満也（親鸞思想）
 デブナール ミロシュ（社会学、日本社会論）
 友永 雄吾（文化人類学（含民族学、民俗学））
 朴 炫国（韓国文学、民俗学）
 三谷 真澄（仏教文化学、古写本学）
 劉 虹（言語学）

3. 芸術・メディアコース (Concentration on Arts and Media)

〈コース概要ならびに学びの目標〉

「さまざまな表現形式としての芸術」、「情報の伝達手段としてのメディア」をキーワードに、文化を学び、分析するための知識や技法を学びます。古典・伝統から現代のポップカルチャー／サブカルチャーに至るまで、多様化する芸術活動とメディアの広がり注目しながら、「文化とは何か」について解明していきます。また、自ら日本文化を世界に発信できる人材の育成も重視し、制作や表現活動に必要な実践的な知識、技法も学ぶことができるカリキュラムとしています。

〈履修モデル〉

学科基礎科目（16単位以上）を通じて、多様な芸術のジャンルとメディアの広がり、さらにその分析方法について基礎的な知識を学びます。次いで学科専攻科目（46単位以上。うちコース提供科目から34単位以上）を通じて、自らの興味や関心に応じた専門的な学びを深めていきます。また、「国際文化実践プログラムⅠ・Ⅱ」（各2単位）を通じて、自ら経験し実践することで、文化の理解・分析・表現をしていく際に求められる知識や技法を修得していきます。

必修外国語（20単位以上）については、国際共通語としての英語に加えて、中国語・フランス語・韓国語を履修し、各地域の豊かな芸術・文化表現について理解を深めることが期待されます。

〈想定される進路〉

芸術・文化・表現に関わる多様な職種が考えられます。例えば、地方自治体の文化振興施策担当者、一般企業の社会貢献活動（芸術・文化関係）担当者、博物館学芸員、マスメディア（新聞・出版・放送）、コンテンツ関連業界（映画・音楽・ゲーム・アプリ開発など）などが考えられます。また、旅行・運輸・観光業のほか、中学校・高等学校教員（英語科）、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学などが考えられます。

〈所属教員ならびに専門分野〉

カルドネル シルヴァン（哲学）

澤西 祐典（日本近代文学、比較文学）

サルズ ジョナ（比較演劇、伝統芸能、狂言）

杉本パウエンス ジェシカ（社会学、ジェンダー論、カルチュラル・スタデーズ）

ファーマノフスキー マイケル（ポップカルチャー、アメリカ史）

松居 竜五（比較文学、比較文化）

八幡 耕一（社会学、政策科学）

Ⅵ 国際 Tourismus プログラム (International Tourism Program) について

1. 制度の概要

国際 Tourism プログラム (International Tourism Program、以下ITPと略称) は、国際文化学科生の自らを旅行者としてとらえる観光への関心、さらには就職やキャリア展開先として旅行・観光業界に向ける関心の高まりを背景に設置されたものです。それは同時に、国際文化学科が立地する京都ひいては日本全体への海外からのインバウンド観光客の急増と世界的規模で拡大する観光人口の動向に対応するものです。

そのため、ITPは、「多文化共生」「世界と日本」「芸術・メディア」の3コース横断型のプログラムとして、所属コースにかかわらず履修することが可能です。そして、多文化共生社会を生きる学生に対して、世界と日本の相互交流を重視しつつ、芸術的側面、実務的側面など多様な観点から科目提供が図られています。

ITPは2年次からスタートし、最短で3年次後期には修了要件を充足できます。1年次後期のコース選択時に第1回の履修希望の確認を行い、2年次前期の必修科目「国際文化実践Ⅰ」で作成する「国際文化実践Ⅱ計画書」、2年次後期の「演習選考調査書」で複数回にわたって履修希望の確認を行います。また、履修希望の有無にかかわらず修了要件を充足した場合には、ITP修了証を申請することができます。

2. 修了要件

下記(1)(2)を合わせ、合計20単位を取得していることが修了証請求の条件となります。

(1) 実践・インターンシップ科目

- 1) 「国際文化実践Ⅰ」で観光関連の計画書を作成し、「国際文化実践Ⅱ」の中から、指定された実践・実習(国際文化実践Ⅰの授業等で告知)を履修していることが前提となる。
- 2) 龍谷大学の提供する「協定型インターンシップ」または大学コンソーシアム京都の提供する「インターンシップ・プログラム ビジネス・パブリックコース」の中から、指定された受入先でのインターンシップ実習を修了していること(4単位)。

(2) 講義科目(指定語学科目、資格関連科目含む) 46単位中16単位の取得が必要。

<ITP講義科目>

「観光学入門」、「観光社会論」、「ホスピタリティ論」、「観光心理学」、「国際観光論」、「観光文化論A」、「京都観光学A」、「観光文化論B」、「京都観光学B」、「文化・観光政策」、「旅行の法律」、「旅行の契約」、「国内旅行の実務」、「海外旅行の実務」、「実践フランス語 C」、「実践フランス語 D」、「実践コリア語 C」、「実践コリア語 D」、「実践中国語 C」、「実践中国語 D」、「English Workshop C」、「English Workshop D」

Ⅶ キャリア教育とキャリアデザイン

グローバル化の影響を受け、また、国内の少子化・高齢化を背景に、日本では外国から人材を受け入れる傾向が強まっており、日本社会の「内なるグローバル化」が急速に進んでいます。内なるグローバル化とは、日本で暮らす諸外国出身の人々が増えることであり、日本社会の構成員が、これまで以上に文化的・民族的に多様になることを意味します。

社会構成員の多文化・多民族化は、様々な意味で豊かさをもたらします。その一方で、言語・風習・宗教などの違いに起因する文化的な摩擦を生じさせることも否定できません。それゆえ、日本社会の内なるグローバル化が進めば進むほど、異なる文化間に生じる課題を解決できるファシリテーター（促進者）への期待が高まるはずで、このような時代、「世界と日本をつなぐ人材」としての素養を身につけた国際文化学科生が活躍できる領域は、今後、国内外に大きく広がっていくと予想されます。

以下、国際文化学科の人材育成方針や教育課程（カリキュラム）にもとづき、国際文化学科の学生にとってどのようなキャリア設計が考えられ、また、どのような計画・行動が望ましいかをまとめておきます。自分自身のキャリアについて考えるのが早ければ早いほど、大学生活は充実していくはずで、キャリアセンターも活用しながら、自分自身のキャリアについて早目の考え、行動を心がけてください。

1. 想定する進路

国際文化学科では、皆さんが卒業してから進む進路として、各コースの設置・教育理念を踏まえた場合、(国際文化学科で学修したことを比較的活かしやすいと考えられる業界・職種・職業) 次のようなものが例として挙げられます。

多文化共生コース

一般企業・団体等のうち、特に顧客や構成員が多様な文化的背景を持つ企業（外資系企業、海外に展開する日本企業など）、地方自治体の多文化共生施策担当者（外国人住民の支援に関する業務）、国際協力や多文化共生に関する業務を行うNGO・NPO（非政府・非営利組織）、英語科教員（中学・高校）、海外および国内における日本語教員、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

世界と日本コース

一般企業・団体等のうち、特に業務を通じて世界に日本文化を発信するような業界（旅行会社を含む観光業、運輸業など）、日本企業の海外支社・支店等での勤務（特にイスラーム圏、仏教系諸国など）、特定地域で活動するNGO・NPO（非政府・非営利組織）、英語科教員（中学・高校）、海外および国内における日本語教員、通訳・翻訳者、博物館学芸員、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

芸術・メディアコース

一般企業・団体等のうち、特に業務を通じて芸術・文化に携わる業界（マスメディア、コンテンツ関連産業など）、地方自治体の文化振興施策担当者、一般企業のメセナ活動（企業がおこなう社会貢献活動）担当者、芸術・文化関連の活動をおこなうNGO・NPO（非政府・非営利組織）、英語科教員（中学・高校）、海外および国内における日本語教員、博物館学芸員、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

国際ツーリズムプログラム

一般企業・団体等のうち、旅行業（旅行代理店等、フリーランスのガイド・添乗員等含む）、宿泊業（ホテル、旅館、キャンプ場、民泊等）、飲食業、運輸業（航空、鉄道、バス・タクシー、クルーズ客船等）、製造業（名産品、お土産、乗り物製造等）、公務員（観光庁、地方自治体の観光施策担当者等）、観光に関わるNPO（自然・文化保護団体、観光協会等）など。

2. キャリア科目

以下は、国際文化学科の学生を対象としたキャリア関連科目です。どちらも必修ではありませんが、自身のキャリア設計の動機付けに役立ちますので、入学後の早い段階に履修しておくことを推奨します。

① キャリア・ガイダンス（学科基礎科目、2単位） ※第1 Semesterから履修可

責任ある仕事を継続的に体験する機会の少ない学生にとって、そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学ぶ必要があることから、キャリアデザインへの早期からの取り組みがキャリア形成上重要であることを実践的に学ぶ科目です。大学卒業を控えた就職活動に絶大な威力を発揮するのは、「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることであると言えます。本科目では、自分のキャリアをつくっていく上で、なぜそうしたという考え方や知識が必要なのか、また、それを自分の言葉で語る重要性を理論的・体験的に学びます。

② グローバル時代のキャリア設計（学科専攻科目、2単位） ※第3 Semesterから履修可

現代社会は急速にグローバル化しており、キャリア形成も社会経済のグローバル化を意識する必要があります。本科目では、世界経済の大きな変化を理解し、また、それを日本の文脈で捉え直し、今後どのようなキャリア形成が必要になるのか、どのような業界や職種がグローバル化の影響を受けやすい（受けにくい）のかといったことを学びます。授業では、担当教員および外部のゲストスピーカーによる講義に加え、受講者間での討議・発表機会を積極的に導入し、受講者自らが主体的に学ぶ機会を追求する予定です。

3. その他

・企業や団体等でのインターンシップは、就職活動を控えた学生に様々な経験を与えてくれます。「国際文化実践プログラムⅡ」の中には、インターンシップを実践学習の機会とする「国際文化実践プログラムⅡF」がありますので、必修科目である国際文化実践プログラムの一環として、企業や団体等でのインターンシップをすることも可能です。

・教養教育科目には「経済学のすすめ」（2単位）があります。また、学科専攻科目には「日本の経済と社会」（2単位）、「国際経済と日本」（2単位）などがあります。社会経済のグローバル化が著しい現代にあって、キャリア形成上、日本を含む世界経済に関する知識と理解は大きく役立つはずで、積極的に受講してみましょう。

・外国語の資格試験を念頭に置いた授業もあります。就職活動時に、自身の外国語能力を客観的に証明するには、就職活動が本格化する前に公的な資格を取得しておくことも有効です。興味・関心がある学生はこうした授業も受講してみましょう。

資格試験名称	授業科目名・科目区分・単位数
TOEIC®	Advanced English B（学科専攻科目、2単位）
実用フランス語技能検定試験	実践フランス語A・B（学科専攻科目、各2単位）
HSK（中国政府公認の中国語検定）	実践中国語A・B（学科専攻科目、各2単位）
韓国語能力試験	実践韓国語A・B（学科専攻科目、各2単位）

・REC（龍谷エクステンションセンター）では、学生ベンチャー育成に関する様々な企画（教育事業、イベント事業、インキュベーション事業）を展開しています。そのねらいは、①日本経済復興の鍵となる新事業・新産業の創出のため、「大学発学生ベンチャー」の発掘・育成を行う、②新しい目標や課題に対して、積極的にアイデアを出し企画・実行していく応用能力・実践能力を養成し、チャレンジ精神、創造性の豊かな人材を社会に輩出することにあります。就職活動のみならず、自ら起業することも立派

なキャリア形成の一つです。興味・関心がある学生は、ぜひこうした事業にも積極的にチャレンジしてみましよう。

- ・ 龍谷大学のキャリアセンターを積極的に利用しましょう。各種セミナーや個別のカウンセリングがおこなわれるほか、職業や業界・企業に関する豊富な資料を常時閲覧可能です。また、資格試験対策講座なども実施しています。「まだ早い」とは決して思わず、1年次から積極的に利用することを強く推奨します。

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引修
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録

Ⅷ 履修方法

国際文化学科の学生は、卒業後、異なる文化間に生じる問題を率先して調整できるファシリテーター（促進者）、すなわち「世界と日本をつなぐ人材」として活躍することが期待されます。そのために、龍谷大学の建学の精神につながる仏教の思想を学びつつ、大学での4年間で「世界を学び、日本を知る」ことが求められています。同時に、高校までとは大きく異なる「大学での学び」（=研究）に一日でも早く慣れるよう、基礎的な知識や技法を習得する必要があります。

国際文化学科では、こうした教養・知識・技法などを体系的に学び、身につけることができるよう教育課程（カリキュラム）を準備していますが、履修に当たっては細かいルールがあります。こうしたルールを守らないと、4年間で卒業することができなくなりますので、入学時に熟読するだけでなく、大学生生活を通じて日常的に確認・参照するようにしてください。

1. 必修外国語の履修方法

国際文化学科では、「学科外国語」という科目区分で必修外国語を定めています。国際文化学科で開講されている必修外国語は、**英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語**の5言語です。フランス語・中国語・韓国語は初級者を、英語は本学入学前に基礎を勉強した人を、日本語は母語が日本語以外の人（外国人留学生）を対象にしています。必修外国語は卒業までに20単位を修得しなければなりません。

必修外国語は、下表のとおり、入学時に1ヶ国語（英語週5回の1言語集中型）あるいは2ヶ国語（フランス語、中国語、韓国語のいずれかを週3回+英語週2回の2言語型）を選択して受講します。

必修外国語の履修パターン（入学時に選択）

	1年次	2年次
1言語集中型	英語（週5回）	英語（週3回）
	日本語（週5回）※	日本語（週3回）※
2言語型	フランス語（週3回）+英語（週2回）	フランス語（週3回）
	中国語（週3回）+英語（週2回）	中国語（週3回）
	韓国語（週3回）+英語（週2回）	韓国語（週3回）

※日本語は留学生のみ選択

1年次は、各言語のⅠ・Ⅱおよび「English Communication (EC)-Seminar A・B」（留学生は「日本語セミナー」）を合わせて週5回受講します。2年次は、各言語のⅢ・Ⅳを週3回受講します。必修外国語（学科外国語科目）の履修条件は以下のとおりです。なお、EC-Seminar A では討論手段としての英語を、EC-Seminar B では比較的高度な英文読解や英文法を学びます。

- ① 留学生を含めて、母語を外国語として選択することはできません。
例1) 「留学生入試」で入学された留学生は日本語を選択してください。
例2) 「留学生入試」以外の入試で入学された留学生は、母語以外の言語を選択してください。
- ② 必修外国語は先修制となっています。ローマ数字（Ⅰ～Ⅳ）が付いた科目の場合、「〇〇Ⅰ」を修得していなければ、続く「〇〇Ⅱ」を履修することはできません。同様に、Ⅱ→Ⅲ、Ⅲ→Ⅳについても、それぞれ先行する科目を修得しなければ続く科目を履修できません。先行する科目を不合格となった場合、再履修する必要があります。
- ③ 1言語集中型の場合は、必修外国語として第1～第4セメスターでそれぞれⅠ～Ⅳ（各1単位）を履修します。また、第1～第2セメスターでは「ECⅠ・Ⅱ-Seminar A・B」（各2単位）も履修します。
例えば、英語を選択した場合、1年次（第1～第2セメスター）は、「EC-Speaking Ⅰ・Ⅱ」、「EC-

Writing I・II]、「EC-Reading I・II」の6科目(計6単位)と、「EC I・II-Seminar A・B」の4科目(計8単位)、合計14単位を履修します。2年次(第3～第4セメスター)は、「EC-Speaking III・IV」、「EC-Writing III・IV」、「EC-Reading III・IV」の6科目(計6単位)を履修します。

日本語の場合は、第1～第4セメスターで「日本語 I～IV」(各3単位)を履修します。また、第1～第2セメスターでは「日本語セミナー A～D」(各2単位)も履修します。

1 言語集中型を選択した場合の必修外国語

1年次(英語週5回)				2年次(英語週3回)			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
EC I-Speaking	1	EC II-Speaking	1	EC III-Speaking EC III-Writing EC III-Reading	1 1 1	EC IV-Speaking	1
EC I-Writing	1	EC II-Writing	1			EC IV-Writing	1
EC I-Reading	1	EC II-Reading	1			EC IV-Reading	1
EC I-Seminar A	2	EC II-Seminar A	2				
EC I-Seminar B	2	EC II-Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC: English Communication)

日本語を外国語とする場合(留学生対象)

1年次(日本語週5回)				2年次(日本語週3回)			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
日本語 I	3	日本語 II	3	日本語 III	3	日本語 IV	3
日本語セミナー A	2	日本語セミナー C	2				
日本語セミナー B	2	日本語セミナー D	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

④ 2言語型の場合は、選択した外国語(フランス語・中国語・韓国語のいずれか)につき、必修外国語として第1～第4セメスターでそれぞれ I～IV(各3単位)を履修します。また、第1～第2セメスターでは「EC I・II-Seminar A・B」(各2単位)も履修します。2言語選択型の場合、1年次のみ英語も学修します。2年次(第3～第4セメスター)では必修外国語としての英語はありません。

2 言語型でフランス語を選択した場合の必修外国語

1年次(フランス語週3回+英語週2回)				2年次(フランス語週3回)			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
フランス語 I	3	フランス語 II	3	フランス語 III	3	フランス語 IV	3
EC I-Seminar A	2	EC II-Seminar A	2				
EC I-Seminar B	2	EC II-Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC: English Communication)

2 言語型で中国語を選択した場合の必修外国語

1年次(中国語週3回+英語週2回)				2年次(中国語週3回)			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
中国語 I	3	中国語 II	3	中国語 III	3	中国語 IV	3
EC I-Seminar A	2	EC II-Seminar A	2				
EC I-Seminar B	2	EC II-Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC: English Communication)

2 言語型で韓国語を選択した場合の必修外国語

1年次（韓国語週3回＋英語週2回）				2年次（韓国語週3回）			
第1 Semester	単位	第2 Semester	単位	第3 Semester	単位	第4 Semester	単位
韓国語 I	3	韓国語 II	3	韓国語 III	3	韓国語 IV	3
EC I -Seminar A	2	EC II -Seminar A	2				
EC I -Seminar B	2	EC II -Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC : English Communication)

2. コース選択について

国際文化学科では、すべての学生が2年次からコースに分かれて所属します。コース選択は、学科専攻科目の卒業要件（＝46単位のうち、所属コースが提供する科目から34単位以上を修得しなければなりません）や、演習（ゼミ）の選択に関係してきますので、入学直後の段階からコース選択の意識を強く持ち、納得のいく選択をできるようにしましょう。

各コースの概要

多文化共生：文化の様々な側面を学び、異文化間の対話や交流の可能性を追求します。
世界と日本：「世界を学び、日本を知る」ことで、多面的な文化理解を志向します。
芸術・メディア：表現形式・手段としての芸術およびメディアの視点から文化を分析します。

コース選択の時期・方法、注意点など

- ① コース選択は1年次後期におこないます。3つのコース（「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」）から1つを選びます。コースの選択は、必修科目の「国際文化学入門」の授業内（授業の一部として各コースの紹介や体験講義などが含まれます）でおこなわれます。また、1年次後期に、コース紹介を目的とした資料を配布する予定です。詳細については、別途掲示板等でお知らせします。
- ② 各コースの定員は概ね120人程度ですが、コースの担当教員数等により、人数制限をする場合があります。希望者が制限人数を超えた場合の選抜方法については、別途掲示板等でお知らせします。
- ③ 所定の期間内にコースの選択（希望の登録）が学生本人によっておこなわれない場合、学部で所属コースを決定します。
- ④ コース選択は卒業要件単位と深く関係します。2年次から配当される学科専攻科目の卒業要件46単位のうち、34単位は所属コースが提供する科目から修得しなければなりません。学科専攻科目のうち、コース共通科目（主として外国語やキャリア科目など）や他コース科目を修得した場合、12単位までは学科専攻科目の卒業要件単位として、それ以上の余剰単位はフリーゾーンで認定されます。なお、一部の科目については、所属コース以外の学生が履修できないものがあります。
- ⑤ 原則として、所属コースの変更はできません。

3. 国際ツーリズムプログラム (ITP) について

ITPは、「多文化共生」「世界と日本」「芸術・メディア」の3コース横断型のプログラムとして、所属コースにかかわらず履修することが可能です。1年次後期の必修科目「国際文化学入門」の授業内で、コースの選択時に履修の希望が確認されます。ITP履修確認の有無にかかわらず、2年次から順次ITP提供科目を履修することができます。また、ITP修了を断念することが随時可能です。

4. 国際文化実践について

「世界と日本をつなぐ人材」を目指す上で、言語・歴史・宗教・社会体制などのちがいに起因する文化間の壁を乗り越え、課題を解決するための実践的な学びの経験が必要かつ重要になります。そのため、国際文化学科では、「世界と日本をつなぐ人材」に求められる素養を、様々な実践の機会を通じて体得できるよう、必修科目として「国際文化実践」を導入しています。

国際文化実践は、「国際文化実践Ⅰ」（事前学習）と、学生自身が選択する「国際文化実践Ⅱ」（実践学習）の二段階で構成されています。国際文化実践では、学生自らが興味や関心にもとづき課題を設定し、他の受講者とも協働しながら、計画→実行→成果発表という一連の流れに主体的に取り組むことが大きな特色となっています。

概要

2年次前期（第3セメスター）に、所属コースごとに受講する「国際文化実践Ⅰ」（2単位）と、2年次後期（第4セメスター）以降に、自由に選択し受講する「国際文化実践ⅡA」～「国際文化実践ⅡG」（各2単位）があります。

国際文化実践Ⅰ（事前学習）

国際文化学科生の必修科目であり、学生は、2年次から所属するコース（「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」）ごとに受講します。各コース2クラスを開講するため、学生はどちらかのクラスが指定されます。

「国際文化実践Ⅰ」では、プログラムの意義や手続きの流れ、実践に際して必要となる手法（フィールドワークやインタビューなど）に関する講義がおこなわれます。併せて学生は、「国際文化実践Ⅱ」で取り組む実践学習の対象や方法を構想し、教員の指導や助言を受けながら、計画書を作成し、担当教員から了承を得ることが求められます。

なお、2年次前期に海外留学する場合は、メール等を通じて担当クラス教員から指導・助言（遠隔地指導）を受けます。

国際文化実践Ⅱ（実践学習）

学生は、国際文化実践Ⅰ受講中に、参加する「国際文化実践ⅡA～ⅡG」のいずれかを選択します。国際文化実践Ⅰ修得後に、「国際文化実践ⅡA」～「国際文化実践ⅡG」のいずれかを履修し（選択必修）、「国際文化実践Ⅰ」で作成した計画書にもとづく実践的な経験を積みます。実践学習終了後は、指定された期日までに報告書あるいは成果物を提出することが求められます。また、3年次生以降に履修する演習内での報告や基礎演習Bで後輩に対する報告なども予定しています。国際文化実践Ⅱの種類は以下のとおりです（いずれも2単位）。

① 国際文化実践ⅡA（長期留学型）

- ・海外への長期留学を以て実践学習の機会とします。
- ・留学時期は原則として2年次後期以降、期間は1セメスター以上となります。

② 国際文化実践ⅡB（短期語学研修型）

- ・国際学部の教員が企画し、海外の教育機関でおこなわれる語学研修への参加をもって実践学習の機会とします。
- ・原則として、各研修当たり30～40名程度を定員とし、期間は3週間程度とします。
- ・研修時期は原則として「国際文化実践Ⅰ」終了後の夏期・春期休暇中になります。

<プログラム例>

短期英語研修（オーストラリア、アメリカ）、短期韓国語研修（韓国・ソウル）など

③ 国際文化実践ⅡC（短期国外文化研修型）

- ・各コースが企画する国外文化研修への参加を以て実践学習の機会とします。
- ・原則として、各研修当たり20名程度を定員とし、期間は1～3週間程度とします。
- ・研修時期は原則として「国際文化実践Ⅰ」終了後の夏期・春期休暇中になります。

<プログラム例>

イタリア文化研修、フランス文化研修、ベトナム文化研修、タイ文化研修など

④ 国際文化実践ⅡD（短期国内文化研修型）

- ・各コースが企画する国内文化研修への参加を以て実践学習の機会とします。
- ・原則として、各研修当たり20名程度を定員とし、期間は1～3週間程度とします。
- ・研修時期は原則として「国際文化実践Ⅰ」終了後の夏期・春期休暇中になります。

<プログラム例>

日本文化・京都学研修、長崎・天草潜伏キリシタン研修、屋久島研修、内なる国際化を学ぶ、瀬戸内国際芸術祭研修、本願寺での観光案内など

⑤ 国際文化実践ⅡE（集中講義型）

- ・各コースが指定した夏期集中講義の受講を以て実践学習の機会とします。
- ・夏季集中講義の内容に応じて受講人数に制限がかけられる場合があります。

<プログラム例>

漫画を創ろう、ゲームをつくろうなど

⑥ 国際文化実践ⅡF（インターンシップ型）

- ・企業や団体等のインターンシップへの参加を以て実践学習の機会とします。

⑦ 国際文化実践ⅡG（自己応募型）

- ・上記A～Fのいずれにも該当しないパターンで、教員の指導・助言を受けながら進める自発的な取り組みを以て実践学習の機会とします。

※<プログラム例>は一例です。年度によって内容が異なります。

「国際文化実践Ⅱ」参加プログラム決定までの流れ

2年次後期以降に履修する「国際文化実践Ⅱ」は、2年次前期の「国際文化実践Ⅰ」の授業内で希望を提出し決定します。

具体的な流れは以下のとおりです。

参加プログラム決定までの流れ（「国際文化実践Ⅰ」内における手続フロー）

	時 期	授業回数 (目安)		手続内容
「国際文化実践Ⅰ」授業での手続き	4月中・下旬	第2・3回	実践Ⅱ 内容紹介	「国際文化実践Ⅰ」のなかで、実践Ⅱの各プログラム内容を紹介します。 ↓
	5月上旬～中旬	第4～6回	第1次希望 調査	希望プログラムを選択します。 ↓
	5月下旬	第7回	第1次結果 発表	決定した参加プログラムを発表します。ただし、参加定員が超過したプログラムは、担当教員による選抜を行います。 ↓
	6月上旬	第9回	超過希望調整 結果発表	参加定員が超過したプログラムの参加人数の調整結果を発表します。 ↓
	6月中旬	第10回	第2次希望 調査	第1次で参加プログラムが決定していない学生は、希望プログラムを選択します。 ↓
	6月下旬	第11回	第2次結果 発表	参加プログラム確定します。第2学期履修登録期間に参加プログラムを履修登録します。 ↓
	7月上旬～中旬	第13・14回	計画書提出	プログラム参加に際し、各自の学修計画を立て、提出します。 ↓
	7月下旬	第15回	計画書再提出	計画書が不十分な内容の場合、参加する実践Ⅱの担当教員から再提出を指示しますので、再提出します。

『「国際文化実践Ⅰ」不合格者の「国際文化実践Ⅱ」履修方法』

「国際文化実践Ⅰ」は「国際文化実践Ⅱ」の先修科目ですが、「国際文化実践Ⅰ」を不合格になった学生は、教育的配慮にもとづき、翌 Semester に「国際文化実践Ⅰ」の再履修と参加が決定している「国際文化実践Ⅱ」を同時履修することとなります。

しかし、「国際文化実践Ⅰ」の再履修が合格しなければ「国際文化実践Ⅱ」は不合格となりますので注意してください。

＜国際文化実践履修パターン＞

第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester
実践Ⅰ⇒合格	実践Ⅱ 履修		
実践Ⅰ⇒合格	実践Ⅱ⇒不合格	【実践Ⅱ選択】*	実践Ⅱ 履修
実践Ⅰ⇒不合格	実践Ⅰ（再）⇒合格		
	実践Ⅱ⇒合格		
実践Ⅰ⇒不合格	実践Ⅰ（再）⇒合格	【実践Ⅱ選択】*	実践Ⅱ 履修
	実践Ⅱ⇒不合格		
実践Ⅰ⇒不合格	実践Ⅰ（再）⇒不合格	実践Ⅰ（再）⇒合格	実践Ⅱ 履修
	実践Ⅱ⇒不合格 ※Ⅱの評価結果にかかわらず 不合格とする		

※実践Ⅱの選択方法は別途指示します。

5. 演習および卒業論文の履修方法

「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」は3～4年次に配当され、同一の演習担当教員の指導の下、少人数（約20人）で調査や研究を進める科目で、一般に「ゼミ」とも呼ばれます。「卒業論文」（教員によっては卒業制作も可）は、大学における学修の集大成であり、演習と並行して取り組みます。なお、演習および卒業論文は必修ではありませんが、「演習Ⅰ」は全員履修登録が必須です。

※所属する演習の選考は2年次後期（第4 Semester）におこなわれます。

詳細については、別途、manaba、ポータルサイト、掲示板等でお知らせします。

※原則として所属コース教員の演習を選択します。

6. 必修科目の再履修

必修科目を不合格となった場合、再度履修すること（再履修）が必要となります。科目によって再履修上のルールがありますので、再履修の場合はそれにしてください。詳細については、別途掲示板等でお知らせします。また、不明な点は国際学部教務課で確認するようにしてください。

① 「基礎演習A」および「基礎演習B」

「基礎演習A・B」を再履修する場合は、指定されたクラスで受講してください。

② 「学科外国語科目」（必修外国語）

「学科外国語」を再履修する場合は、指定されたクラスで受講してください。

③ 「仏教の思想A」および「仏教の思想B」の再履修

「仏教の思想A・B」を再履修する場合は、次の年次で再度受講してください。

なお、3年次生以上は、同一 Semester において、「仏教の思想A」と「仏教の思想B」を同時に履修することが可能です。

学期	科目名
第1学期（前期）	「仏教の思想A」・「仏教の思想B（再）」
第2学期（後期）	「仏教の思想B」・「仏教の思想A（再）」

7. 開設科目

◎は必修科目 ●は選択必修科目として開講する基幹科目 ○は選択科目を示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です（一部例外あり）。

（例：1年次配当科目であれば、2年次生・3年次生も受講可能）

■「仏教の思想」科目

授業科目名	単位	1年次		2年次		3年次		備考
		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
仏教の思想A	2	◎						2科目（4単位）必修
仏教の思想B	2		◎					
歎異抄の思想Ⅰ	2			○				
歎異抄の思想Ⅱ	2				○			

■教養科目

科目区分	授業科目名	単位	1年次		2年次		3年次		備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
人文科学系科目	哲学入門	2	●						1科目（2単位以上）必修
	哲学A	2	●						
	倫理学入門	2	●						
	倫理学A	2	●						
	クリティカル・シンキング	2	●						
	宗教学入門	4	●						
	宗教の世界A	2	●						
	宗教の世界B	2		●					
	中国の思想A	2	●						
	中国の思想B	2		●					
	日本の文学A	4	●						
	日本の文学B	4		●					
	中国の文学A	2	●						
	中国の文学B	2	●						
	西洋の文学A	2	●						
	西洋の文学B	2		●					
	文章表現法A	2	●						
	文章表現法B	2		●					
	言語と文化	2	●						
	日本の歴史A	4	●						
	日本の歴史B	4		●					
	アジアの歴史A	4	●						
	アジアの歴史B	4		●					
	西洋の歴史A	4	●						
	現代世界の歴史A	2	●						
	現代世界の歴史B	2		●					
	心理学	4	●						
	心の科学A	2	●						
	心の科学B	2		●					
	教育学のすすめA	2	●						
	教育学のすすめB	2		●					
	哲学B	2				○			
	倫理学B	2				○			
	論理学	2				○			
	芸術の世界A	2				○			
	芸術の世界B	2					○		
日本の文学C	2				○				
歴史学入門	2				○				

履修の心得
 教育課程
 諸課程
 手学
 引生活
 きの
 Q
 &
 A
 教
 員
 付
 録

科目区分	授業科目名	単位	1年次		2年次		3年次		備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
人文科学系科目	日本の歴史C	4			○				
	日本の文化	4				○			
	アジアの文化	2			○				
	西洋の歴史B	2			○				
	西洋の歴史C	2				○			
	応用心理学A	2			○				
	応用心理学B	2				○			
	現代社会と教育A	2			○				
	現代社会と教育B	2				○			
	教育原論A	2			○				
	教育原論B	2				○			
	学習・発達論A	2			○				
	学習・発達論B	2				○			
	人文科学セミナー	4			○				
大学論	2			○					
社会科学系科目	日本国憲法	2	●						} 1科目(2単位以上)必修
	法学のすすめ	2	●						
	政治学のすすめ	2	●						
	社会学のすすめ	2	●						
	地理学のすすめ	2	●						
	経済学のすすめ	2	●						
	経営学のすすめ	2	●						
	文化人類学のすすめ	2	●						
	社会調査のすすめ	2	●						
	社会統計学のすすめ	2	●						
	人権論A	2	○						
	人権論B	2		○					
	現代社会とメディア	2			○				
	現代社会と福祉	2			○				
	現代社会と法	2			○				
	環境と社会	2			○				
	平和学A	2			○				
	ジェンダー論	2			○				
	国際社会論	2			○				
	現代社会の諸問題	2			○				
	地域論	2			○				
	企業と会計	2			○				
現代社会と労働	2			○					
社会思想史	2			○					
英語で学ぶ日本の社会A	2	○							
英語で学ぶ日本の社会B	2	○							
自然科学系科目	数学入門	2	●						} 1科目(2単位以上)必修
	数学への旅	2	●						
	確率・統計入門	2	●						
	宇宙の科学I	4	●						
	地球科学のすすめ	2	●						
	物理学の世界	4	●						
	時間と空間の科学	2	●						
	自然科学史I	2	●						
	生物科学のすすめ	4	●						
	生命科学のすすめ	2	●						
	生態学のすすめ	4	●						
	人類学のすすめ	4	●						
	環境学	4	●						
情報科学入門	2			●					

科目区分	授業科目名	単位	1年次		2年次		3年次		備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
自然科学系科目	微分と積分	4	○						
	行列と行列式	4	○						
	数理統計学	4			○				
	数理と計算	2			○				
	数学の世界	4			○				
	数理と論証	2			○				
	宇宙の科学Ⅱ	2			○				
	地球科学	2		○					
	エネルギー入門	2			○				
	自然科学史Ⅱ	2			○				
	科学論	2			○				
	技術論	2				○			
	平和学B	2			○				
	里山学	2	○						
	生命科学	2		○					
	日本の自然	4	○						
	生命誌	2			○				
	植物の自然誌	2			○				
	動物の自然誌	2			○				
	民族の自然誌	2			○				
	人類進化学	2			○				
	人間の生物学Ⅰ	2			○				
	人間の生物学Ⅱ	2				○			
	自然誌実習	4			○				
野外観察法	2			○					
情報科学Ⅰ	2				○				
情報科学Ⅱ	2					○			
情報科学実習	4		○						
スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2			○				
	現代社会とスポーツ	2		○					
	スポーツ技術学演習	2	○						
	人間とスポーツ	2	○						
	スポーツと人権・平和	2			○				
	スポーツ文化史	2			○				
	スポーツ科学最前線	2	○						
	教養教育科目特別講義	2	○						4単位科目と2単位科目を複数開講するが、1科目(2単位/4単位)のみ卒業要件単位となる。
	教養教育科目特別講義	4	○						
	海外英語研修	2		○					1年次生と2年次生のみ履修可

(注1) 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。(一部例外あり)

(例：1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能)

(注2) 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

詳細は時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引生活
きの

Q
&
A

教員

付録

■学科外国語科目

分野等	授業科目名	ナンバ グ レ イ ド	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考
				1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	
外 国 語	English Communication I -Speaking	C1101X	1	○								選択必修
	English Communication I -Writing	C1102X	1	○								選択必修
	English Communication I -Reading	C1103X	1	○								選択必修
	English Communication I -Seminar A	C1104X	2	○								必修
	English Communication I -Seminar B	C1105X	2	○								必修
	English Communication II -Speaking	C1106X	1		○							選択必修
	English Communication II -Writing	C1107X	1		○							選択必修
	English Communication II -Reading	C1108X	1		○							選択必修
	English Communication II -Seminar A	C1109X	2		○							必修
	English Communication II -Seminar B	C1110X	2		○							必修
	English Communication III -Speaking	C2111X	1			○						選択必修
	English Communication III -Writing	C2112X	1			○						選択必修
	English Communication III -Reading	C2113X	1			○						選択必修
	English Communication IV -Speaking	C2114X	1				○					選択必修
	English Communication IV -Writing	C2115X	1				○					選択必修
	English Communication IV -Reading	C2116X	1				○					選択必修
	フランス語 I	C1117X	3	○								選択必修
	フランス語 II	C1118X	3		○							選択必修
	フランス語 III	C2119X	3			○						選択必修
	フランス語 IV	C2120X	3				○					選択必修
	中国語 I	C1121X	3	○								選択必修
	中国語 II	C1122X	3		○							選択必修
	中国語 III	C2123X	3			○						選択必修
	中国語 IV	C2124X	3				○					選択必修
	コリア語 I	C1125X	3	○								選択必修
	コリア語 II	C1126X	3		○							選択必修
	コリア語 III	C2127X	3			○						選択必修
	コリア語 IV	C2128X	3				○					選択必修
	日本語 I	C1129X	3	○								留学生のみ
	日本語 II	C1130X	3		○							留学生のみ
	日本語 III	C2131X	3			○						留学生のみ
	日本語 IV	C2132X	3				○					留学生のみ
	日本語セミナー A	C1133X	2	○								留学生のみ
	日本語セミナー B	C1134X	2	○								留学生のみ
	日本語セミナー C	C1135X	2		○							留学生のみ
	日本語セミナー D	C1136X	2		○							留学生のみ
選 択	語学研修 A (英語)	C1138X	2	○								
	語学研修 B (英語)	C1139X	4	○								
	語学研修 A (フランス語)	C1140X	2	○								
	語学研修 B (フランス語)	C1141X	4	○								
	語学研修 A (中国語)	C1142X	2	○								
	語学研修 B (中国語)	C1143X	4	○								
	語学研修 A (コリア語)	C1144X	2	○								
	語学研修 B (コリア語)	C1145X	4	○								
バークレイ語学	C1137X	12	○									

■学科専攻科目

分野等	コース	授業科目名	ナンブレ イ ド	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考		
					1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
学 科 基 礎		基礎演習A	C1201X	2	○								必修		
		基礎演習B	C1202X	2		○								必修	
		国際文化学入門	C1230X	2		○								必修	
		調査分析の基礎A	C1203X	2	○									事前登録対象科目	
		調査分析の基礎B	C1204X	2		○								事前登録対象科目	
		キャリア・ガイダンス	C1205X	2	○									事前登録対象科目	
		多文化交流入門	C1207X	2		○									
		宗教学概論	C1208X	2	○										
		自然人類学概論	C1209X	2	○										
		環境共生論入門	C1210X	2		○									
		まちづくり入門	C1211X	2	○										
		社会心理学	C1212X	2		○									
		言語とこころ入門	C1213X	2	○										
		歴史入門	C1227X	2	○										
		東アジアの地域交流	C1215X	2		○									
		現代経済と文化	C1216X	2		○									
		文化人類学入門	C1217X	2	○										
		日本語論文表現（初級）	C1218X	2		○									事前登録対象科目
		日本語論文表現（上級）	C1219X	2		○									事前登録対象科目
		映像文化入門	C1221X	2		○									
		大衆文化入門	C1222X	2	○										
		メディア文化入門	C1223X	2		○									
		比較演劇入門	C1224X	2		○									
		物語と文学	C1225X	2	○										
		比較文化入門	C1226X	2	○										
		学 科 共 通 専 攻		English Workshop A	C2301X	2			○						事前登録対象科目
English Workshop B	C2302X			2				○					事前登録対象科目		
上級英語A	C3305X			2					○					事前登録対象科目	
上級英語B	C3306X			2						○				事前登録対象科目	
Advanced English A	C3307X			2						○				事前登録対象科目	
Advanced English B	C3308X			2							○			事前登録対象科目	
Advanced English C	C3309X			2								○		事前登録対象科目	
Advanced English D	C3310X			2									○	事前登録対象科目	
フランス語セミナーⅠ	C2311X			4				○							
フランス語セミナーⅡ	C2312X			4					○						
フランス語セミナーⅢ	C3313X			4						○					
中国語セミナーⅠ	C2314X			4					○						
中国語セミナーⅡ	C2315X			4						○					
中国語セミナーⅢ	C3316X			4							○				
韓国語セミナーⅠ	C2317X			4					○						
韓国語セミナーⅡ	C2318X			4						○					
韓国語セミナーⅢ	C3319X			4							○				
日本語セミナーE	C3320X			2							○				
日本語セミナーF	C3321X			2								○			
日本語セミナーG	C3322X			2									○		
日本語セミナーH	C3323X			2										○	
ロシア語セミナーⅠA	C2361X			2					○						
ロシア語セミナーⅠB	C2362X			2						○					
ロシア語セミナーⅡA	C2363X			2							○				
ロシア語セミナーⅡB	C2364X			2								○			
トルコ語セミナーⅠ	C2326X			2						○					
トルコ語セミナーⅡ	C2327X	2							○						
アラビア語セミナーⅠ	C2328X	2						○							
アラビア語セミナーⅡ	C2329X	2							○						
スペイン語セミナーⅠ	C2330X	2						○				事前登録対象科目			
スペイン語セミナーⅡ	C2331X	2							○			事前登録対象科目			
ドイツ語セミナーⅠ	C2332X	2						○				事前登録対象科目			
ドイツ語セミナーⅡ	C2333X	2							○			事前登録対象科目			
ロシア語セミナーⅠ	C2334X	2						○				事前登録対象科目			
ロシア語セミナーⅡ	C2335X	2							○			事前登録対象科目			
ロシア語セミナーⅢ	C3336X	2								○		事前登録対象科目			

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録

履修の心得
教育課程
諸課程
学修生活の
Q & A
教員付録

分野等	コース	授業科目名	ナンブレ ンバ イ ド	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考
					1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	
共通		ロシア語セミナーⅣ	C3337X	2						○			事前登録対象科目
		ポルトガル語セミナーⅠ	C2338X	2			○						事前登録対象科目
		ポルトガル語セミナーⅡ	C2339X	2				○					事前登録対象科目
		ポルトガル語セミナーⅢ	C3340X	2					○				事前登録対象科目
		ポルトガル語セミナーⅣ	C3341X	2						○			事前登録対象科目
		実践フランス語A	C2342X	2				○					
		実践フランス語B	C2343X	2				○					
		実践中国語A	C2346X	2				○					
		実践中国語B	C2347X	2				○					
		実践韓国語A	C2350X	2				○					
実践韓国語B	C2351X	2				○							
多文化		住居学概論	C2401X	2			○						
		居住環境概論	C2402X	2				○					
		多文化交流論A	C2403X	2				○					
		多文化交流論B	C2404X	2					○				
		多文化共生と宗教	C2405X	2					○				
		キリスト教の文化A	C2406X	2			○						
		キリスト教の文化B	C2407X	2				○					
		環境人類学	C2408X	2				○					
		環境保全論	C2409X	2					○				
		フィールド実習	C2410X	2					○				
共生		中東政治論	C2411X	2				○					
		イスラームの文化A	C2412X	2				○					
		イスラームの文化B	C3413X	2						○			
		イスラームの社会A	C2414X	2				○					
		イスラームの社会B	C3415X	2						○			
		言語とところA	C2416X	2				○					
		言語とところB	C2417X	2					○				
		音声学概論	C2418X	2				○					事前登録対象科目
		NGO/NPO論	C2419X	2					○				
		国際政治学入門	C2420X	2				○					
専攻		都市計画論	C3421X	2						○			
		比較宗教思想	C3422X	2					○				
		自然と文化	C3423X	2						○			
		社会調査法	C3424X	2						○			
		英語外書講読A	C3425X	2					○				事前登録対象科目
		英語外書講読B	C3426X	2						○			事前登録対象科目
		比較言語学	C3427X	2						○			
		Exploring Cultures	C2428E	2					○				
		世界の宗教と日本	C2501X	2				○					
		日本の宗教	C2502X	2					○				
世界と日本		日本の仏教文化	C3503X	2					○				
		アジアの仏教文化	C2504X	2				○					
		アジアの文化遺産	C2505X	2				○					
		東アジアの古代文化	C3506X	2					○				
		中央アジアと日本	C3507X	2						○			
		日本の経済と社会	C2508X	2				○					
		国際人口移動	C2509X	2				○					
		国際経済と日本	C3510X	2						○			
		海外における日本観	C2511X	2					○				
		オセアニアと日本	C2512X	2				○					
日本		パンパシフィックの移民	C3513X	2						○			
		日本の社会	C3514X	2					○				
		日本の言語文化	C2515X	2				○					
		日本語からみた歴史と文化	C2516X	2				○					
		日本語教育入門	C2517X	2					○				
		日本語教育実践	C2518X	2					○				
		日本の思想	C2519X	2					○				
		日本の近現代と国際関係	C2520X	2					○				
		京ことばと京文化	C2521X	2					○				
		世界と日本の民俗	C3522X	2							○		

分野等	コース	授業科目名	ナン ブレ イ ド	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考	
					1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ		
世界・日本		世界と日本の文学	C2526X	2				○						
		Comparative Culture	C2527E	2				○						
芸 術 ・ メ デ ィ ア		映像文化論A	C2601X	2			○							
		映像文化論B	C2602X	2				○						
		映像文化論C	C3603X	2					○					
		映像文化論D	C3604X	2					○					
		映像文化論E	C3605X	2						○				
		大衆文化論A	C2606X	2			○							
		大衆文化論B	C2607X	2			○							
		大衆文化論C	C2608X	2				○						
		大衆文化論D	C2609X	2				○						
		大衆文化論E	C3610X	2						○				
		メディア文化論A	C2611X	2			○							
		メディア文化論B	C2612X	2			○							
		メディア文化論C	C2613X	2				○						
		メディア文化論D	C3614X	2					○					
		芸術表現法A	C2615X	2			○						事前登録対象科目	
		芸術表現法B	C2616X	2				○					事前登録対象科目	
		芸術表現法D	C2618X	2				○					事前登録対象科目	
		芸術表現法E	C3619X	2					○				事前登録対象科目	
		日本の美術	C2620X	2			○							
		アジアの美術	C2621X	2				○						
		西洋の美術	C2622X	2				○						
		音楽芸術論	C2623X	2				○						
		アートマネジメント	C2624X	2			○							
		伝統芸能論	C2625X	2				○						
		欧米の演劇	C3626X	2					○					
	多文化共生／世界と日本／芸術・メディア		観光学入門	C2A01X	2			○						ITP科目
			観光社会論	C2A02X	2			○						ITP科目
		ホスピタリティ論	C2A03X	2			○						ITP科目	
		観光心理学	C2A04X	2				○					ITP科目	
		国際観光論	C2A05X	2				○					ITP科目	
		観光文化論A	C2A06X	2				○					ITP科目	
		京都観光学A	C2A07X	2				○					ITP科目	
		観光文化論B	C3A01X	2					○				ITP科目	
		京都観光学B	C3A02X	2					○				ITP科目	
		文化・観光政策	C3A03X	2						○			ITP科目	
		旅行の法律	C2A51X	2				○					ITP科目	
		旅行の契約	C2A52X	2				○					ITP科目	
		国内旅行の実務	C3A51X	2					○				ITP科目	
		海外旅行の実務	C3A51X	2					○				ITP科目	
		実践フランス語C	C3A91X	2					○				ITP科目・事前登録対象科目	
		実践フランス語D	C3A92X	2						○			ITP科目・事前登録対象科目	
		実践中国語C	C3A93X	2					○				ITP科目・事前登録対象科目	
		実践中国語D	C3A94X	2						○			ITP科目・事前登録対象科目	
	実践韓国語C	C3A95X	2					○				ITP科目・事前登録対象科目		
	実践韓国語D	C3A96X	2						○			ITP科目・事前登録対象科目		
	English WorkShopC	C3A97X	2					○				ITP科目・事前登録対象科目		
	English WorkShopD	C3A98X	2						○			ITP科目・事前登録対象科目		
共 通		グローバル時代のキャリア設計	C2354X	2			○							
		パークレー講義	C1355X	6	○									
		パークレーボランティア	C1356X	6	○									
演 習		演習Ⅰ	C3701X	2				○					登録必修・履修辞退不可	
		演習Ⅱ	C3702X	2					○				履修辞退不可	
		演習Ⅲ	C4703X	2						○			履修辞退不可	
		演習Ⅳ	C4704X	2							○		履修辞退不可	
論 文		卒業論文	C4801X	6								○		

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きのQ
&
A教
員付
録

分野等	コース	授業科目名	ナン ブレ イ ド	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考
					1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	
学 科 専 攻	グ ロ ー バ ル ス タ ー ディ ー ズ 学 科 提 供 科 目	会話分析入門A	G2311B	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		会話分析入門B	G2312B	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		心理言語学	G3354B	2					○				グローバルスタディーズ学科提供科目
		応用言語学	G3355B	2						○			グローバルスタディーズ学科提供科目
		Contemporary Literature	G2314E	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		国際関係入門	G2321E	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		Introduction to Sociolinguistics	G2351B	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		Introduction to Cultural Anthropology	G2352E	2				○					グローバルスタディーズ学科提供科目
		グローバル化とアフリカ	G2367B	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		グローバル化と東アジア	G2362E	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		グローバル化と南アジア	G2363B	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		グローバル化とヨーロッパ	G2364B	2				○					グローバルスタディーズ学科提供科目
		グローバル化とラテンアメリカ	G2365B	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
		国際政治経済学	G3372B	2					○				グローバルスタディーズ学科提供科目
	異文化間コミュニケーション論	G2371J	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目	
	国 際 文 化 実 践	国際文化実践 I	C2901X	2			○						必修
		国際文化実践II A	C2902X	2				○					選択必修
		国際文化実践II B	C2903X	2				○					選択必修
		国際文化実践II C	C2904X	2				○					選択必修
		国際文化実践II D	C2905X	2				○					選択必修
国際文化実践II E		C2906X	2				○					選択必修	
国際文化実践II F		C2907X	2				○					選択必修	
国際文化実践II G	C2908X	2				○					選択必修		

(注1) 各印は担当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。(一部例外あり)

(例：1年次担当科目であれば、2年次以降も受講可能)

(注2) 上記担当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

詳細は時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

★後期入学生の「学年」と「科目の学年配置」について

9月入学の学生は、入学の翌年度も学年表示は1年次となります(つまり、1年次を1年半続けることとなります。これは年度の途中で学年の進行ができないためです)。

ただし、4月入学と同様に、入学の翌年度は2年次担当の科目を登録・履修することが可能です。

(例：入学の翌年度も1年次だが、開設科目一覧の「2年次」担当の科目が履修可能)

ただし、「外国語」は、先修制のため、上記とは考え方が異なります(P.10「5. 先修制」参照)。

〈参考〉国際文化学科 英文科目名一覧

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
外国語	English Communication I-Speaking	English Communication I-Speaking	C1101X
	English Communication I-Writing	English Communication I-Writing	C1102X
	English Communication I-Reading	English Communication I-Reading	C1103X
	English Communication I-Seminar A	English Communication I-Seminar A	C1104X
	English Communication I-Seminar B	English Communication I-Seminar B	C1105X
	English Communication II-Speaking	English Communication II-Speaking	C1106X
	English Communication II-Writing	English Communication II-Writing	C1107X
	English Communication II-Reading	English Communication II-Reading	C1108X
	English Communication II-Seminar A	English Communication II-Seminar A	C1109X
	English Communication II-Seminar B	English Communication II-Seminar B	C1110X
	English Communication III-Speaking	English Communication III-Speaking	C2111X
	English Communication III-Writing	English Communication III-Writing	C2112X
	English Communication III-Reading	English Communication III-Reading	C2113X
	English Communication IV-Speaking	English Communication IV-Speaking	C2114X
	English Communication IV-Writing	English Communication IV-Writing	C2115X
	English Communication IV-Reading	English Communication IV-Reading	C2116X
	French I	フランス語 I	C1117X
	French II	フランス語 II	C1118X
	French III	フランス語 III	C2119X
	French IV	フランス語 IV	C2120X
	Chinese I	中国語 I	C1121X
	Chinese II	中国語 II	C1122X
	Chinese III	中国語 III	C2123X
	Chinese IV	中国語 IV	C2124X
	Korean I	コリア語 I	C1125X
	Korean II	コリア語 II	C1126X
	Korean III	コリア語 III	C2127X
	Korean IV	コリア語 IV	C2128X
	Japanese I	日本語 I	C1129X
	Japanese II	日本語 II	C1130X
	Japanese III	日本語 III	C2131X
	Japanese IV	日本語 IV	C2132X
	Japanese Seminar A	日本語セミナー A	C1133X
	Japanese Seminar B	日本語セミナー B	C1134X
	Japanese Seminar C	日本語セミナー C	C1135X
	Japanese Seminar D	日本語セミナー D	C1136X
Berkeley, English Language Fluency	バークレー語学	C1137X	
Overseas Language Program A (English)	語学研修A (英語)	C1138X	
Overseas Language Program B (English)	語学研修B (英語)	C1139X	
Overseas Language Program A (French)	語学研修A (フランス語)	C1140X	
Overseas Language Program B (French)	語学研修B (フランス語)	C1141X	
Overseas Language Program A (Chinese)	語学研修A (中国語)	C1142X	
Overseas Language Program B (Chinese)	語学研修B (中国語)	C1143X	
Overseas Language Program A (Korean)	語学研修A (コリア語)	C1144X	
Overseas Language Program B (Korean)	語学研修B (コリア語)	C1145X	
学科基礎	Foundation Seminar A	基礎演習A	C1201X
	Foundation Seminar B	基礎演習B	C1202X
	Introduction to Intercultural Communication	国際文化学入門	C1230X
	Fundamental Research Methods A	調査分析の基礎A	C1203X

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録

履修の心得
教育課程
諸課程
手学
引生活
きの
Q
&
A
教
員
付
録

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
学 科 基 礎	Fundamental Research Methods B	調査分析の基礎B	C1204X
	Career Guidance	キャリア・ガイダンス	C1205X
	Introduction to Multicultural Experiences	多文化交流入門	C1207X
	Introduction to Religious Studies	宗教学概論	C1208X
	Introduction to Biological Anthropology	自然人類学概論	C1209X
	Introduction to Environmental Co-existence	環境共生論入門	C1210X
	Introduction to Community Planning	まちづくり入門	C1211X
	Social Psychology	社会心理学	C1212X
	Introduction to Language and Mind	言語とこころ入門	C1213X
	Introduction to History	歴史入門	C1227X
	Regional Exchanges in Eastern Asia	東アジアの地域交流	C1215X
	Modern Economy and Culture	現代経済と文化	C1216X
	Introduction to Cultural Anthropology	文化人類学入門	C1217X
	Academic Writing in Japanese (Introductory)	日本語論文表現 (初級)	C1218X
	Academic Writing in Japanese (Advanced)	日本語論文表現 (上級)	C1219X
	Introduction to Visual Culture	映像文化入門	C1221X
	Introduction to Popular Culture	大衆文化入門	C1222X
	Introduction to Media and Culture	メディア文化入門	C1223X
	Introduction to Comparative Theatre	比較演劇入門	C1224X
	学 科 専 攻	Narrative and Literature	物語と文学
Introduction to Comparative Culture		比較文化入門	C1226X
English Workshop A		English Workshop A	C2301X
English Workshop B		English Workshop B	C2302X
Upper Level English A		上級英語A	C3305X
Upper Level English B		上級英語B	C3306X
Advanced English A		Advanced English A	C3307X
Advanced English B		Advanced English B	C3308X
Advanced English C		Advanced English C	C3309X
Advanced English D		Advanced English D	C3310X
French Seminar I		フランス語セミナー I	C2311X
French Seminar II		フランス語セミナー II	C2312X
French Seminar III		フランス語セミナー III	C3313X
Chinese Seminar I		中国語セミナー I	C2314X
Chinese Seminar II		中国語セミナー II	C2315X
Chinese Seminar III		中国語セミナー III	C3316X
Korean Seminar I		韓国語セミナー I	C2317X
Korean Seminar II		韓国語セミナー II	C2318X
Korean Seminar III		韓国語セミナー III	C3319X
Japanese Seminar E		日本語セミナー E	C3320X
Japanese Seminar F		日本語セミナー F	C3321X
Japanese Seminar G		日本語セミナー G	C3322X
Japanese Seminar H		日本語セミナー H	C3323X
Persian Seminar I A		ペルシア語セミナー I A	C2361X
Persian Seminar I B		ペルシア語セミナー I B	C2362X
Persian Seminar II A		ペルシア語セミナー II A	C2363X
Persian Seminar II B		ペルシア語セミナー II B	C2364X
Turkish Seminar I		トルコ語セミナー I	C2326X
Turkish Seminar II		トルコ語セミナー II	C2327X
Arabic Seminar I		アラビア語セミナー I	C2328X
Arabic Seminar II		アラビア語セミナー II	C2329X
Spanish Seminar I		スペイン語セミナー I	C2330X

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
学 科 専 攻	Spanish Seminar II	スペイン語セミナー II	C2331X
	German Seminar I	ドイツ語セミナー I	C2332X
	German Seminar II	ドイツ語セミナー II	C2333X
	Russian Seminar I	ロシア語セミナー I	C2334X
	Russian Seminar II	ロシア語セミナー II	C2335X
	Russian Seminar III	ロシア語セミナー III	C3336X
	Russian Seminar IV	ロシア語セミナー IV	C3337X
	Portuguese Seminar I	ポルトガル語セミナー I	C2338X
	Portuguese Seminar II	ポルトガル語セミナー II	C2339X
	Portuguese Seminar III	ポルトガル語セミナー III	C3340X
	Portuguese Seminar IV	ポルトガル語セミナー IV	C3341X
	Practice of French Language A	実践フランス語A	C2342X
	Practice of French Language B	実践フランス語B	C2343X
	Practice of Chinese Language A	実践中国語A	C2346X
	Practice of Chinese Language B	実践中国語B	C2347X
	Practice of Korean Language A	実践韓国語A	C2350X
	Practice of Korean Language B	実践韓国語B	C2351X
	Introduction to Design and Theory of Your Life Space	住居学概論	C2401X
	Introduction to Living Environment	居住環境概論	C2402X
	Multicultural Experiences A	多文化交流論A	C2403X
	Multicultural Experiences B	多文化交流論B	C2404X
	Multicultural Cooperation and Religion	多文化共生と宗教	C2405X
	Culture of Christianity A	キリスト教の文化A	C2406X
	Culture of Christianity B	キリスト教の文化B	C2407X
	Environmental Anthropology	環境人類学	C2408X
	Environmental Conservation	環境保全論	C2409X
	Fieldwork	フィールド実習	C2410X
	Middle Eastern Politics	中東政治論	C2411X
	Islamic Culture A	イスラームの文化A	C2412X
	Islamic Culture B	イスラームの文化B	C3413X
	Islamic Society A	イスラームの社会A	C2414X
	Islamic Society B	イスラームの社会B	C3415X
	Language and Mind A	言語とこころA	C2416X
	Language and Mind B	言語とこころB	C2417X
	Introduction to Phonetics	音声学概論	C2418X
	Third Sector Studies	NGO/NPO論	C2419X
	Introduction to International Politics	国際政治学入門	C2420X
	Introduction to Urban Planning	都市計画論	C3421X
	Comparative Religion	比較宗教思想	C3422X
	Nature and Culture	自然と文化	C3423X
	Social Research Methods	社会調査法	C3424X
	Intensive English Reading A	英語外書講読A	C3425X
	Intensive English Reading B	英語外書講読B	C3426X
Comparative Linguistics	比較言語学	C3427X	
Exploring Cultures	Exploring Cultures	C2428E	
World Religions and Japan	世界の宗教と日本	C2501X	
Religions in Japan	日本の宗教	C2502X	
Buddhist Culture in Japan	日本の仏教文化	C3503X	
Buddhist Cultures in Asia	アジアの仏教文化	C2504X	

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きのQ
&
A教
員

付

録

履修の心得
 教育課程
 諸課程
 手学
 引生活
 きの
 Q
 &
 A
 教
 員
 付
 録

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
学 科 専 攻	Cultural Heritage Sites in Asia	アジアの文化遺産	C2505X
	Ancient Cultures in Eastern Asia	東アジアの古代文化	C3506X
	Central Asia and Japan	中央アジアと日本	C3507X
	Japanese Economy and Society	日本の経済と社会	C2508X
	International Migration	国際人口移動	C2509X
	International Economy and Japan	国際経済と日本	C3510X
	Overseas' Views of Japan	海外における日本観	C2511X
	Oceania and Japan	オセアニアと日本	C2512X
	Pan-pacific Migration	パンパシフィックの移民	C3513X
	Japanese Society	日本の社会	C3514X
	Linguistic Culture in Japan	日本の言語文化	C2515X
	History and Culture from a Japanese Language Perspective	日本語からみた歴史と文化	C2516X
	Introduction to Japanese Teaching	日本語教育入門	C2517X
	Japanese Teaching Practice	日本語教育実践	C2518X
	Japanese Thought	日本の思想	C2519X
	Japanese Modern Era and International Relations	日本の近現代と国際関係	C2520X
	Kyoto Dialect and the Culture of Kyoto	京ことばと京文化	C2521X
	Folklore of the World and Japan	世界と日本の民俗	C3522X
	World and Japanese literature	世界と日本の文学	C2526X
	Comparative Culture	Comparative Culture	C2527E
	Visual Culture A	映像文化論A	C2601X
	Visual Culture B	映像文化論B	C2602X
	Visual Culture C	映像文化論C	C3603X
	Visual Culture D	映像文化論D	C3604X
	Visual Culture E	映像文化論E	C3605X
	Popular Culture A	大衆文化論A	C2606X
	Popular Culture B	大衆文化論B	C2607X
	Popular Culture C	大衆文化論C	C2608X
	Popular Culture D	大衆文化論D	C2609X
	Popular Culture E	大衆文化論E	C3610X
	Media and Culture A	メディア文化論A	C2611X
	Media and Culture B	メディア文化論B	C2612X
	Media and Culture C	メディア文化論C	C2613X
	Media and Culture D	メディア文化論D	C3614X
	Artistic Expression A	芸術表現法A	C2615X
	Artistic Expression B	芸術表現法B	C2616X
	Artistic Expression D	芸術表現法D	C2618X
	Artistic Expression E	芸術表現法E	C3619X
	Japanese Art History	日本の美術	C2620X
	Asian Art History	アジアの美術	C2621X
	Western Art History	西洋の美術	C2622X
	Music Studies	音楽芸術論	C2623X
	Arts Administration and Cultural Policy	アートマネジメント	C2624X
	Traditional Theatre	伝統芸能論	C2625X
	Euro-American Theatre	欧米の演劇	C3626X
Introduction to Tourism Studies	観光学入門	C2A01X	
Tourism and Society	観光社会論	C2A02X	
Hospitality Studies	ホスピタリティ論	C2A03X	
Psychology and Tourism	観光心理学	C2A04X	
International Tourism	国際観光論	C2A05X	

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
学 科 専 攻	Tourism Culture A	観光文化論 A	C2A06X
	Kyoto Tourism Studies A	京都観光学 A	C2A07X
	Tourism Culture B	観光文化論 B	C3A01X
	Kyoto Tourism Studies B	京都観光学 B	C3A02X
	Culture and Tourism Policy	文化・観光政策	C3A03X
	Tourism Law	旅行の法律	C2A51X
	Tourism Contracts	旅行の契約	C2A52X
	Domestic travel practice	国内旅行の実務	C3A51X
	Overseas travel practice	海外旅行の実務	C3A51X
	Practice of French Language C	実践フランス語C	C3A91X
	Practice of French Language D	実践フランス語D	C3A92X
	Practice of Chinese Language C	実践コリア語C	C3A93X
	Practice of Chinese Language D	実践コリア語D	C3A94X
	Practice of Korean Language C	実践中国語C	C3A95X
	Practice of Korean Language D	実践中国語D	C3A96X
	English WorkShop C	English WorkShop C	C3A97X
	English WorkShop D	English WorkShop D	C3A98X
	Globalization and Career Development	グローバル時代のキャリア設計	C2354X
	Berkeley, Contemporary American Culture and Society	バークレー講義	C1355X
	Berkeley, Volunteer Experience	バークレーボランティア	C1356X
Thesis Seminar I	演習 I	C3701X	
Thesis Seminar II	演習 II	C3702X	
Thesis Seminar III	演習 III	C4703X	
Thesis Seminar IV	演習 IV	C4704X	
Graduation Research and Thesis	卒業論文	C4801X	
グ ロ ー バ ル ス タ デ ィ ー ズ 学 科 提 供 科 目	Introduction to Conversation Analysis A	会話分析入門A	G2311B
	Introduction to Conversation Analysis B	会話分析入門B	G2312B
	Psycholinguistics	心理言語学	G3354B
	Applied Linguistics	応用言語学	G3355B
	Contemporary Literature	Contemporary Literature	G2314E
	Introduction to International Relations	国際関係入門	G2321E
	Introduction to Sociolinguistics	Introduction to Sociolinguistics	G2351B
	Introduction to Cultural Anthropology	Introduction to Cultural Anthropology	G2352E
	Globalization and Africa	グローバリゼーションとアフリカ	G2367B
	Globalization and East Asia	グローバリゼーションと東アジア	G2362E
	Globalization and South Asia	グローバリゼーションと南アジア	G2363B
	Globalization and Europe	グローバリゼーションとヨーロッパ	G2364B
	Globalization and Latin America	グローバリゼーションとラテンアメリカ	G2365B
	International Political Economy	国際政治経済学	G3372B
Intercultural Communication	異文化間コミュニケーション論	G2371J	
国 際 文 化 実 践	Intercultural Communication Program I	国際文化実践 I	C2901X
	Intercultural Communication Program II A	国際文化実践 II A	C2902X
	Intercultural Communication Program II B	国際文化実践 II B	C2903X
	Intercultural Communication Program II C	国際文化実践 II C	C2904X
	Intercultural Communication Program II D	国際文化実践 II D	C2905X
	Intercultural Communication Program II E	国際文化実践 II E	C2906X
	Intercultural Communication Program II F	国際文化実践 II F	C2907X
	Intercultural Communication Program II G	国際文化実践 II G	C2908X

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きのQ
&
A教
員付
録

Ⅷ 卒業論文

国際文化学科では、大学での学びの集大成として、学生自らが設定したテーマで卒業論文を書くことを推奨しています。「卒業論文」（6単位）は4年次前期（第7セメスター）に、「演習Ⅲ」と同時に履修登録します。演習Ⅰ～Ⅳは先修制ですので、卒業論文の執筆を希望する場合は、「演習Ⅰ」および「演習Ⅱ」を修得しなければなりません。「演習Ⅲ」や「卒業論文」を履修しない、あるいは履修したにもかかわらず不合格となった場合は、代わりに学科専攻の他の科目（コース提供科目）で卒業要件単位を修得する必要があります。

なお、演習担当教員によっては、卒業論文の代わりに卒業制作（文芸・学術・美術・音楽等の作品制作）を認めている場合があります（この場合も履修登録する科目名は「卒業論文」になります）。詳細については、演習（ゼミ）に関する学内説明会や掲示板等で別途お知らせします。

1. 卒業論文執筆および提出要領

- ① 卒業論文は文書作成ソフト（Microsoft Word等）を用いて執筆するものとします。ただし、指導教員が認めた場合は手書きも可とします。また、指導教員が認めた場合は「卒業制作」として、論文以外の成果物の提出も可とします。卒業制作の場合は、制作の意義・意図・過程等をまとめた「報告書（制作ノート）」を成果物と併せて提出する必要があります。

【文書作成ソフトで執筆する場合】

- ・用紙はA4サイズ、白の普通紙（感熱紙不可）、黒字印字とします。
- ・日本語の場合、1ページあたり1000字（40字×25行）の設定とします。
- ・英語の場合、行間をダブルスペースとします。
- ・フォントは明朝体を基本とし、大きさは10.5ポイント～11ポイントとします。
- ・左余白を25ミリとします。その他の余白設定については自由です。

【手書きで執筆する場合】

- ・用紙はA4サイズ、400字詰め原稿用紙とします（龍谷大学生協で購入可）。
- ・横書き、縦書きどちらでも可。指導教員の指示にしたがってください。
- ・黒のボールペンもしくはそれに類するものを使用し、鉛筆は使用しないでください。

- ② 卒業論文は日本語で執筆するものとします。ただし、指導教員が認めた場合は、日本語以外の言語で執筆することも可とします。また、卒業論文は、卒業予定者自身のオリジナルなものに限ります。他人の文章を引用する場合、必ず引用箇所・出典を明示し、剽窃（盗用）とならないように十分注意してください。
- ③ 卒業論文は、原則として個人による執筆（単著論文）とします。ただし、指導教員が認めた場合は、共同執筆による論文（共著論文）も認めます。共同執筆の具体的な方法等については、指導教員の指示にしたがいます。
- ④ 卒業論文の長さは、日本語の場合、本文で12,000字以上～20,000字程度までとします。英文の場合、本文で5,000語（words）以上～7,500語（words）程度までとします。卒業制作の場合に提出する報告書（制作ノート）については、指導教員の指示にしたがいます。

- ⑤ 卒業論文には、本文のほかに、日本語の卒業論文要旨（600字以内）、内表紙、目次、参考文献を必ずつけます。ただし、本文以外は卒業論文の字数には含めません。また、卒業論文の参考資料として、各種記録メディア（CD、DVD、USBフラッシュメモリ等）や模型・作品など、添付資料の提出を認めます。ただし、これらに関する説明文等は本文の字数には含めません。
- ⑥ 卒業論文提出時は、内表紙、論文要旨、目次、添付資料リスト（添付資料がある場合）、本文、参考文献の順でファイルに綴じてください。内表紙は1枚とし、「題目」、「卒業年度」、「執筆者学籍番号」、「執筆者氏名」、「指導教員名」を書きます。

【卒業論文の綴じ方】

- ・卒業論文は、別に定める紙製ファイルに綴じて（左綴じ）提出してください。
 - ・ファイルの表紙には、「卒業論文タイトル記入用紙」を貼付してください。
 - ・ファイルの背表紙には「学籍番号」、「氏名」、「指導教員名」を記載してください。
 - ・「卒業論文タイトル記入用紙」や「卒業論文要旨」の書式は、国際学部ホームページ上の「ダウンロードセンター」から入手できます。
 - ・内表紙、論文要旨以外には通しのページ番号をつけてください。
 - ・添付する表や図等が大きい場合は、A4以下に折りたたんで綴じるようにしてください。
 - ・綴じたファイル2部のほかに、卒業論文要旨のみ1部を別に提出してください。
- ⑦ 卒業論文は2部、「卒業論文受領書」とともに、提出期限までに本人が国際学部教務課に持参して提出します。国際学部教務課による検認後、「卒業論文受領書」に受領印をもらいます。受領印をもらった卒業論文の1部は指導教員が、もう1部は本人が一定期間保管します。提出する2部のうち1部に関しては、同じサイズのコピーでも構いません。

【提出にかかる注意点】

- ・提出時は、指導教員が提出承認欄に押印した「卒業論文受領書」を一緒に提出します。卒業論文受領書の提出承認欄に指導教員の押印がない場合、卒業論文は提出できません。
 - ・卒業論文受領書、卒業論文タイトル（表紙）、および、卒業論文要旨に記載する題目は、記号や大文字・小文字等も含めて同一でなければなりません。
 - ・執筆した学生本人からの提出のみ受け付けます。友人等による代理提出、郵送による提出は認められません。ただし、留学中や入院など、やむを得ぬ事情で直接本人が提出できない場合は、指導教員による代理の提出を認めます。該当する学生は、事前に指導教員に相談してください。なお、個人的な旅行は指導教員による代理提出許可の対象とはなりません。
- ⑧ 卒業論文の提出時期については概ね以下のとおりです。最新の情報については掲示板等で必ず確認してください。

3月卒業予定者を対象としたスケジュール

卒業論文の提出

4年次の12月中旬 ※国際学部教務課に提出

2. 注意事項

・「卒業論文」と「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」は関連付けられています。4年次後期において「卒業論文」を提出する場合は、4年次前期（第7セメスター）の履修登録時に「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」を履修登録し、「卒業論文」も併せて履修登録をおこなう必要があります。また、「演習Ⅲ」の単位が認定され、4年次後期（第8セメスター）に「演習Ⅳ」を履修した者が「卒業論文」を提出できます。

・演習は先修制のため、「演習Ⅲ」が不合格となった場合、「演習Ⅳ」や「卒業論文」を履修することはできません。この場合、所属コースが提供する学科専攻科目から任意の授業を履修し、代わりとなる単位を修得する必要があります。

・「演習Ⅲ」が不合格となった場合、一定の条件の下で再履修が認められる場合があります。詳細については、別途掲示板等でお知らせします。

3. 評価方法

卒業論文は、原則として以下の項目にもとづいて評価されます。執筆に当たっては、これらの基準が意味するところを十分理解し、完成度の高い卒業論文を追求することが求められます。詳細については、国際学部教務課や指導教員に確認・相談するようにしてください。

【卒業論文における評価項目】

- 1) 論文の構成と展開
- 2) 内容の一貫性
- 3) 独創性・新奇（新規）性
- 4) 表現力・言葉遣いの適切さ
- 5) 参考文献・資料等の適切さ

⚠ 注意事項

卒業論文について、既存文書からの不正な転用等が認められたときは、「卒業論文」を無効扱いとし、その学期に履修登録した全科目の単位認定をおこないません。

X その他の教育課程・教育プログラム

国際学部の教育課程の他にも、みなさんが受講できる多様な教育課程・教育プログラムがあります。詳細は、ホームページ、配布冊子などで確認するとともに、各担当窓口にお問い合わせください。

1. 留学／国際交流プログラム・単位互換制度・各種インターンシッププログラム

留学／国際交流プログラムについて	担当窓口・関係情報
<p>龍谷大学では、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成及び「多文化共生キャンパスの実現」を目的として、学生の海外派遣及び外国人留学生の受入を積極的に推進するため、様々な留学制度や国際交流プログラムを整備しています。交換留学や私費留学に加えて、龍谷大学の海外拠点であるRUBeC (Ryukoku University Berkeley Center) で展開されるBIE (Berkeley Intercultural English) プログラムや短期海外派遣プログラム等の多様なプログラムが展開されています。また、グローバルコモンズにおいては、英会話レッスン、英語ディスカッション等さまざまな英語学習プログラムを提供しています。</p> <p>経済、社会、文化、政治などあらゆる局面でグローバル化が急速に進む現在、海外の大学での学修、国内外での異文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。</p>	<p>(担当窓口) グローバル教育推進センター 深草学舎 和顔館1階／瀬田学舎 智光館2階 ※単位認定に関する相談は国際学部教務課 深草学舎 和顔館1階 留学サポートデスク</p> <p>(関係情報) ・「留学ガイド」グローバル教育推進センターで配布 ・グローバル教育推進センター ホームページ (URL) https://intl.ryukoku.ac.jp (QRコード) </p> <p>・龍谷大学グローバル教育推進センター 交換留学マンスリーレポート (URL) http://www.mrepo.jp/ (QRコード) </p>
大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都では、京都地域の約50の大学・短期大学が協定を締結し、各大学の科目を履修できる「単位互換授業」の制度を設置しています。</p> <p>一部の科目は、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」で開講されます。</p> <p>なお、出願については、ポータルサイトの「大学コンソーシアム京都 単位互換申請」より行ってください。大学コンソーシアム京都のHPより出願しても無効となりますのでご注意ください。</p>	<p>(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、国際学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 単位互換制度特設サイト (URL) https://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/index.html</p>

<p>協定型インターンシッププログラム</p> <p>本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学修を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。また、20講以上に及ぶ事前・事後学修では、グループワークを中心として進行し、課題発見力や主体性、発信力や傾聴力といった社会で求められる様々な能力を身につけることができます。</p>	<p>担当窓口・関係情報</p> <p>(担当窓口) インターンシップ支援オフィス 深草学舎 5号館1階／瀬田学舎 1号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシッププログラム リーフレット」 (インターンシップ支援オフィスにて配布) ・インターンシップ支援オフィス (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/internship/internship.html</p>
<p>大学コンソーシアム京都 「インターンシップ・プログラム」</p>	<p>担当窓口・関係情報</p>
<p>大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム(コーオプ教育)として、1998年度より全国に先駆けて開始しています。単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。</p>	<p>(担当窓口) 【単位認定に関する問い合わせ】 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階 【プログラムに関する問い合わせ】 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業推進室 〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャンパスプラザ京都内 TEL：075-353-9106</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」(インターンシップ支援オフィスにて配布 深草学舎5号館1階／瀬田学舎1号館1階) ・大学コンソーシアム京都 インターンシップサイト (URL) http://www.consortium.or.jp/project/intern</p>

第3部 諸課程

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録

I 諸課程

1. 諸課程

教職課程	担当窓口・関係情報
<p>教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした、実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。</p>	<p>(担当窓口) 教職センター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西館1階 瀬田学舎 3号館1階</p> <p>(関係情報) 『教職課程ガイドブック』 教職センター HP (URL) https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku</p>
本願寺派教師資格課程	担当窓口・関係情報
<p>浄土真宗本願寺派教師（住職）となるための資格です。本願寺派教師資格として必要な科目を履修することで取得できます。</p>	<p>(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>
博物館学芸員課程	担当窓口・関係情報
<p>資料の収集・保管・展示および調査研究等の業務に携わり、博物館の事業全般をサポートする博物館学芸員を養成します。</p>	<p>(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>
ICCO文化交流創成コーディネーター／ Intercultural Coordinator（通称：インターカル チュラル・コーディネーター）資格認定制度	担当窓口・関係情報
<p>ICCO（インターカルチュラル・コーディネーター）は、日本国際文化学会が認定する資格です。この資格は、新たな時代や社会づくりに向けて、人と人、人とモノ、コトとコト、モノとモノ、地域と地域、地域と世界など、文化と文化の〈あいだ〉につながりをつける力を備えた人材を養成することを目的としています。</p>	<p>(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階</p>

2. 特別研修講座・各種講座・試験

課程	目的・内容	担当部署
国際伝道者養成課程	広く国際的な素養として英語で仏教・浄土真宗を学修することや、海外の仏教事情に関心を持つ方を対象にした課程であり、また同時に、将来、浄土真宗本願寺派の海外開教区で伝道者として活躍できる人材養成を目的とした講座です。	(大宮) 文学部教務課
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員や、犯罪をおかしたり非行をおこなった人たちの社会復帰を手助けする保護観察官等の専門職やボランティアを養成するために、実務に即した教育プログラムを提供しています。	矯正・保護総合センター事務部 深草学舎至心館1階 〈各学舎申し込み窓口〉 (深草) 法学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (大宮) 文学部教務課 大宮学舎 西翼1階 (瀬田) 社会学部教務課 瀬田学舎 6号館1階
法職課程	各種公務員試験(国家一般職、地方上級等)の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、法律科目を体系的かつ効率的に学習できる講座や最新の試験情報などを提供することで、志望先への合格・進学を目的としています。	法学部教務課 深草学舎 紫英館1階
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座です。	教職センター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西翼1階 瀬田学舎 3号館1階
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※開講する学舎が限定されている講座があります。	将来のキャリアアップのための資格試験対策や就職活動のサポート、公務員試験対策などを目的とした各種講座を開講。信頼と実績のある専門学校等と提携し、学生の一人ひとりの目標や夢の実現をバックアップしています。 〈資格系・就職対策〉 FP技能士講座(3級・2級AFP) / 宅地建物取引士講座 / 旅行業務取扱管理者講座 / エアライン就職対策講座 / 秘書検定講座(2級・準1級対策) / 色彩検定講座(3級・2級対策) / 介護職員初任者研修講座 / MOS講座(Excel2016、Word2016) / 社会福祉士国家試験講座 / ITパスポート試験対策講座 / 基本情報技術者試験対策講座 / CAD利用技術者講座(2級) 〈語学系〉 TOEIC®講座 〈公務員試験対策〉 公務員講座	キャリアセンター 深草学舎 5号館1階 大宮学舎 東翼2階 瀬田学舎 1号館1階

<p>生涯学習講座</p>	<p>〈RECコミュニティカレッジ〉</p> <p>「RECコミュニティカレッジ」は、一般向けの公開講座で、「仏教・こころ」「文化・歴史」「文学」「自然・環境」「くらしと健康」「現代社会」「外国語」の計7コースで様々な講座を開講しており、年間延べ1万人余りの方々が学ばれています。</p> <p>本学学生は、REC会員価格で受講できます。教養を深め、また、年配の方々と交流する機会として是非ともご利用ください。</p> <p>詳しくはREC（京都・滋賀）の窓口で配布している『RECコミュニティカレッジパンフレット』をご覧ください。</p> <p>〈龍谷講座〉</p> <p>「龍谷講座」は、市民を対象にした公開講座で、現代社会の要請に応え、本学における研究の成果を地域社会に還元し、大学の社会的使命の一端を果たすことを目的としています。1977（昭和52）年から開講しており、時代のニーズに応じたテーマを取り上げ、現在、半期3～4講座を開講しています。受講料は無料ですので、気軽に受講してください。</p>	<p>REC事務部 深草学舎 紫光館5階 瀬田学舎 RECホール</p>
---------------	--	--

第4部 学修生活の手引き

I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室

1. 窓口事務

各学部教務課の窓口事務については、履修要項WEBサイトに掲載していますので、確認してください。
(<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)

主に次の情報を掲載しています。

- (1) 窓口取扱時間
- (2) 届出書・願書および各種証明書
- (3) 各種証明書の交付について
- (4) 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学HP『保健管理センター』に掲載しています。(<https://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>)

毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程をHPで確認するようにしてください。

その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) 緊急時には
- (2) 学校感染症に罹患した場合には
- (3) カウンセラーに相談したい
- (4) 保健師・看護師に相談したい
- (5) 医師の診療を受けたい
- (6) 急な怪我をした
- (7) タバコをやめたい
- (8) 健康チェックをしたい
- (9) 健康診断
- (10) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (11) AEDについて知りたい

3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりを目指し、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。詳しくは、本学HP『障がい学生支援』に掲載しています。(<https://www.ryukoku.ac.jp/support/index.php>)

HPでは主に次の情報を掲載しています。

- (1) 障がい学生支援室について
- (2) 支援を希望される方へ（支援の内容、支援の申し出方法、障がい学生支援室の紹介）
- (3) 支援をしたい方へ（学生スタッフ募集）
- (4) よくある質問（Q&A）

Ⅱ 授業等の休講措置に関する取扱基準

(自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について)

自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱については、「授業等の休講措置に関する取扱基準」によります。

○授業等の休講措置に関する取扱基準:

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/classinfo/disaster.html

「授業等の休講措置に関する取扱基準」に定める自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無については、以下の4つの方法で確認することができます。

確認方法	説明
(1) 大学ホームページ https://www.ryukoku.ac.jp/	トップページに「重要なお知らせ」として授業実施の有無を記載します。
(2) ポータルサイト https://portal.ryukoku.ac.jp	ポータルサイトのログイン画面に、ホームページと同様の情報を記載します。
(3) 公式Twitter「龍谷大学（緊急連絡用）」 https://twitter.com/Ryukoku_univ (@Ryukoku_univ)	大学全体に関わる緊急情報の速報発信を目的として、本学公式Twitterアカウントを開設しています。ここからホームページと同様の情報を発信します。 WebブラウザのURL入力欄に左記URLを直接入力し、サイトを閲覧してください（事前にお気に入り登録しておくとう便利です）。
(4) 公式Facebook「龍谷大学」 https://www.facebook.com/RyukokuUniversity	大学全体の特色等を発信することを目的として、本学公式Facebookページを開設しています。緊急時には本アカウントからも、ホームページと同様の情報を発信します。 WebブラウザのURL入力欄に左記URLを直接入力し、サイトを閲覧してください（事前にお気に入り登録しておくとう便利です）。

※緊急時は、大学ホームページおよびポータルサイトへのアクセスが集中し、サイトを閲覧できなくなる可能性がありますので、「公式Twitter」と「公式Facebook」の利用を推奨します。

Ⅲ 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の学籍番号が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

X	19	0	001
L : 文学部	入学年度（西暦）の下2桁	学生区分（主たる学生区分を記す）	学部内における個人番号
E : 経済学部		学部生 : 0~7	
B : 経営学部		編転入生 : 8	
J : 法学部		再入学生 : 9	
T : 理工学部		修士課程 : M	
C : 社会学部		博士後期課程 : D	
W : 国際文化学部		短大専攻科生 : A	
H : 政策学部		専門職学位課程生 : F	
U : 国際学部		研究生 : R	
N : 農学部		特別専攻生 : S	
S : 短期大学部		科目等特別履修生 : U	
M : 実践真宗学研究科		科目等履修生 : V	
R : 留学生別科		外国人特別留学生・交換留学生 : Y	

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。

頭のアルファベット（学部等をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にするものとして、**学籍簿**（入学手続き時に各自がWeb入学手続にて登録）が編成されます。学籍簿に登録される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに国際学部教務課窓口へ届け出てください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ① 学業成績表を受領するとき。
 - ② 試験を受けるとき。
 - ③ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - ④ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - ⑤ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - ⑥ 図書館を利用するとき。
 - ⑦ その他、本人であることを確認することが必要なとき。

- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用しますので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください（新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください）。

なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールをはがしたうえで、新しいシールを貼ってください。

また、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。

- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに国際学部教務課窓口はその内容を届け出てください。

- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに国際学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」（紛失・破損届）に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署（交番）・生協事務室に紛失届等の提出をしてください。

- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを国際学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。

- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。

- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。

- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに国際学部教務課窓口へ返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失（本学の学生でなくなる）することです。

依願退学は、学生の意志によるものであることから、いつでも願い出ることができますが、次の諸手続きが必要です。

ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。

イ 当該該学期分の学費を納入していること等(学費の納入と学籍の取得は対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応しますので相談してください)。

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることができません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを除籍として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ① 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- ② 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ③ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、休学を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ① 大学所定の書式により願い出ること。
- ② 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ③ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

① 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。

1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31

日までに国際学部教務課窓口に大学所定の書類を提出してください。なお、受付は窓口の開室日に限ります。

- ② 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ③ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。復学の願い出は、学期開始日の前1ヶ月以内になければなりません。

6. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときに、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときに除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。

7. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を国際学部教務課窓口速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがあります。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則18条の3）

8. 9月卒業

第1学期（前期）末（9月30日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、届出期間内に9月卒業の希望申込をした場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません）。詳細については国際学部教務課窓口で相談してください。

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教員

付録

第5部 Q & A

登録・履修・試験について

Q 1年次で開講されている科目は、2年次以上でも履修できるのですか。

A 履修できます。各科目を受講できる学年はP.51～P.58の開設科目を参照してください。「1年」に○があれば「1年次以上から卒業年次まで」、「2年」に○があれば「2年次から卒業年次まで」受講することができます。

Q 予備・事前登録はどのようにおこなうのでしょうか。

A 本学のポータルサイトにログインし「予備・事前登録」より予備・事前登録をおこなってください。（日程は国際学部掲示板等で各自確認してください）。

結果については、以下のとおりポータルサイトで発表します。

- ◆当該科目が受講許可された場合
 - 履修登録（本登録）の登録画面上で、「履修確定」として結果が表示されます。
- ◆当該科目が受講許可されなかった場合
 - 表示されません。

受講許可された場合に限り、履修登録（本登録）および受講が可能となります。

受講許可がされなかった場合や、予備・事前登録を行わなかった場合は、理由のいかんに関わらず、一切登録・受講を認めません。

また、当該科目が受講定員に満たなかった場合、追加募集をおこなうことがあります。実施の有無については、国際学部教務課掲示板およびポータルサイトに掲載します。

なお、追加募集は国際学部教務課窓口でのみ受け付けます。（Webでは登録できません）

Q 予備・事前登録で受講許可が出た科目は、改めて履修登録しなければなりませんか。

A 受講許可が出た科目は、必ず履修登録期間中に履修登録をしてください。そのままでは登録されません。履修登録をしないと、「受講登録確認表」にエラーが表示されます。

Q 予備・事前登録した科目が受講許可された場合、必ず履修しなければなりませんか。取消はできますか。

A 一旦許可された予備・事前登録科目は、必ず履修しなければなりません。よって**取消は認めません**。予備登録をする前に履修要項やシラバスをよく読んで、今までの成績表を確認しながら、履修計画をきちんと立てておく必要があります。また、予備・事前登録をした科目は「履修辞退」もできません。

Q 予備・事前登録期間に手続ができませんでした。後日手続はできますか。

A 予備登録は予備・事前登録期間中のみ受け付けています。ただ、予備・事前登録結果発表の際に受講者の上限に余裕がある場合に限り、「追加募集」をおこなうことがあります。それに該当する科目であれば、登録は可能です。その際、登録は国際学部教務課窓口にて受け付けます。いずれにせよ、事前に予備・事前登録期間および科目を掲示板で確認することが大切です。

Q 2年次から所属するコースについて教えてください。どのようなコースがありますか。

A P.37～を参照してください。

Q 「日本語論文表現」について教えてください。

A 「日本語論文表現」は留学生のみ受講することができます（日本人学生は受講できません）。第1回目の授業時に、クラス分け試験（プレイスマンテスト）を実施し、第2回目からクラス毎に分かれての受講になります。（クラス分け試験を受けていなければ、受講できません）
まずは履修を希望するクラス（「初級」または「上級」）をWeb登録してください。ただし、試験結果によっては、所属クラス（「初級」と「上級」）が変更となることもあります（後日クラス分け結果を国際学部掲示版にて発表します。必ず確認してください）。

Q 再履修はどのクラスを受講すればよいですか。

A ①「基礎演習A・B」について
それぞれ指定されたクラスを受講してください。クラス指定に関しては、履修登録画面を確認してください。
②「必修外国語」について
それぞれ指定されたクラスを受講してください。クラス指定に関しては、履修登録画面を確認してください。
③「仏教の思想A・B」について
それぞれ指定されたクラスを受講してください。クラス指定に関しては、履修登録画面を確認してください。

Q 留学先で修得した授業科目の単位は、いつの成績表に記載されますか。

A 春期休暇中に短期留学に参加した場合の単位認定の結果については、次年度後期に配布される成績表に評価を記載します。夏期休暇中に短期留学に参加した方の単位認定の結果については、次年度前期に配布される成績表に評価を記載します。
各自、ポータルサイトのお知らせで認定結果を確認してください。

Q 「フリーゾーン」を満たすにはどの科目を履修すればよいですか。

A 「フリーゾーン」は「外国語」「学科基礎科目」「教養教育科目」「学科専攻科目」「国際文化実践プログラム」の修得単位の余剰分を指します。
この「フリーゾーン」については、個々人の関心とニーズに応じて多様な選択ができるように設けられています。教養知識を身につけたい学生は「教養教育科目」で充足してください。専門知識を身につけたい学生は「学科専攻科目」で充足してください。どの分野の科目を選択するかはみなさん次第です。また、グローバルスタディーズ学科提供科目を履修した場合も「フリーゾーン」で認定されます。

Q クラス指定や予備・事前登録のない科目は、どの先生の授業を履修してもよいのですか。

A 担当教員によって講義の内容が異なります。シラバスを参考にして、自分の興味がある内容の講義を履修することができます。クラス指定されている科目については、掲示板で自分のクラスを確認してください。
なお、同一科目であれば、たとえ担当者や開講曜講時が異なる場合でも、一度単位を修得した科目は再度履修登録できませんので注意してください。

Q 昨年度、不合格や履修辞退した科目は、今年度も履修登録できますか。

A 履修登録できます。なお、一度単位を修得した科目は再度履修登録できません。

Q 「サマーセッション」はいつ履修登録すればよいのですか。履修登録制限単位に含まれますか。

A サマーセッションを利用して開講される科目は、前期の履修登録時に登録してください。登録できる科目は2科目までとなります。
履修登録制限単位に含める必要はありません。(その他の履修登録制限単位に含まれない科目については、P.10を参照してください)
なお、単位認定は後期に行います。

Q 履修登録後、登録間違いに気づきました。修正することはできますか。

A 履修登録期間中であれば、修正は可能です。万一、登録に疑問または誤りがあれば登録修正期間中に国際学部教務課まで申し出てください。
履修登録期間終了後の修正は、履修辞退期間中に履修辞退を申し出る場合を除き、一切出来ませんので、シラバス・時間割を熟読のうえ登録をおこなってください。
※登録確認を怠ったために、登録不備等により卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じています。確認は1科目ずつ慎重に行ってください。履修登録後は必ず受講登録確認表を印刷（プリントアウト）してください。

Q 受講登録確認表の合計単位数に「サマーセッション」「随意科目」が含まれていませんが、正しく登録されていますか。

A 受講登録確認表の合計単位数には、履修登録制限単位数に含まれる科目のみ換算されます。「サマーセッション」「随意科目」は履修登録制限単位に含みません（「サマーセッション」は卒業要件単位数には含まれます）ので、表示されません。上記の科目については、科目名・担当者名が正しく記載されているかを確認し、誤りがなければ正しく登録されています。

Q 卒業年次生ですが、今まで修得した単位数について、国際学部教務課でチェックしてもらえますか。

A 原則として、国際学部教務課で成績のチェックはしません。成績表については、成績配付期間に直接学生本人に配付します。履修要項を熟読し、自分の修得した単位数が卒業要件単位数を満たしているかの確認は各自の責任でおこなってください。
もし、疑問点等がありましたら、国際学部教務課まで来てください。

Q 授業を欠席してしまいました。何か必要な手続はありますか。

A 授業を欠席した旨を担当教員に申し出るための「講義欠席届」をお渡しします。学生本人が、国際学部教務課まで受け取りに来てください。なお、国際学部教務課から担当教員への欠席連絡は一切おこなっていません。学生本人から直接教員へ申し出てください。

Q 授業に遅刻する場合は、どうすれば良いですか。

A 公共交通機関の遅延により、遅刻する場合は、駅などで遅延証明書を受けとり、その裏面に「遅延が発生した日時」「遅延区間」「遅延時間」「学籍番号：氏名」「遅刻した科目」を明記し、第三者が客観的に遅延状況を判別できる状態で教員へ提出し、遅刻を申し出てください。

Q 定期試験の時間割は、いつ、どこで発表されますか。

A 試験開始日の原則14日前に、国際学部掲示板およびポータルサイト（MY定期試験時間割）で発表します。

Q 定期試験をやむを得ない理由で欠席してしまったのですが、どうすれば良いですか。

A 欠席理由の証明書と印鑑を持参のうえ、試験日を含め4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし土曜日が試験日の場合は、試験当日を含む4日以内）に国際学部教務課にて追試験受験申込手続をしてください。追試験の受験料は、1科目1,000円です。
ただし、追試験は必ず受験できるわけではありません。寝坊など本人の過失の場合は、追試験の対象になりません。詳細は、P.20を参照してください。

Q 定期試験に学生証を持ってくるのを忘れてしまいました。どうすれば良いでしょうか。

A 国際学部教務課で試験用臨時学生証を借りてください。ただし、試験用臨時学生証は、その日の試験が終わり次第、速やかに国際学部教務課まで返却してください。

Q 成績評価に納得できません。どうすれば良いですか。

A 「成績に関する意味・内容がはっきりしないこと、疑わしいこと」に対し授業担当者に再確認を願い出る」ための成績疑義制度があります。定められた期間以内に国際学部教務課まで申し出てください。主観や感覚で「点数が低い」と感じたことを疑義の対象として受け付けることはできません。出席やレポート提出など必要な条件をすべて満たし、正当な理由と思われる疑義のみが受付対象となります。

留学制度・留学生について

Q 留学をしたいのですが、誰に相談すれば良いですか。

A 和顔館1Fに「留学サポートデスク」があります。専門の職員が留学についてアドバイスをおこなっています。実際に留学した先輩の体験談「帰国報告書」や、現在留学中の学生によるレポート「留学月報」も開架しており、自由に閲覧可能です。HPからオンラインで閲覧できる「帰国レポート」もあります。

Q 国際学部の留学制度について知りたいです。どこで教えてもらえますか。

A 「Study Abroad Handbook」を参照してください。また、グローバル教育推進センター発行「留学ガイド」も参照してください。こちらはグローバル教育推進センターで入手可能です。HPからオンラインで閲覧できる、「帰国レポート」もあります。

Q 留学から帰国しました。単位認定を受けたいのですが、シラバスやアウトラインとは何ですか。

A 授業の内容がわかるものです。
シラバスとアウトライン両方ではなく、自分が受講した授業内容がわかるものです。
受講した期間・レベルの内容・授業の計画・評価の仕方（Assessment）などの項目です。
学校によってそれぞれ形式が違いますので、第三者が見て授業内容や評価方法などがわかる資料を提出してください。

Q 留学から帰国しました。単位認定を受けたいのですが、学校からシラバスなどが発行されない場合はどうすれば良いですか。

A 留学先学校に直接交渉してください。
授業内容がわかるものが一切発行されない場合は、「発行していない」という公式文書を留学先からもらってください。もし、シラバス等を作成してもらえるのであれば、前述した項目を含ませ、作成してもらうようにして下さい。

Q 留学から帰国しました。単位認定を受けたいのですが、成績表・修了書がもらえない場合はどうすれば良いですか。

A これらは必ず提出してください。修了書や成績表がないと単位認定できません。万が一、学校から発行できないと言われた場合は、帰国前に必ずメールにて「留学サポートデスク」までご相談ください。

Q 留学から帰国しました。単位認定を受けたいのですが、成績表や修了書が帰国後2週間以内に提出できない場合はどうすれば良いですか。

A その時点で揃っている書類を提出ください。
遅れて提出する場合は、遅れる理由、提出予定期日を別の書面（遅延理由書）に記入し提出して下さい。

Q 留学から帰国しました。データの提出方法がわかりません

A ダウンロードセンターで【帰国報告書・レポート】（ワード書式）をダウンロードし、それに直接入力し留学サポートデスクまでメールに添付してください。もしくは、USB にデータを保存し、留学サポートデスクに持ってきてください。
※詳細は、オリエンテーションにて説明します。

Q 留学生です。アルバイトをしたいのですが、どういう手続きが必要ですか。

A まず、アルバイトをする前に、資格外活動許可書の申請が必要です。入国管理局にて、各自が直接申請してください。ビザの更新結果を受け取りに行く際、「資格外活動許可書」を申請すると手続きがスムーズです。なお、平成22年より大学内で教育に関する業務（ティーチング・アシスタント等）を行う場合は、資格外活動許可は不要となりました。**資格外活動で許可されるアルバイトの時間数と業種には制限があります。必ず守ること。**学則に定めている授業期間中、テスト期間中は1週について28時間以内、長期休業期間中は1日について8時間以内で資格外活動を行ってください。

Q 留学生です。ビザの有効期間がもうすぐ切れるのですが、どうすれば良いですか。

A ビザの有効期間が切れる3ヶ月前から、在留期間更新許可申請ができます。申請する際、「在留資格更新許可申請書（個人作成用）と「所属機関作成用）」「学業成績証明書」「在学証明書」「パスポート」「在留カード」が必要となります。「所属機関作成用」申請書を国際学部教務課まで申し出てください。休学経験者に対しては、上記以外に更に「休学許可書」「復学許可書」「休学期間証明書」が必要となります。新入生の場合は前の学校の「学業成績証明書」「出席状況証明書」が求められることがあります。
※資格外活動許可申請も更新許可受領時に合わせて延長となった在留期間まで申請しましょう。

Q 留学生です。就職内定先が決まらず、卒業後も日本で就職活動を続けたい場合はどうすれば良いですか。

A 日本で就職したい意志を明白に持ち、卒業後も引き続き就職活動を行う場合、「留学」ビザから「特定活動」ビザへの変更申請は可能です。詳しくは国際学部教務課窓口で相談してください。
※「留学」ビザのまま、就職活動を行った場合は入管法違反となりますので十分ご注意ください。

Q 留学生です。パスポートの有効期間が切れた場合や紛失した場合、どうすれば良いですか。

A 有効期間が切れる前に、居住地の所轄母国の在日大使館・領事館でパスポートの更新手続きをおこなってください。紛失した場合は、まずは最寄りの警察で「紛失届証明書」を発行してください。その後、母国の在日大使館・領事館で再発行の手続きをおこなってください。その際、紛失届に記載されている受理番号が必要になりますので、確認しておいてください。

Q 留学生です。長期休暇期間中、帰国したいのですが、どんな手続きが必要ですか。

A 帰国する前に国際学部教務課窓口にて「旅行・帰国届」を提出して下さい。用紙は国際学部教務課にて受け取ってください。場合によっては、入国管理局にて「再入国許可」を申請する必要があります。詳しくは国際学部教務課窓口で確認してください。

Q 留学生を対象とする奨学金を申請したいのですが、どんな奨学金がありますか。また、どうやって申請すれば良いですか。

A 留学生を対象とする奨学金は「自己応募奨学金」と「学部推薦奨学金」があります。自己応募奨学金の情報は、学生部の掲示板（カフェ樹林外側）に随時掲示しますので、各自で確認し、学生部にて申請してください。学部推薦奨学金は、「龍谷大学特別奨学金」「私費外国人留学生学習奨励費」の2種類があり、いずれにしても成績の優劣が重視され、学部内で推薦されることにより対象者となります。

Q 留学生寮に入りたいのですが、どんな手続きが必要でしょうか。

A 本学には留学生寮が3ヶ所あります。（「りゅうこく国際ハウス」「大宮荘」「向島学生センター」）入寮募集期間は、年に2回（6月・12月）です。詳しい情報については、グローバル教育推進センターHP（<https://intl.ryukoku.ac.jp/dormitory/index.html>）や国際学部教務課にて確認してください。

Q 京都に在住している留学生です。国民健康保険補助金を申請したいのですが、どうすれば良いですか。

A 京都市に在住している外国人留学生は、国民健康保険の補助金を申請し、年間8,400円の補助を受けることができます。申請期間は年に1回（9/1～9/30）を設けており、一回申請すれば、1年の補助金が支給されます。詳しくは国際学部教務課まで相談してください。

Q 留学生ですが、部屋を借りるのに保証人が見つかりません。どうすれば良いですか。

A 京都市内に住むのであれば、「京都地域留学生住宅支援制度」があります。詳しくはグローバル教育推進センターまで問い合わせください。

証明書について

Q 「英文証明書」が必要です。どこで発行できますか。

A 国際学部教務課で発行します。証明書自動発行機で証明書交付願を出力のうえ、国際学部教務課にて申し出てください。なお、「英文証明書」の発行には1週間必要です。日数に余裕をもって申し込んでください。

Q 就職活動のために「卒業見込証明書」「成績証明書」「健康診断証明書」が必要です。いつから発行してもらえますか。

A 「成績証明書」は、常時、証明書自動発行機にて発行可能です。
「卒業見込証明書」は、卒業年次生が5月上旬から証明書自動発行機にて出力できます。ただし、履修登録を完了していない場合や登録修正をしていない場合、卒業の見込がたたないことがあります。その場合は、至急、国際学部教務課で登録状況の確認をしてください。
「健康診断証明書」も5月上旬から証明書自動発行機にて発行可能です。ただし、4月の定期健康診断を受けていない場合や、健診項目を1つでも受診していない場合は発行できません。必ず定期健康診断を受検してください。

Q 証明書を厳封して提出しなければなりません。どこで厳封してもらえますか。

A 国際学部教務課にて厳封します。証明書自動発行機から出力した場合は、証明書を持参のうえ、国際学部教務課に来てください。証明書交付願を出力し、国際学部教務課で申し込む場合は、その際に厳封の依頼をしてください。

Q 今までに単位を落とした科目や履修辞退した科目があります。証明書に記載されますか。

A 単位を落とした科目および履修辞退した科目については、科目と評価ともに記載されません。証明書に記載されるのは当該学期までに単位を修得した科目と評価です。評価方法は、点数ではなくS・A・B・Cによる記載です。
(詳細はP.17の「成績評価の基準」を参照して下さい)

Q 提出先に3ヵ月前に発行した証明書を提出しても良いですか。(証明書に期限はありますか。)

A 証明書の期限は3ヵ月を目安にしています。従って、留学手続に必要となる場合や就職活動の際に企業に提出する場合、または大学院進学などの手続の際には再度最新のものを発行してください。

Q 証明書を間違えて出力してしまいました。返金してもらえますか。

A 返金は可能です。間違えて出力した証明書、もしくは証明書交付願を持参のうえ、国際学部教務課で返金依頼書に記入後、経理課(紫英館2F)にて返金手続をおこなってください。

Q 深草学舎以外にある証明書自動発行機からも証明書(交付願)は出力できますか。

A 学舎を問わず、いずれの発行機でも発行が可能です。ただし、証明書交付願等の受付は国際学部教務課のみです。

Q 調査書の依頼は演習担当教員に直接しても良いのでしょうか。

A 調査書は、証明書と同様に発行手数料が必要です。証明書自動発行機で「調査書」の交付願を出力し、国際学部教務課にて申込手続きをしてください。ただし、調査書の推薦文等は、演習担当教員が記入します。国際学部教務課で手続きをおこなう前に、次の2点を必ず各自で演習担当教員に伝えてください。

- ① 調査書の推薦文を書いていただくよう依頼をする
 - ② 出願締切日および作成締切日の打ち合わせをする
- 必ず出願期間の締切日を確認し、日数に余裕をもって申し込んでください。

学籍について

Q 休学(退学)を考えています。

A まずは国際学部教務課までご相談ください。理由をうかがった後に所定の用紙をお渡しします。詳細な手続については、P.78の「休学と復学」を参照してください。

Q 今年度後期から来年度前期までの1年間の休学は可能ですか。

A 可能です。ただし、年度をまたがっての休学申請は不可能なため、今年度後期と来年度前期でそれぞれ休学手続をとる必要があります。詳細は、国際学部教務課までご相談ください。

Q 休学中の在籍料を除いた学費の余剰分は返金されるのでしょうか。

A 次学期の学費に繰り越されますので、返金はされません。次学期の学費は、当該学期の学費からその余剰分を差し引いた金額が請求されます。

Q 1年次後期（2セメスター）を休学した場合、次年度前期には2年次の科目は登録できますか。

A まず、復学の手続が必要です。復学の手続が完了した後で、今までに修得した単位数、これから履修したい科目によっては登録できる場合があります。復学手続の際に、今後の履修計画を立て、国際学部教務課までご相談ください。

Q 「現住所」「氏名」「保証人」「緊急連絡先」「学費請求先」の登録内容が変わりました。必要な手続は何ですか。

A 本学所定の各種変更届を国際学部教務課でお渡しします。印鑑を持参のうえ国際学部教務課までお越しください。なお、書類によっては書類添付や保証人の連署捺印が必要な場合があります。

Q 学生証を紛失してしまいました。再発行はできますか。

A 学生証の再発行は可能です。紛失した場合は学生部・最寄りの警察署（交番）・生協事務室に紛失届を提出し、ただちに国際学部教務課にて再発行の手続をおこなってください。その際、再発行手数料として1,000円が必要です。なお、学生証の再発行には、2日以上を要するので注意してください。

また、紛失でなくても、破損や顔写真が見えない場合は、必ず再発行してください。

Q 学生証の磁気が弱くなりました。再発行しなければなりませんか。

A 磁気入力をおこないますので学生証を持参のうえ、国際学部教務課まで来てください。ただし、磁気入力が不可能な場合は再発行する必要があります。

Q 学生証の再発行中に証明書の発行および図書館利用は出来ますか。

A ①証明書の発行について

証明書の発行は可能です。国際学部教務課にて手続をおこなってください。

②図書館利用について

図書館への入館、図書の間覧・返却は可能です。ただし、原則として貸出は認めていません。入館の際には図書館入口で学生証の再発行中であることを係の者に申し出てください。

Q 瀬田学舎でサークルに所属しています。自宅から深草学舎までの通学定期券とは別に家から瀬田までの通学定期券を買いたいのですが、できますか。

A 自宅から瀬田学舎までの通学定期券の購入はできません。通学定期券は大学（所属学舎）の最寄駅と自宅の最寄駅の最短経路、区間に限り購入可能です。よって深草学舎から自宅までの通学定期券のみ購入可能となります。

学生生活について

Q 情報処理自習室はいつ、どの場所で使用できますか。

A 情報メディアセンターの掲示板で確認してください。

なお、自習教室の開室状況は、下記URLより参照できます。

<https://www.media.ryukoku.ac.jp/>

Q 全学統合認証パスワード（Webポータルサイト・メール・証明書自動発行機のパスワード）を忘れてしまいました。どこで教えてもらえますか。

A 全学統合認証パスワードは、情報メディアセンターで管理しています。各自で直接申し出てください。

Q ゼミやサークルで教室を使用したいのですが、どこでどのような手続をすれば良いですか。

A ゼミや一般同好会等の自主活動の場として、教室貸出をしています。教室を使用したい場合は、代表者（あるいはそれに代わる者）が学生証および印鑑を持参して、学生部にて手続をおこなってください。申込受付は1週間ごとにおこなっていますが、臨時の教室変更等で使用できない場合もあります。
また、土曜日の教室貸出は15時までです。日曜、祝日の貸出はおこなっていません。

Q 先生と連絡を取りたいのですが、連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)を教えてください。

A 教員の連絡先は、国際学部教務課で教えることは出来ません。必要な場合は、直接教員に確認してください。なお、多くの教員はホームページ等で連絡先を公開しているので、まずは確認してください。

Q 先生へ伝えたいことがあります。国際学部教務課から伝えてもらえますか。

A 国際学部教務課から教員への伝言は一切受け付けていません。講義時等を利用して直接学生本人から先生に伝えてください。もちろん、レポートや課題等も国際学部教務課で受け付けることはありません。

Q 掲示板はどこにどのような情報が掲示されているのですか。

A 紫英館東側に国際学部掲示板があります。（詳細は「大学からの連絡・通知の掲示」を参照してください）
教室変更、休講、学生呼び出し、留学情報、単位互換科目などに関する情報および学生生活に関する様々な情報や、講義関係の情報（講義担当者からの連絡事項等）を掲示しています。
学生への連絡・通知はすべて掲示によっておこないますので、毎日登下校の際に必ず確認してください。

Q ゼミ等の連絡で掲示したいことがあるのですが、掲示板を使用してもいいですか。

A ゼミ等の連絡に関する掲示をすることはできません。講義における連絡事項等は、講義時に伝えるようにしてください。
なお、やむを得ない場合は、担当教員から国際学部教務課まで掲示の依頼が必要となります。

Q 奨学金の申込をしたいのですが、手続場所はどこですか。

A 奨学金は「貸与」と「給付」の大きく2種類に分けられます。選考は奨学金の種類によって基準が異なります。出願に関しては、説明会や掲示板、および学生部で配付される各要項を確認してください。

Q 学費の納入期限に間に合わないかもしれません。どうすれば良いですか。

A 期日までに納入できない場合は、学費延納・分納の制度があります。学生部にて書類の配付・受付をしています。

Q 学費が10万円だけ足りません。大学での貸付制度はありますか。

A やむを得ない事情がある場合、短期貸付制度があります。他に方法が無い場合は国際学部教務課までご相談ください。

Q ケガをしてしまい、車で通学したいのですができますか。

A 医療機関が発行する診断書を持参のうえ、国際学部教務課までご相談ください。

こんな場合には？

こんなとき		ここで	こうする
講義関係で	短期間欠席する	国際学部教務課	事前または事後ただちに届け出る。(印鑑必要)
	3ヵ月以上欠席する	国際学部教務課	保証人と連署で、休学を願い出、許可を受ける。(印鑑必要)
	休講・教室等講義に関係することが知りたい	国際学部教務課	毎日登下校時に、学部掲示板を見る。不明な点は国際学部教務課に問い合わせる。なお、休講情報は大学のホームページ上でも確認できる。
	教員と面談したい	国際学部教務課	学部掲示板・ホームページで教員のオフィスアワーを確認する。 または、国際学部教務課に問い合わせる。
	登録に際し、不明な点がある	国際学部教務課	履修要項熟読の上、登録日までに照会・相談する。
	成績に疑義・質問がある	国際学部教務課	掲示された所定期間に申し出る。(印鑑必要)
学業・修学についてわからないこと、知りたいことがある。	国際学部教務課	随時、照会・相談する。	
試験関係で	突発事由で試験に欠席して追試を願い出たい	国際学部教務課	欠席後その科目の試験日を含め4日以内(土・日・祝日は含めない。ただし土曜日が試験日の場合は、試験当日を含む4日以内)に届け出る。(診断書等理由を証明できるもの、印鑑必要)
	試験の日時を知りたい	国際学部教務課	試験開始日の原則14日前に掲示・発表される。
	受験に際し、学生証の不携帯に気がついた	国際学部教務課	試験用臨時学生証の交付を受けて受験し、受験後ただちに国際学部教務課に返却する。
交通機関ストライキ・台風等の場合の授業は？			授業休止の取扱基準の欄を参照のこと。(P.69)
学籍関係で	現住所を変更した	本人	国際学部教務課 変更内容をただちに届け出、学生証の住所を変更する。(印鑑必要)
		保証人	国際学部教務課 変更内容をただちに届け出る。(印鑑必要)
	氏名を変更した	本人	国際学部教務課 変更内容をただちに届け出、学生証の氏名を変更する。(住民票記載事項証明書・印鑑必要)
		保証人	国際学部教務課 変更内容をただちに届け出る。(印鑑必要)
	保証人を変更するとき		国際学部教務課 変更内容をただちに届け出る。(印鑑必要)
	休学したい	国際学部教務課	保証人と連署で休学を願い出、許可を受ける。(理由書又は診断書添付・印鑑必要)
	復学したい	国際学部教務課	事前に相談のうえ、期限内に保証人と連署で学期開始日1ヵ月前までに復学を願い出、許可を受ける。(印鑑必要)
	退学したい	国際学部教務課	事前に相談のうえ、期限内に保証人と連署で退学を願い出、許可を受ける。(理由書または診断書と学生証添付・印鑑必要)
	編・転入試験を受けたい	国際学部教務課	随時、照会・相談する。
	再入学したい	国際学部教務課	国際学部教務課で相談の上、入試部に問い合わせる。

	こんなとき	ここで	こうする
証 明 書 関 係 で	学生証の交付を受ける	国際学部教務課	入学時に交付を受け、卒業まで使用する。ただし、「在籍確認シール」を毎年学年始めに配布する。
	学生証を紛失した	国際学部教務課	紛失後ただちに届け出る。最寄りの警察へも届け出る。
	学生証の再交付を受ける	国際学部教務課	発行機にて「学生証再交付願」（再交付手数料1,000円）の交付を受け、提出する。顔写真を変更希望する場合は写真が必要。（印鑑必要）
	通学定期券を購入したい	各交通機関	学生証を各交通機関の窓口で提示した上、購入する。
	学割証がほしい	証明書自動発行機	各種証明書の交付の欄を参照。
	団体旅行割引証がほしい	国際学部教務課 学 生 部	クラス・ゼミの場合、必要時に申し込む。即日交付。 課外活動サークルの場合、必要時に申し込む。即日交付。
経 済 生 活 の 面 で	各種証明書がほしい	発 行 機	窓口事務各種証明書の交付の欄を参照。
	アルバイトの紹介	学 生 部	紹介物件を掲示板で確認し、各自窓口に申し込む。
	奨学金を希望するとき	学 生 部	学生手帳「奨学金」の欄を参照。
	授業料の納入がおくれるとき	学 生 部	延納一括・分納最高3回分割の制度があるので、学生部へ所定の期間内に申し出ること。期日については学生手帳で確認すること。（印鑑が必要）
課 外 活 動 の こ と	生活費の支弁が困難なとき	学 生 部	学生手帳「短期貸付制度」の欄を参照
	団体を結成するとき（同好会・県人会など）	学 生 部	前もって課外活動担当者の相談を受け、所定用紙に必要事項を記入し、提出する。（印鑑が必要）
	課外活動諸団体への入部	各 団 体	直接各団体に申し込む。学生手帳「課外活動のすすめ」の欄を参照。
	課外活動でのいろいろな問題	学 生 部 学 生 相 談 室	各団体の長や先輩に相談する。相談できない時は、部長・顧問の先生または学生部・学生相談室で相談する。
	集会をするとき	学 生 部	前もって学生部で所定の手続きをして、会場等の調整を計ること。
施 設 の 利 用	合宿をするとき	学 生 部	所定の用紙で合宿の10日前までに届け出る。
	大学指定合宿施設を利用するとき	学 生 部	学生手帳「大学指定合宿施設」の欄を参照。
	教室を借用したいとき	学 生 部	所定の用紙で願い出ること。
	学友会館のホール・会議室等を利用したいとき	学 友 会 館 事 務 室	所定の用紙で願い出ること。学生手帳「学友会館」の欄を参照。
ものを紛失・拾得または盗難にあったとき	学 生 部 国際学部教務課	ただちに学生部または、国際学部教務課に申し出る。	
種々の問題で悩んでいるとき	学 生 相 談 室 国際学部教務課	学生手帳「学生相談室」の欄を参照。 悩んでいること、困っていることは遠慮せず早目に相談すること。	
障がいにより大学生活に困難を有し支援を希望するとき	障 がい 学 生 支 援 室	学生手帳「障がい学生支援」の欄を参照。	
正課または正課外において災害事故にあったとき	学 生 部	学生手帳「学生災害事故療養費等給付」の欄を参照。	
健康相談、診療および応急処置をうけたいとき	保 健 管 理 セ ン タ ー	学生手帳「保健管理センター」の欄を参照。	

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きのQ
&
A教
員

付

録

第6部 教員

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教員

付録

国際学部 専任教員名簿

	教員氏名	Name	所属 学科	所属コース	研究室	
あ	泉 文明	IZUMI, Fumiaki	IC	世界と日本	和-410	
	磯江 源	ISOE, Gen	IC	多文化共生	和-409	
か	カルドネル シルヴァン	CARDONNEL, Sylvain	IC	芸術・メディア	和-411	
	カルロス マリア レイナルース	CARLOS, Maria Reinaruth	IC	世界と日本	和-415	
さ	河合 沙織	KAWAI, Saori	GS		和-426	
	斎藤 文彦	SAITO, Fumihiko	GS		和-434	
	佐野 東生	SANO, Tosei	IC	多文化共生	和-408	
	サルズ ジョナ	SALZ, Jonah	IC	芸術・メディア	和-403	
	澤西 祐典	SAWANISHI, Yusuke	IC	芸術・メディア	和-421	
	史 彤嵐	SHI, Tonglan	IC	世界と日本	和-406	
	清水 耕介	SHIMIZU, Kosuke	GS		和-431	
	杉本バウエンス ジェシカ	SUGIMOTO-BAUWENS, Jessica	IC	芸術・メディア	和-429	
	徐 光輝	XU, Guanghui	IC	世界と日本	和-418	
	壽崎 かすみ	SUSAKI, Kasumi	IC	多文化共生	6-426	
	鈴木 滋	SUZUKI, Shigeru	IC	多文化共生	和-412	
	た	瀧口 順也	TAKIGUCHI, Junya	GS		和-432
		瀧本 真人	TAKIMOTO, Masato	GS		和-436
		嵩 満也	DAKE, Mitsuya	IC	世界と日本	和-413
ターヒュン ノエル		TERHUNE, Noel	IC	多文化共生	和-402	
チャプル ジュリアン		CHAPPLE, Julian	GS		和-437	
陳 慶昌		CHEN, Ching-Chang	GS		和-433	
デブナール ミロシュ		DEBNÁR Miloš	IC	世界と日本	和-405	
友永 雄吾		TOMONAGA, Yugo	IC	世界と日本	和-401	
な		長尾 明子	NAGAO, Akiko	GS		和-427
		中根 智子	NAKANE, Satoko	GS		和-435
は	林 則仁	HAYASHI, Norihito	IC	多文化共生	和-430	
	朴 炫国	PARK, Hyunkuk	IC	世界と日本	和-428	
	久松 英二	HISAMATSU, Eiji	IC	多文化共生	和-420	
	ピゴット ジュリアン	PIGOTT, Julian	GS		和-438	
	ファーマノフスキー マイケル	FURMANOVSKY, Michael	IC	芸術・メディア	和-416	
	福山 泰子	FUKUYAMA, Yasuko	GS		和-425	
	二葉 晃文	FUTABA, Terufumi	IC	多文化共生	6-408	
	ブラドリー ウィリアム	BRADLEY, William	GS		和-440	
	ま	古川 秀夫	FURUKAWA, Hideo	IC	多文化共生	和-419
		松居 竜五	MATSUI, Ryugo	IC	芸術・メディア	和-423
松村 省一		MATSUMURA, Shoichi	GS		和-439	
や	三谷 真澄	MITANI, Mazumi	IC	世界と日本	和-414	
	八幡 耕一	YAWATA, Koichi	IC	芸術・メディア	和-417	
ら	劉 虹	LIU, Hong	IC	世界と日本	和-404	
わ	脇田 博文	WAKITA, Hirofumi	GS		和-424	

IC … Intercultural Communication (国際文化学科)

GS … Global Studies (グローバルスタディーズ学科)

和 …和顔館

6 ……6号館 (紫英館)

国際文化学科 専任教員紹介



泉 文明
IZUMI, Fumiaki

職名	教授
学歴・学位	博士（文学）
専門分野	日本語学／日本語教育学／応用言語学／京都学／国際協力論／社会文化論
研究分野	複合新領域
研究テーマ	語彙研究／文字表記研究／コミュニケーション論／応用言語学／京都学／言語文化研究
研究キーワード	言語／文化／社会／京都
主な研究活動等	韓国日本語教育学会（理事）・日本語教育学会（評議員）・他諸学会会員。国際文化フォーラム専門員・国際交流基金北京日本学術研究センター講師。REC講座・NHK文化センター・京都市市民講座等も担当。



磯江 源
ISOE, Gen

職名	教授
学歴・学位	Ph.D., Linguistics, The University of Michigan
専門分野	統語論／音声学／比較言語学
研究分野	人文学 言語学
研究テーマ	日本語とインドヨーロッパ語の主題と主語。調音音声学による発音教育。
研究キーワード	主題／主語／動作主／母音／二重母音／半母音／子音
主な研究活動等	「“Subject” and “Topic” in Japanese」（龍谷大学国際文化研究第10号・2006）、「The Non-agentive Subject and the Notion of “Sentence”」（龍谷大学国際文化研究第11号・2007）、「キリスト教の成立と西欧言語の発達」（多文化時代の宗教論入門第5章、ミネルヴァ書房、2017）

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
索引
生活
きの

Q
&
A

教員

付録



カルドネル シルヴァン
CARDONNEL, Sylvain

職名	教授
学歴・学位	文学修士号（哲学）〔パリ第12大学〕 博士号（哲学）〔トゥールーズ・ル・ミライユ大学〕
専門分野	哲学
研究分野	人文学／哲学
研究テーマ	西田哲学の西洋解釈／日本の「近代」／日本文学翻訳。
研究キーワード	西田幾多郎／近代の超克／日本近代史
主な研究活動等	西田幾多郎の「場所的論理と宗教的世界観」の共同訳、村上龍の小説『ライン』の仏語訳、村上龍の小説『共生虫』の仏語訳、村上龍の小説『エクスタシー』の仏語訳、村上龍の小説『メランコリア』の仏語訳、沼正三の小説『家畜人ヤプー』の仏訳、村上龍の小説『Love & Pop』の仏語訳、
一言コメント	趣味は育児です。
E-mail	sylvain@world.ryukoku.ac.jp



カルロス マリアレイナルース
CARLOS, Maria Reinhardt

職名	教授
学歴・学位	神戸大学大学院経済学研究科 博士（経済学）
専門分野	国際労働移動、アジアの経済、開発経済学
研究分野	社会科学 経済学 応用経済学
研究テーマ	国際労働移動の経済的分析 (1) 送り出し国から見た国際労働移動の要因と効果 (2) 高齢社会日本における外国人労働者、特に介護分野での役割 (3) 2カ国間経済連携協定のなかの国際労働移動
研究キーワード	外国人労働者／国際労働移動／経済連携協定／海外送金／高齢化と外国人介護士
主な研究活動等	「On the Determinants of International Migration in the Philippines: An Empirical Analysis.」(International Migration Review, Vol.36 No. 1, 2002) その他
一言コメント	全然泳げませんが、去年scuba divingの免許が取れました。「挑戦」する気持ちと行動に移す意思があれば何でも出来ますよー。Go for it!



佐野 東生
SANO, Tosei

職名	教授
学歴・学位	ハーヴァード大学修士課程修了 慶応義塾大学博士課程満期退学 博士（法学）（龍谷大学）
専門分野	中東地域研究／イラン近現代史
研究分野	複合新領域／地域研究
研究テーマ	中東地域研究をイランを中心に行う。特にイラン近現代史を19世紀から今世紀まで考察。ナショナリズム系知識人の国家形成上の役割を研究。
研究キーワード	ナショナリズム／イスラーム／マイノリティ
主な研究活動等	『近代イラン知識人の系譜』 ミネルヴァ書房 2010、 Iranian Nationalism and Azerbaijan (Proceedings of 1st Symposium of Afrasian Center, Ryukoku Univ, 2006) 「イラン立憲革命期に至るアルメニア人イエプレム・ ハーン Yeprem Khanの活動－イラン立憲制の起源と 展開におけるマイノリティの役割に関する一考察」 （龍谷大学国際社会文化研究、2007年）
一言コメント	仕事上、中東など海外に行く機会がありますが、現地の人の親切さや社交性に助けられ、学ぶことが多いです。



サルズ ジョナ
SALZ, Jonah

職名	教授
学歴・学位	B.A. Haverford College M.A., Ph.D. New York University
専門分野	比較演劇／伝統芸能／狂言
研究分野	人文学／芸術学／芸術史／芸術一般
研究テーマ	伝統芸能の国際化 Samuel Beckettと日本 演劇と映画の比較
研究キーワード	狂言／ベケット／伝統芸能／演劇／映画
主な研究活動等	「Sadayacco and Otojirō Kawakami」, 「Marriage Quarrel Themes in New Kyogen as Metaphor for Post-War Japan」 (Co-editor, Asian Theatre Journal special issue, Kyogen. 24:1, 2007), 「Performing aesthetics compared, Korea and Japan: Creating a Zone for Discovery」 (International Society and Culture Review No. 9, 2006: 49-68.), 「Mikazuki (Winnowing Love)」 (Translation and introduction. Asian Theatre Journal 24:1, 2007: 61-73.), 編集担当「A history of Japanese Theatre」 (Cambridge UP, 2016)
一言コメント	書を捨て、町へ出よう！ 祭り、演劇、映画を見て、新しい世界が解る。
E-mail	jonah@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引生
活の
きのQ
&
A教
員付
録

澤西 祐典
SAWANISHI, Yusuke

職名	講師
学歴・学位	京都大学大学院人間・環境学研究科 博士（人間・環境学）〔京都大学〕
専門分野	日本近代文学／比較文学
研究分野	人文学／文学／日本文学
研究テーマ	芥川龍之介。特に、旧蔵書（洋書）の調査を中心とした、芥川の海外文学受容について。
研究キーワード	芥川龍之介／比較文学
主な研究活動等	著書に『芥川龍之介選 英米怪異・幻想譚』（共編訳・2018）、『芥川龍之介ハンドブック』（共著・2015）など、論文に「英文との対照から見た芥川龍之介の文体」（『國語國文』2016）、「江戸東京博物館所蔵芥川龍之介関連資料解題（1）「馬の脚」自筆原稿」（『芥川龍之介研究』2016）、「芥川龍之介と卒業論文『Young Morris』」（『京都大学國文学論叢』2015）など、小説に『文字の消息』（2018）、『フラミンゴの村』（2012）など。第35回すばる文学賞受賞。
一言コメント	たくさん本を読んで、たくさん語り合ってください。その時間が必ずかけがいのない財産になります。



史 彤嵐
SHI, Tonglan

職名	教授
学歴・学位	関西大学大学院文学研究科中国文学専攻博士後期課程単位取得満期退学 博士（文学）
専門分野	現代中国語文法／対外国人中国語教育
研究分野	人文学／言語学／外国語教育
研究テーマ	文法研究／言語文化研究
研究キーワード	中国語・中国の言語文化
主な研究活動等	『ちょっとまじめに中国語』（共著・同人社・2001）、「V得C構文における“得”の文法機能」（『中国語学』2001）、「形容词重叠式作“得”后补语和状语—由“她把茶沏得酽酽的。”及“她酽酽地沏了一杯茶。”两类句式说起」（『中国語学』2005）、「“玩个痛快”“忙得个不亦乐乎”类补语考察」（『中国語教育』2006）その他



杉本パウエンス ジェシカ
SUGIMOTO-BAUWENS, Jessica

職名	准教授
学歴・学位	ルーヴァンカトリック大学日本学修士、同社会文化人類学修士、大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了（2007年）
専門分野	社会学／ジェンダー論／カルチュラル・スタディーズ
主な研究活動等	2014. “Manga Studies #3 On BL manga research in Japanese” , J. Berndt (ed.) Comics Forum Manga Studies, np.; 2015 「アメリカのコミックス・アーティストとマンガーコリーン・ドランの作品考察」、大城房美編、『女性マンガ研究--欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』、pp. 153–167.; 2017 “Negotiating religious and fan identities: “Boys’ Love” and fujoshi guilt” , in M. McLelland (ed.) The End of Cool Japan – Ethical, legal, and cultural challenges to Japanese popular culture. Mark McLelland ed. Routledge (Routledge Contemporary Japan Series) , pp. 184–195.
一言コメント	研究においても、レポート・卒論を書く時も、「案ずるより産むが易し」
E-mail	jess@world.ryukoku.ac.jp



徐 光輝
XU, Guanghui

職名	教授
学歴・学位	吉林大学歴史学修士
専門分野	中国考古学
研究分野	人文学／史学／考古学
研究テーマ	初期国家の形成過程の探索
研究キーワード	東アジア諸地域／集落形態／城郭／農耕文化／金属器
主な研究活動等	中国の農耕集落（『東アジアと日本の考古学』・同成社・2003）、「東北アジアにおける集落形態研究」（『国際文化研究』10・龍谷大学・2006）、『東北アジア古代文化論叢』（2008）、『壁画から見る北魏の此岸彼岸観』（2014）など、中国考古学会、考古学研究会所属。たまに市民講座などを担当。
一言コメント	書道、音楽のほか、衣食住と方言を含む民俗調査。
E-mail	xgh@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
索引
生活
きのの

Q
&
A

教
員

付
録

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引生活
きのQ
&
A教
員付
録

壽崎 かすみ
SUSAKI, Kasumi

職名	准教授
学歴・学位	東京工業大学大学院 社会理工学研究科 社会工学専攻 博士課程修了 博士（工学）
専門分野	都市計画／住環境計画／まちづくり
研究分野	工学／都市計画・建築計画
研究テーマ	人にやさしい居住環境 都市シミュレーション
研究キーワード	都市計画、土地利用、居住環境、都市シミュレーション
主な研究活動等	「まちづくりと宗教」壽崎かすみ『多文化時代の宗教論入門』久松英二、佐野東生編著 ミネルヴァ書房 第2章 "The current QOL situation of inhabitants of urban areas in Japan -From the perspective of living with companion animals" Kasumi Susaki 6 th Central European Conference in Regional Science Engines of Urban and Region Development Conference Proceedings 2017 "Evaluation of Japanese residential area from the perspective of living with companion animals - A case study in Japan's Hanshin-area" Kasumi Susaki, ISOCARP-OAPA Proceedings V6 2017 「市街地での家庭犬の飼育に関わる近隣トラブルを回避するための課題に関する基礎的研究—イギリスとの比較・検討から」日本地域学会 地域学研究 2018 "Criteria to keep a city with a decreasing population sustainable in Japan - A case study of Suita City Osaka Prefecture" Proceedings 12th World Congress of the RSAI (ISBN 978-989-54316-0-2) pp.1098-1107 "A study of Japanese neighborhood communities expected to work during climate change-related natural disasters - from the religious diversity perspective" ISOCARP 2018
一言コメント	大学時代は好きなことが好きなだけ勉強できる時間です。身につけたことは一生の財産です。卒業までに自分の財産をどれだけ増やせるか、挑戦してください。大学にはいるとき、獣医になろうかと迷いました。毎日、ネコに遊んでもらってエネルギーをもらい、すごしてます。趣味は子どもの影響ではじめたバイオリン演奏。退職するまでにそれなりに弾けるようになりたいのですが
E-mail	susaki@world.ryukoku.ac.jp



鈴木 滋
SUZUKI, Shigeru

職名	教授
学歴・学位	京都大学大学院理学研究科研究指導認定退学 博士（理学）〔京都大学〕
専門分野	人類学／霊長類学
研究分野	人類学／自然人類学
研究テーマ	アフリカ大型類人猿ゴリラとチンパンジーの種間関係の生態学的研究・野生ニホンザルの社会学的研究・進化論の比較文化研究
研究キーワード	人類進化論／霊長類／社会構造／文化／アフリカ／屋久島／熱帯林／保全
主な研究活動等	サルから見た里山『里山学のすすめ』（昭和堂・2007） 《論文・著書》「現代進化論と宗教」『多文化時代の宗教論入門』（ミネルヴァ書房2017）、「ヒトによる「共生」は可能か—生物学との関係を探る—」『「多文化共生」を問い直す—グローバル化時代の可能性と限界—』（日本経済評論社2014）、「同所的に生息するゴリラとチンパンジーの種間関係を探る」（生物科学2013）、「十二支考のサルたち」（季刊民俗学、2012） 《所属学会》国際霊長類学会、日本霊長類学会、日本人類学会、進化人類学分科会（幹事）、日本アフリカ学会
一言コメント	屋久島でニホンザルの、アフリカでゴリラとチンパンジーのフィールドワークをしてきました。熱帯林や野生動物の保全など、ヒトと自然の関係についても注目しています。
E-mail	suzuki@world.ryukoku.ac.jp



高 満也
DAKE, Mitsuya

職名	教授
学歴・学位	龍谷大学文学研究科博士後期課程単位取得 文学修士
専門分野	親鸞思想
研究分野	人文学／哲学／宗教学
研究テーマ	親鸞の思想形成と本覚思想／仏教と環境思想／浄土 真宗の海外開教
研究キーワード	親鸞思想／本覚思想／環境思想／海外開教
主な研究活動等	『共生する世界－仏教と環境』（編著・法蔵館）、『親鸞読 み解き事典』（共編著・柏書房）、『仏教生命観の流れ』 （共編著・法蔵館）、『中国北方仏教文化研究の新視座』 （編著・永田文昌堂）、「親鸞における〈浄土真実〉と 〈浄土方便〉の構想」（『真宗学』107・108合併号）など （所属学会）真宗学会（理事）、国際真宗学会（事務局 長）、日本宗教学会、日本宗教倫理学会、日本印度学・ 仏教学会、日本国際文化学会
一言コメント	世の中には大きすぎて見えないものだけでなく、身近 すぎて見えないものがある。だから、対象だけでなく、 自己についても距離を置いて考える習慣は大切である。 最近、学生時代に聞いた「億劫相別れて而も須臾も 離れず、尽日相對して而も刹那も對せず」という大燈 国師の言葉が、身に滲みて考え合わせられる。
E-mail	dake@world.ryukoku.ac.jp



ターヒュン ノエル
TERHUNE, Noel

職名	教授
学歴・学位	Master of Education, TESL
専門分野	Computer Assisted Language Learning
研究分野	人文学／言語学／英語学
研究テーマ	Computer Assisted Language Learning
研究キーワード	Computer, Language Learning, autonomous learning,
主な研究活動等	Learning to learn English with technology, Internet resources for English language learners and teachers, Designed for the task: a look at some taskbased CALL materials,
一言コメント	Visit beautiful places

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付

録

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引生
活の
きQ
&
A教
員付
録

デブナール ミロシュ
DEBNÁR Miloš

職名	講師
学歴・学位	京都大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程博士（文学）
専門分野	社会学、日本社会論
研究分野	国際移動、エスニシティと人種、日本社会
研究キーワード	グローバル化、在日ヨーロッパ人、ホワイトネス、レイシズム
主な研究活動等	“Migration, whiteness, and cosmopolitanism: Europeans in Japan” (2016, Palgrave)、「グローバル化時代の移民現象における動機の多様化・複雑化・偶発化—在日ヨーロッパ人移住者の経験から」(『同志社社会学研究』第19巻)、「グローバル・シティと賃金の不平等—産業・職業・地域」(安井・太郎丸との共著、『社会学評論』第64巻2号)



友永 雄吾
TOMONAGA, Yugo

職名	准教授
学歴・学位	総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻修士（国立民族学博物館）博士（文学）
専門分野	文化人類学（含民族学・民俗学）
研究分野	社会・文化人類学、環境人類学
主な研究活動等	＜書籍＞（単著）：『オーストラリア先住民の土地権と環境管理』（2013）、（共著）：『人権教育年表』（2013）等。 ＜論文＞（共著）：“Environmental Anthropological Study of Watershed Management”（2014）、（単著）：“自治体が展開する国際理解教育としてのスタディツアーの意義”（2014）、“The Buraku Situation after the Abolishment of the Law on Special Measures for Dowa Projects”（2014）等。
一言コメント	文献上の知識、頭だけでなく身体全体で確かめ、観察し考えることで得る知識や経験、それを社会で実践し自己を省察する、そうした「実践知」を共に学びましょう。
E-mail	tomoU5@world.ryukoku.ac.jp



林 則仁
HAYASHI, Norihito

職名	准教授
学歴・学位	ロンドン大学SOAS、B.A.、M.A.修了 龍谷大学大学院国際文化学研究所博士課程修了 博士（国際文化学）
専門分野	美術史／建築史・装飾デザイン
主な研究活動等	「Scientific or Narrative? The Tradition of Illustration of the al-Qazwini's Ajaib al-Makhlūqat in the late 15th Century Persian Manuscripts」(Advanced Science Letters, 23・2017)『〈驚異〉の文化史 中東とヨーロッパを中心に』(共著・名古屋大学出版会・2015)『アジアの芸術史・造形篇Ⅱ』(共著・幻冬舎・2013)、『ペルシアの細密画にみる創造物の不思議』『民族芸術』(28・2012)、『The Turkman Commercial Style of Painting : Origins & Development Reconsidered』(ORIENT・2012)
一言コメント	国内外の庭園を散策してまわることが好きです。最近はその写真を残すべく、カメラのテクニックを修得中。
E-mail	hayashi@world.ryukoku.ac.jp

朴 炫国
PARK, Hyunkuk

職名	教授
学歴・学位	円光大学校師範大学国語教育科（学士） 忠南大学校大学院国語国文学科（修士） 中央大学校大学院国語国文学科（博士）
専門分野	韓国文学／民俗学
研究分野	人文学／文学／各国文学／韓国語教育
研究テーマ	韓国文学特に韓国口伝文学 民俗文化特に伝統的な村の祭りを含めて伝統文化
研究キーワード	韓国文学／口伝文学／民俗学／韓国語教育
主な研究活動等	「韓国 伝説話集21集邑山外面編」(民族苑・2012)、『近江八幡の左義長祭りについて』、『比較民俗学』(第33輯・2007)、『韓国語発音と演習』(白帝社・2004)、『銅雀区の民俗文学』(民族苑・1997)、『韓国空間説話研究』(国学資料院・1995)等。 朝鮮学会、民俗学会、比較民俗学会、ハンゲル学会等の会員や理事
一言コメント	いつも新しい所や新しいことを捜して創造的な靈感を得ようとしています。
E-mail	paku@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録



久松 英二
HISAMATSU, Eiji

職名	教授
学歴・学位	ウィーン大学大学院神学専攻博士課程修了・神学博士
専門分野	宗教学
研究分野	人文学／哲学／宗教学
研究テーマ	諸宗教（とりわけキリスト教）／仏教／イスラーム教の神秘思想の比較研究
研究キーワード	比較宗教／神秘思想
主な研究活動等	『Gregorios Sinaites als Lehrer des Gebetes』（単著）、『キリスト教修道制』（共著）、『中世と近世のあいだ』（共著）、『祈りの身心技法』（単著／キリスト教史学会学術奨励賞）、ルードルフ・オットー著『聖なるもの』（岩波文庫）、『ギリシア正教 東方の智』（単著／講談社選書メチエ）
一言コメント	キリスト教を専門とする私が本学で宗教を教え、研究することに大きな喜びと誇りを感じています。諸宗教間の対話促進を目標に、教育・研究に励みたいと思っています
E-mail	hisamatsu@world.ryukoku.ac.jp



ファーマノフスキー マイケル
FURMANOVSKY, Michael

職名	教授
学歴・学位	UCLA M.A (U.S History) 1980 C. Phil (U.S History) 1982
専門分野	Popular Culture / American History / EFL
研究分野	総合領域
研究テーマ	Popular Music History Japanese Popular Culture Contemporary American History Content Teaching in EFL, Movies and Documentaries as Content
研究キーワード	Popular Culture / African-American History / EFL in Vietnam / Fandom Studies
主な研究活動等	Pre and Post-War Japanese Fashion (2016)、 「American Country Music in Post-War Japan」 (2006)、「Street Children in Vietnam」(2009)、 「Outselling the Beatles」(2010) .
一言コメント	No popular culture, no life
E-mail	michael@world.ryukoku.ac.jp
URL	www.researchgate.net/profile/Michael_Furm



二葉 晃文
FUTABA, Terufumi

職名	教授
学歴・学位	Ph.D. in Educational Linguistics University of Pennsylvania
専門分野	Educational Linguistics
主な担当科目	言語とところ入門／言語とところA／言語とところB
研究テーマ	ところとことば
研究キーワード	地球巡礼 心の免疫力を高める「ことば」
主な研究活動等	ナマケモノ倶楽部会員 「はだしで歩こう会」発起人
一言コメント	あなたの笑顔を見られるから、私は、今、ここで頑張ることができるのです。ありがとう。
E-mail	futaba@world.ryukoku.ac.jp



古川 秀夫
FURUKAWA, Hideo

職名	教授
学歴・学位	大阪大学人間科学研究科博士課程後期単位取得退学 学術修士
専門分野	社会心理学／社会学／心理学
研究分野	社会科学／社会学
研究テーマ	サービスラーニングの心理・社会的影響
研究キーワード	サービス・ラーニング／ボランティア／インターン シップ／NPO、NGO／ゆとり／観光／働きがい
主な研究活動等	『現代日本のボランティア像（龍谷大学社会文化研究所 叢書1）』（思文閣出版・2002）、「学生ボランティアに 関する日英比較」（『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』 第8号・2006）、「中国の学生ボランティア」（『龍谷大学 国際社会文化研究所紀要』第9号・2007） 日本社会心理学会 日本社会学会 日本心理学会所属
一言コメント	教育・研究いずれも「遊び」の要素が大切です。単 位や業績の手段でなく、それ自体を楽しみたいです。 学会出張旅行やゼミ旅行も重要な「遊び」を構成し ます。
E-mail	furukawa@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録



松居 竜五
MATSUI, Ryugo

職名	教授
学歴・学位	東京大学大学院総合文化研究科比較文学比較文化専攻中退 博士（学術）
専門分野	比較文学、比較文化
研究分野	人文学 文学 日本文学
研究テーマ	日本文化の比較文化的研究（特に南方熊楠の総合的研究）／日本民俗学史の研究／マンガの影響力を中心とするサブカルチャー研究
研究キーワード	比較文学／比較文化／民俗学／南方熊楠／生態学／マンガ／サブカルチャー
主な研究活動等	著書に『南方熊楠、一切智の夢』（1991）、『達人たちの大英博物館』（共著・1996）、『クマグスの森』（2007）などがある。小泉八雲奨励賞受賞（1992）。日本国際文化学会常任理事・学会誌編集委員。南方熊楠顕彰会理事・学術委員。英国での日英元軍人による和解活動への協力をおこなっている。
一言コメント	最近「研究」を離れて文学作品の古典を読むのが楽しくてしかたありません。素直に読んで素直に楽しむ。これに勝る贅沢はないように感じています。
E-mail	rmatsui@world.ryukoku.ac.jp



三谷 真澄
MITANI, Mazumi

職名	教授
学歴・学位	広島大学文学部哲学科インド哲学専攻 卒業 龍谷大学文学研究科博士課程仏教学専攻 単位取得 文学修士
専門分野	仏教文化学、古写本学
研究分野	人文学／哲学／印度哲学・仏教学
研究テーマ	アジアの仏教文化の諸相
研究キーワード	仏教文献学／古写本学／中央アジア／旅順博物館
主な研究活動等	編著書に『「世界」へのまなざし～最古の世界地図から南方熊楠・大谷光瑞へ』（法蔵館、2017）があり、論文に「ブッダパーリタの言語観」（『親鸞と人間—光華会宗教研究論集第三巻』永田文昌堂・2002）、「『賢愚経』研究における諸問題」（『中国北方仏教文化研究における新視座』永田文昌堂・2004）、「仏教と農業のあいだ—大谷光瑞師の台湾での農業事業を中心として」（『アジア遊学』222号、2018年）などがある。一般向けものとして、「出遇いと目覚め」（『沙羅双樹の花の色』探求社、2014）などがある。
一言コメント	自らを固定化せず、常に「驚き」のある日々を送りたい。一つの道を究めれば、国や言語の枠を越えて多くの人々とつながっていくことを、学生諸君と共有したいと思う。
E-mail	mitani@world.ryukoku.ac.jp



八幡 耕一
YAWATA, Koichi

職名	准教授
学歴・学位	北海道大学大学院国際広報メディア研究科博士後期課程修了 博士（国際広報メディア）
専門分野	社会学／政策科学
研究分野	社会科学／社会学
研究テーマ	メディア研究／情報文化論／情報通信／放送政策／ジャーナリズム論／情報社会学
主な研究活動等	主要論文「ハクティブイズムと情報文化空間の公益性に関する考察:ミシェル・ド・セルトの『戦術』概念の観点から」、「情報文化の空間構造に関する試論:『個』に焦点化した空間モデルを求めて」、「情報文化の主体を眺める視座:オルタナティブとアノニマス」(以上、『情報文化学会誌』)等。 所属学会:情報文化学会、日本マス・コミュニケーション学会、多文化関係学会、日本マレーシア学会、日本広報学会
一言コメント	藻谷浩介さんが『デフレの正体』という本で書いている、「生きる力」(＝普通に生きて十分に稼いで楽しく家族と暮らしながら人とコミュニケーションし力づけ、社会にも貢献していく力)を追求すべく毎日を過ごしています。
E-mail	yawata@world.ryukoku.ac.jp



劉 虹
LIU, Hong

職名	教授
学歴・学位	上海外国語大学対外漢語教学研究科博士後期課程現代言語学専攻修了 博士（文学）〔上海外国語大学〕
専門分野	言語学
研究分野	言語学、人文学
研究テーマ	会話分析／社会言語学
研究キーワード	discourse analysis, conversational analysis, social linguistics. 会話分析、社会言語学、日中文化、現代中国
主な研究活動等	『中国言語学』(北京語言文化大学出版社)、『会話結構分析』(北京大学出版社) The International Association of Chinese Linguistics 日本中国語学会 日本中国語教育学会
一言コメント	読書、音楽鑑賞と最も平凡なものを趣味としている。
E-mail	liu@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録

履修の心得

教育課程

諸課程

学生生活の手引き

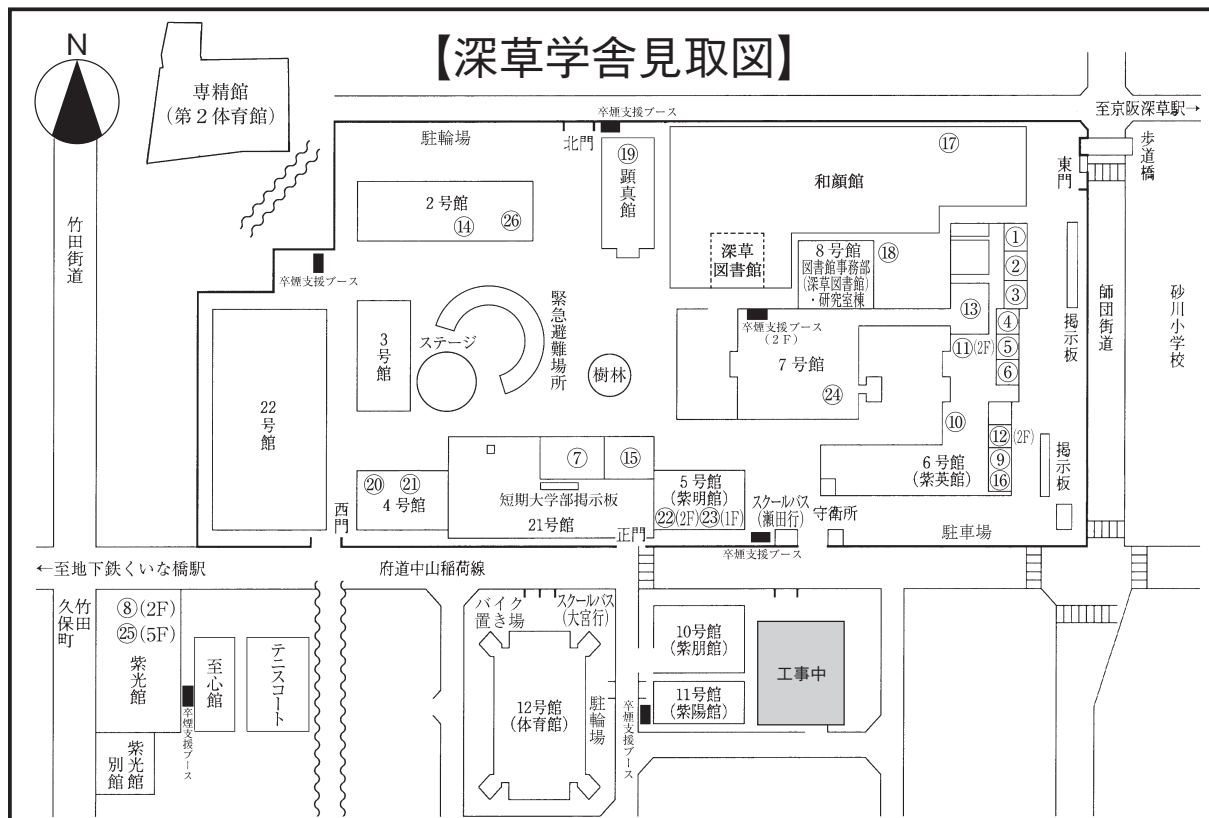
Q & A

教員

付

録

第7部 付 録



深草学舎 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-642-1111 (代表)

◆主な事務室連絡先

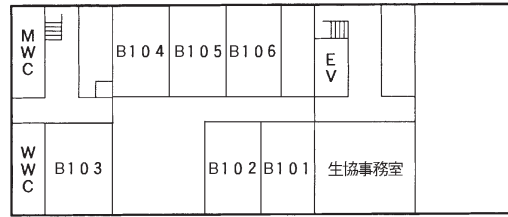
市外局番は「075」です。

番号	部署名	事例	ダイヤルイン	FAX
①	政策学部教務課	政策学部の科目に関する事	645-2285	645-2101
②	法学部教務課	法学部の科目に関する事	645-7896	643-9901
③	経営学部教務課	経営学部の科目に関する事	645-7895	643-9901
④	国際学部 (国際文化学部) 教務課	国際学部(国際文化学部)の科目に関する事	645-5648	645-6444
⑤	経済学部教務課	経済学部の科目に関する事	645-7894	645-6444
⑥	文学部教務課	文学部の科目に関する事	645-7893	645-5639
⑦	短期大学部教務課 短期大学部実習指導室 短期大学部社会活動センター	短期大学部の科目・実習・社会活動に関する事	645-7897	645-2825
			645-7906	
⑧	法科大学院修了生支援室	法科大学院修了生の支援に関する事	645-2070	645-2071
⑨	教育学部 教養教育センター事務部 教職センター	深草・大宮学舎の教養教育科目に関する事	645-7891	643-5021
		教室に関する事 教職課程に関する事		
⑩	教材作成室	印刷が必要な教材作成に関する事	645-7891	643-5021
⑪	研究部(深草) [2階]	各種研究支援に関する事	645-7922	645-2033
⑫	総務部人事課 [2階]	人事・給与に関する事	645-7874	645-8685
⑬	講師控室(6号館)	大学からの通知・連絡		
⑭	講師控室(2号館)			
⑮	障がい学生支援室	障がい学生支援に関する事	645-5685	645-2825
⑯	学修支援・教育開発センター	教育活動の支援に関する事	645-2163	645-2190
⑰	グローバル教育 推進センター事務部	留学・国際交流に関する事	645-7898	645-2020
⑱	図書館事務部(深草)	図書館利用に関する事	645-7885	645-8691
⑲	宗教部	宗教教育・宗教行事に関する事	645-7880	645-7939
⑳	学生部(深草) スポーツ・文化活動 強化センター	学生生活に関する事	645-7889	644-2988
㉑	保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関する事	645-7879	643-9909
㉒	情報メディアセンター [2階]	情報実習室、メディア機器の利用に関する事 メディア教材作成に関する事	645-2108	645-2109
㉓	キャリアセンター	学生の就職支援及びキャリア開発に関する事	645-7878	645-5556
㉔	龍谷大学ボランティア ・NPO活動センター	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事	645-2047	645-2064
㉕	REC事務部(京都)	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関する事	645-7892	645-9222
㉖	生活協同組合	購買(書籍・文具・チケット等)	642-0213	643-7774

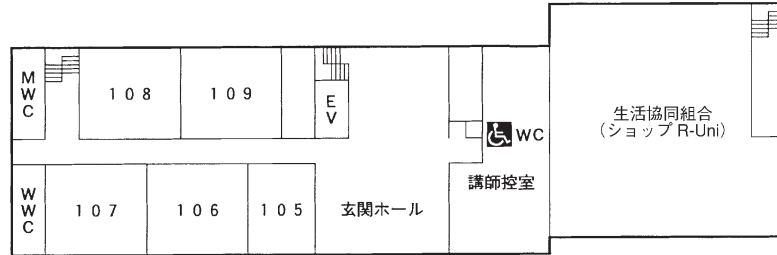


〈深草学舎〉 2 号 館

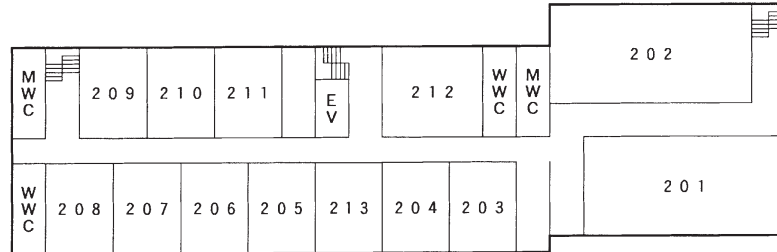
地 階



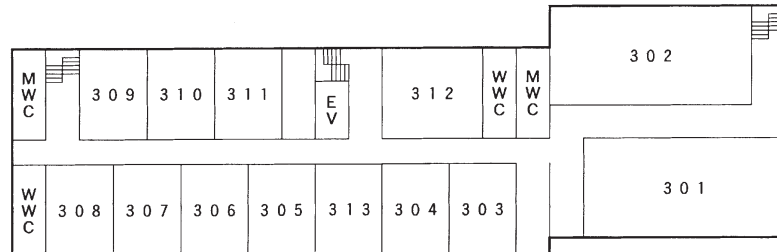
1 階



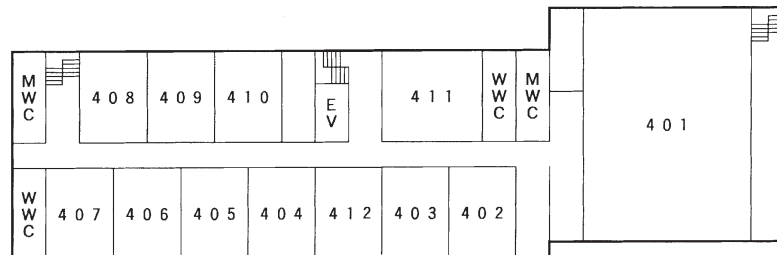
2 階



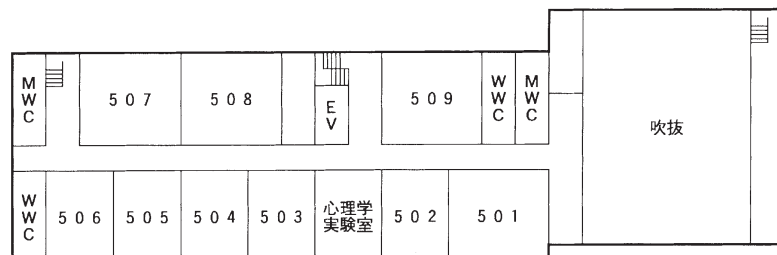
3 階



4 階



5 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

員

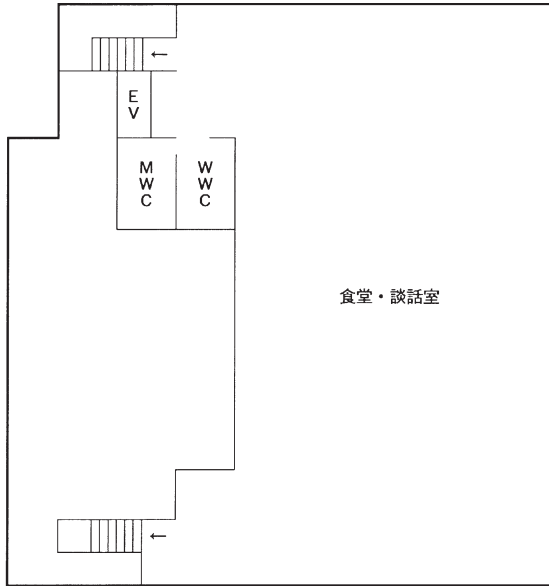
付

録

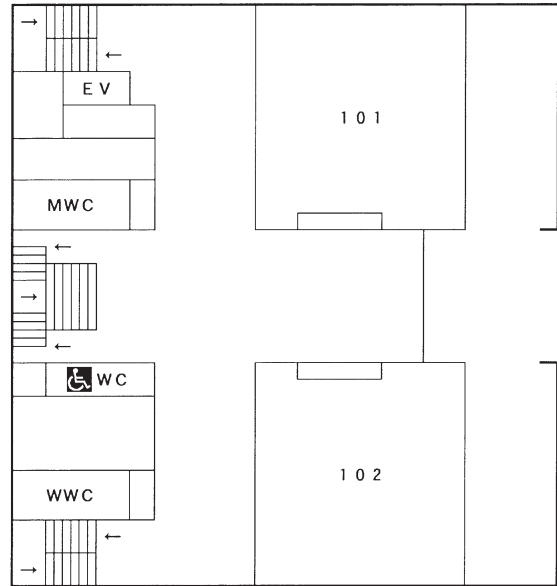


〈深草学舎〉 3 号 館

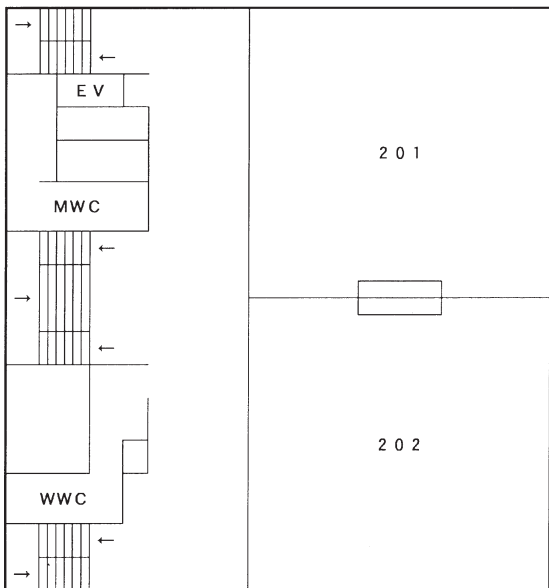
地 階



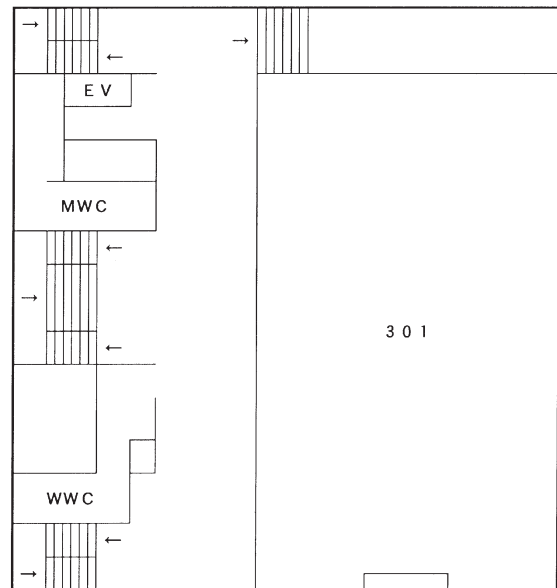
1 階



2 階



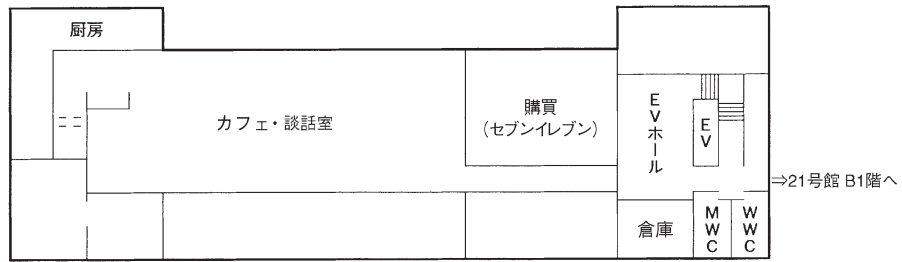
3 階



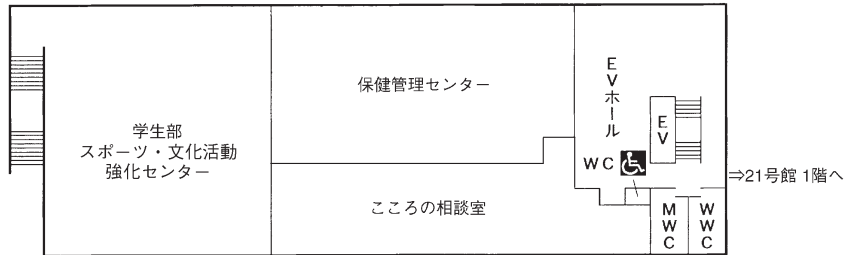


〈深草学舎〉 4 号 館

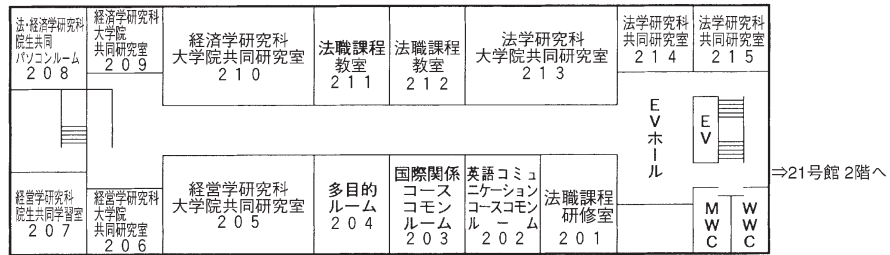
地 階



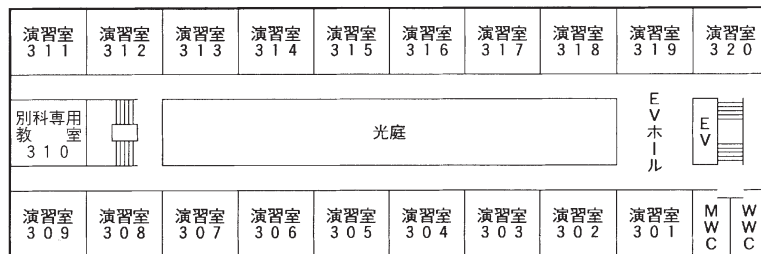
1 階



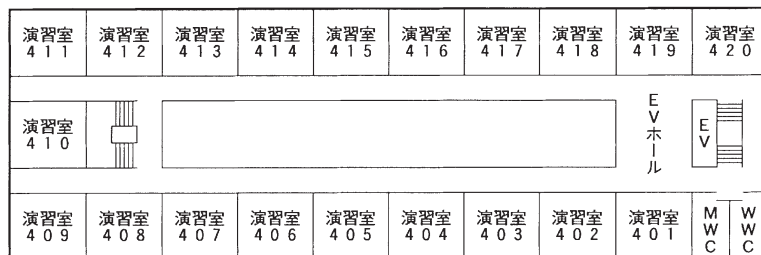
2 階



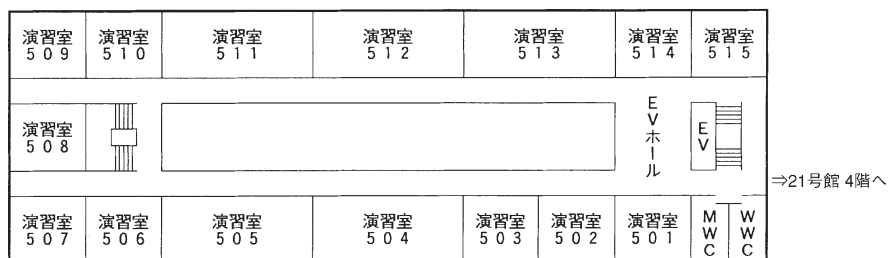
3 階



4 階



5 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学修
引生活
きの

Q
&
A

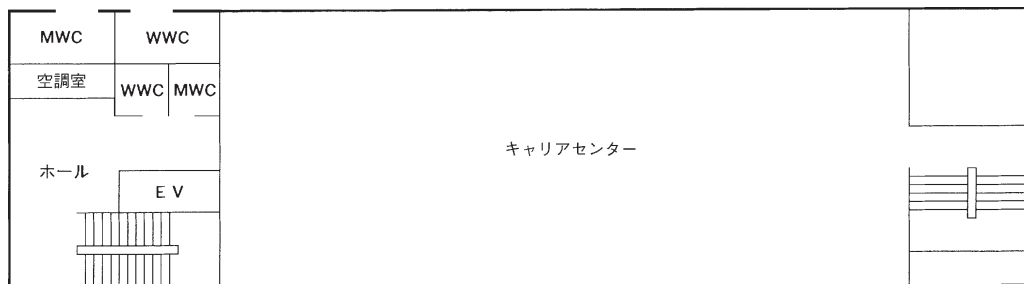
教
員

付
録

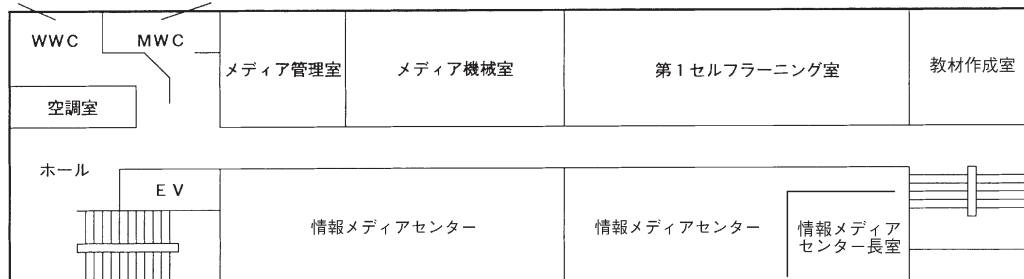


〈深草学舎〉 5 号 館 (紫明館)

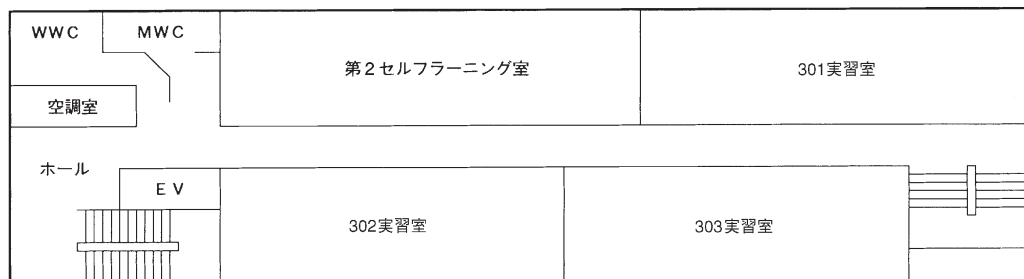
1 階



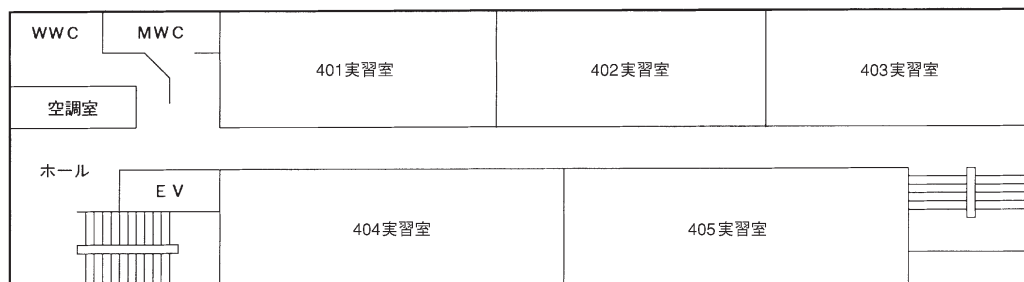
2 階



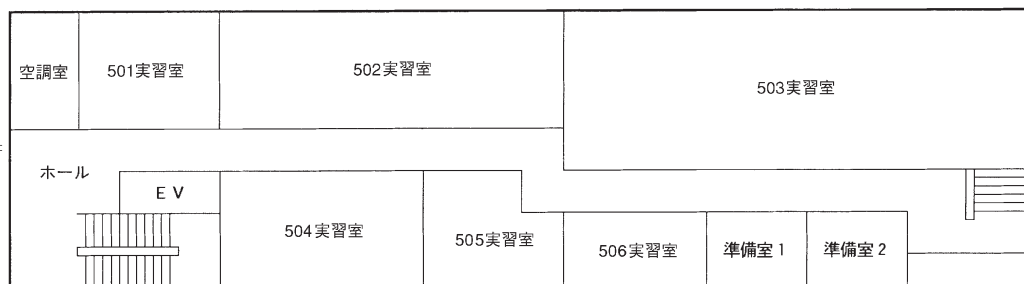
3 階



4 階



5 階



21号館 4階へ←

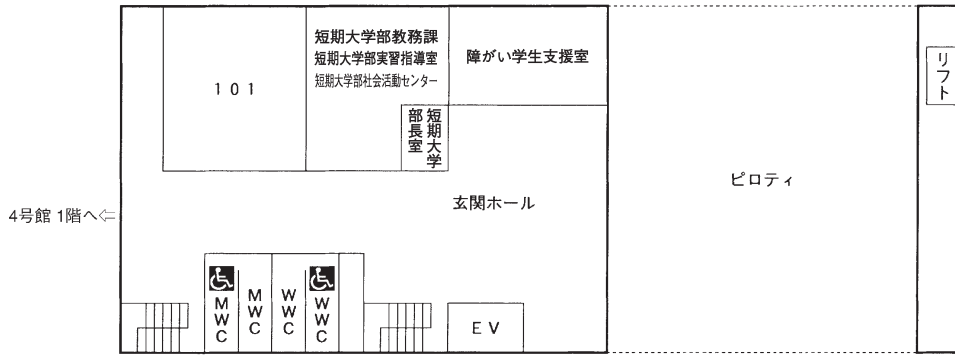


〈深草学舎〉 21 号 館

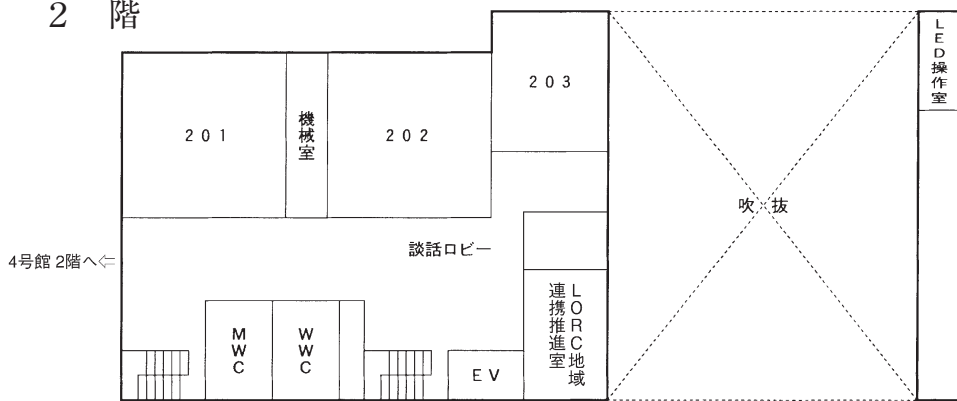
地下1階



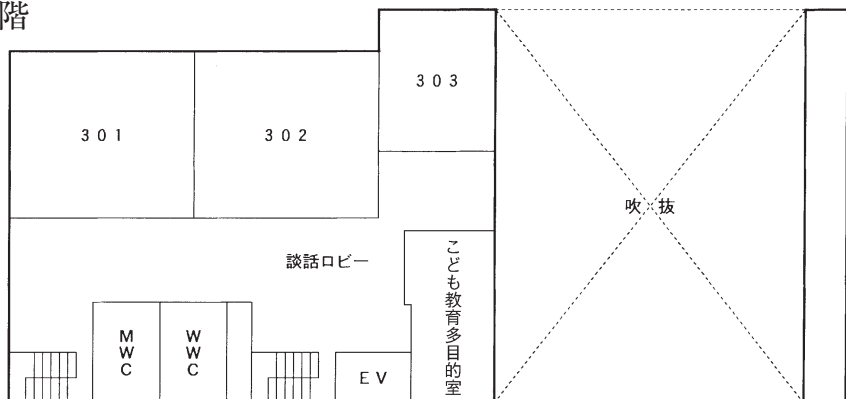
1 階



2 階



3 階



履修の心得

教育課程

諸課程

程

学修生活の
引きの

Q

&

A

教

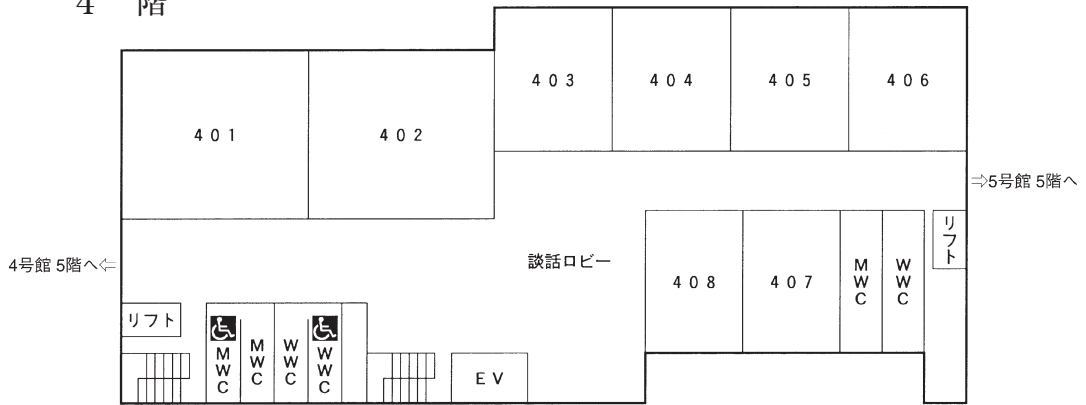
員

付

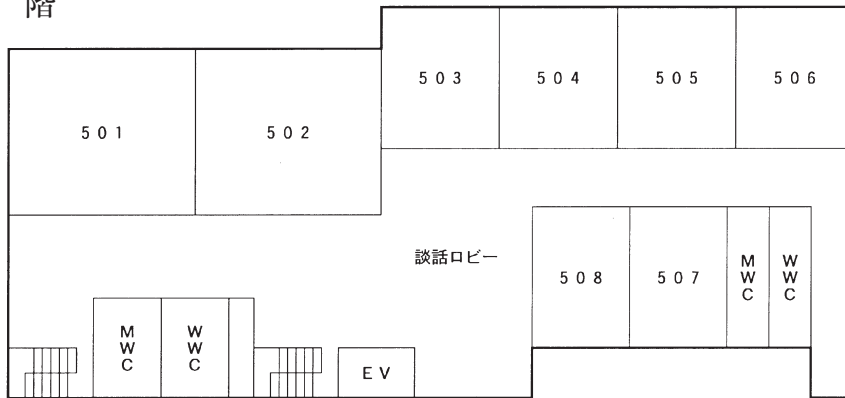
録



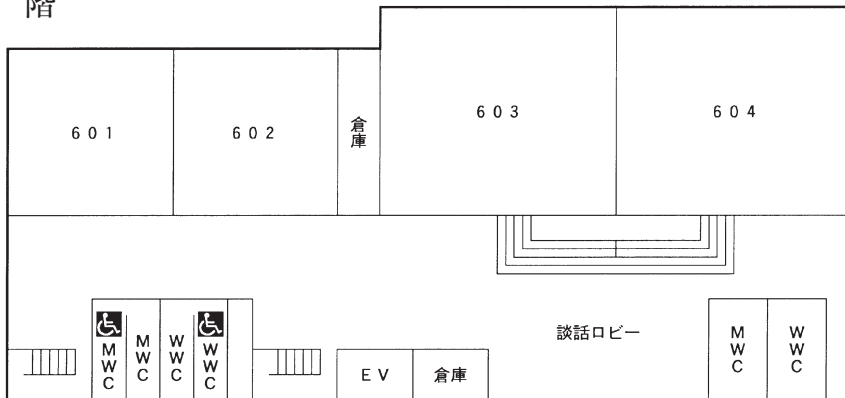
4 階



5 階



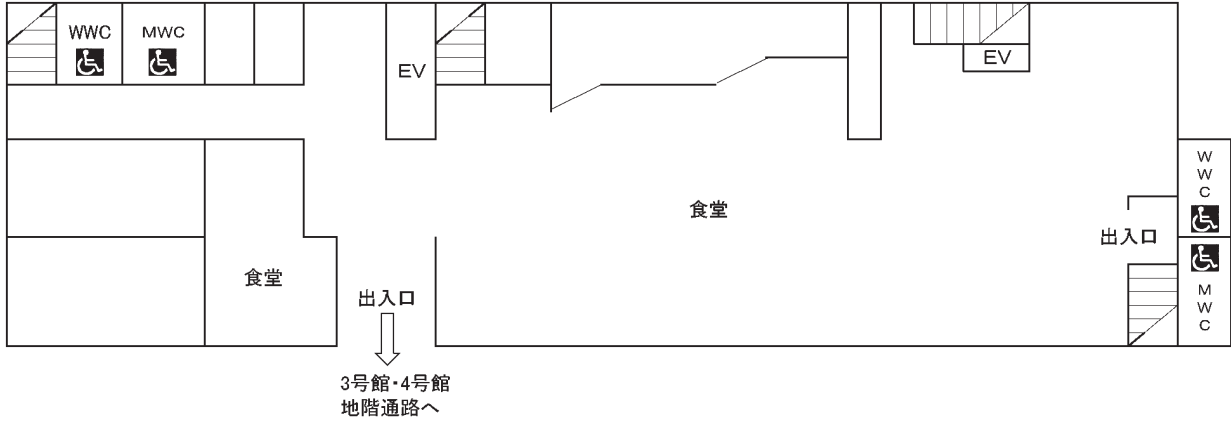
6 階



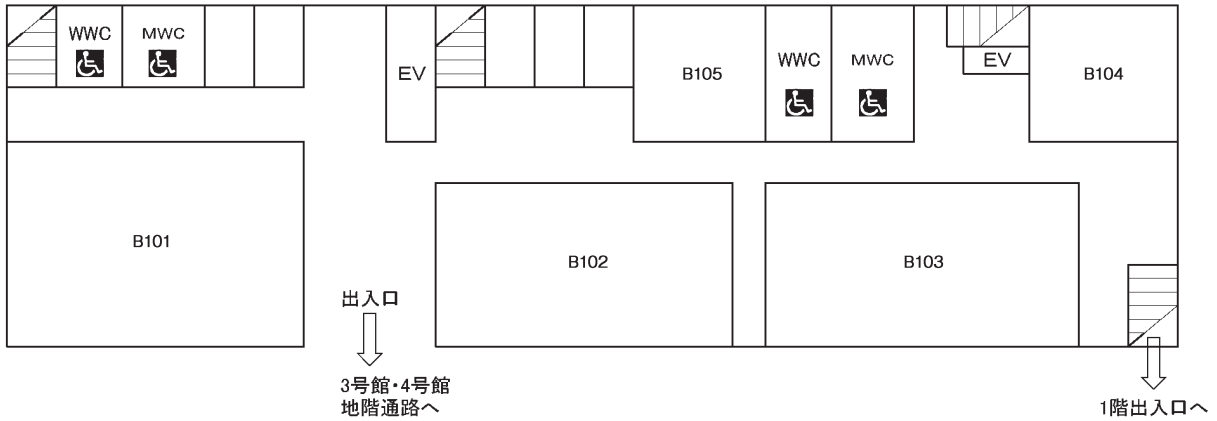


〈深草学舎〉 22 号 館

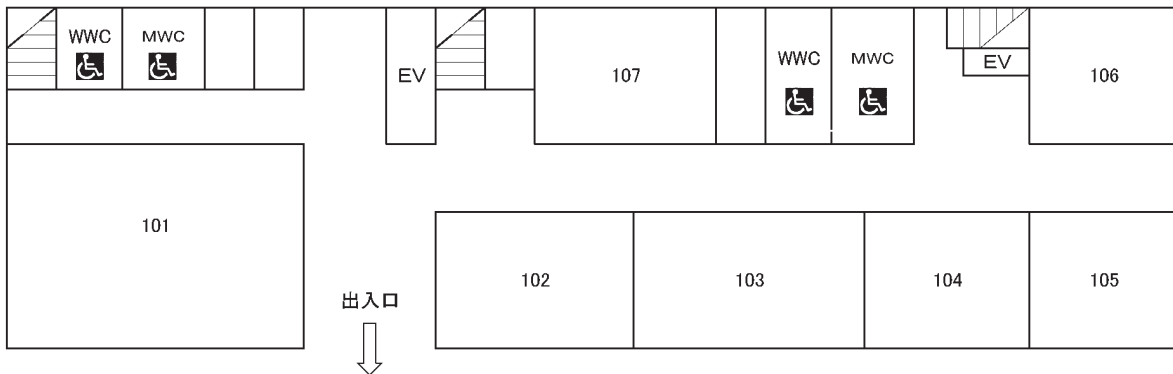
地下 2 階



地下 1 階



1 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

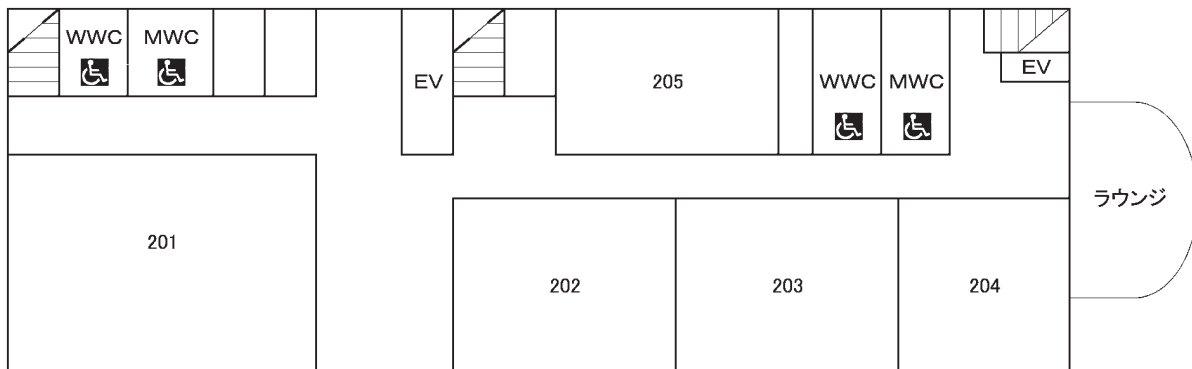
員

付

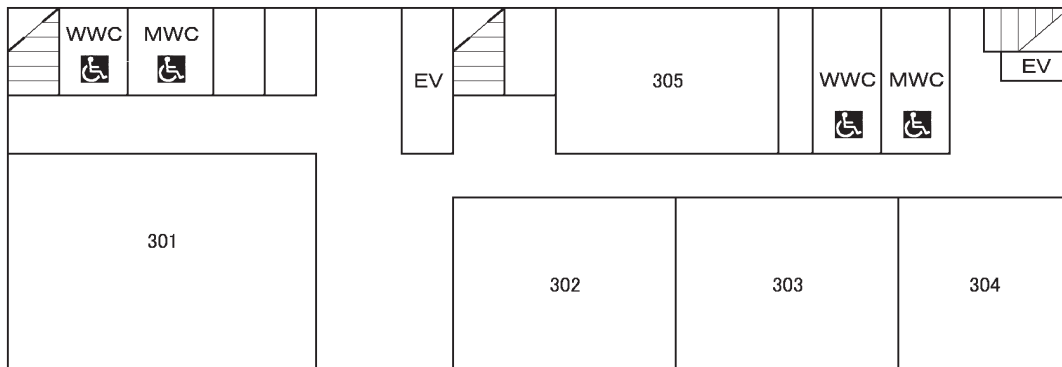
録



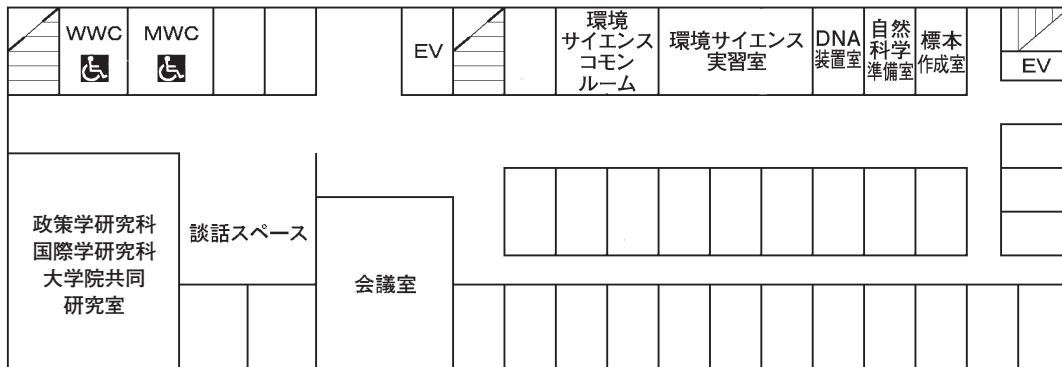
2 階



3 階



4 階





〈深草学舎〉 和 顔 館

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

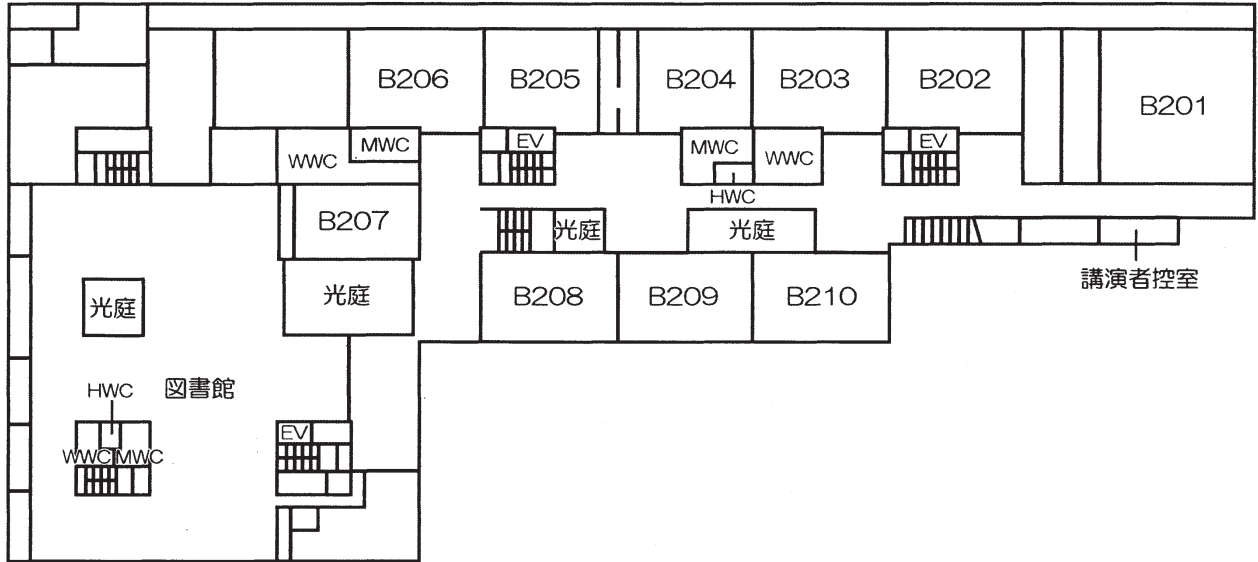
教

員

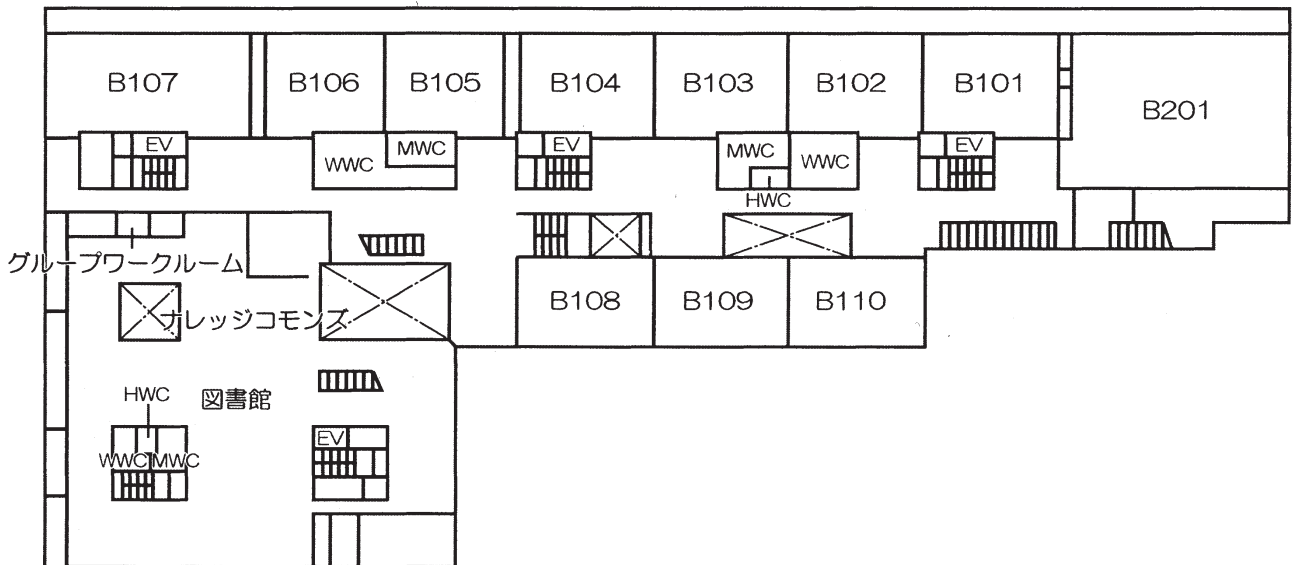
付

録

地下2階



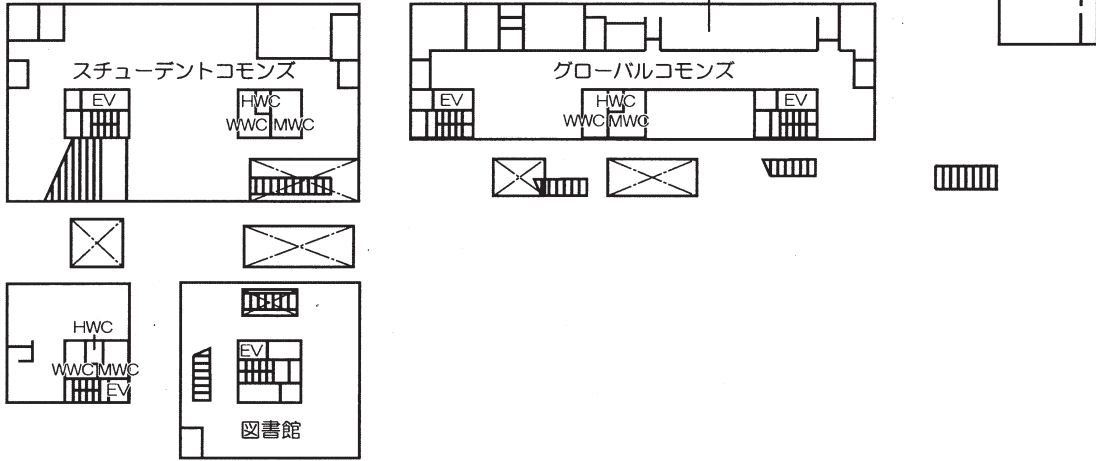
地下1階



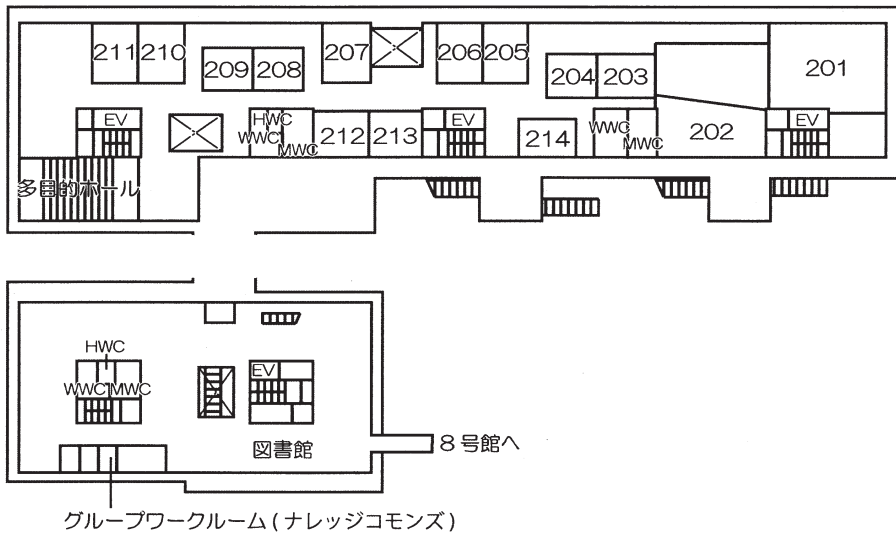


1 階

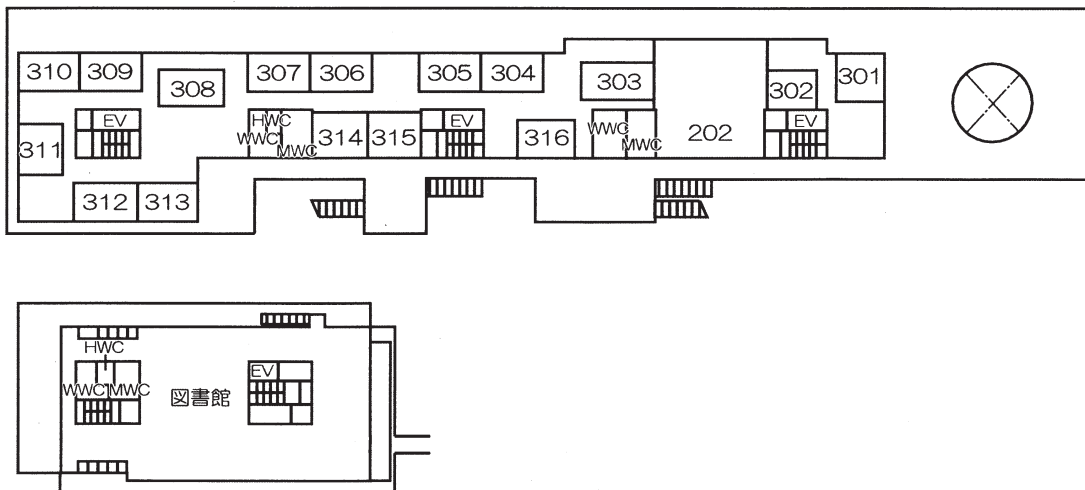
グローバル教育推進センター事務部
Center for the Promotion of Global Education Office
(R-Globe)



2 階

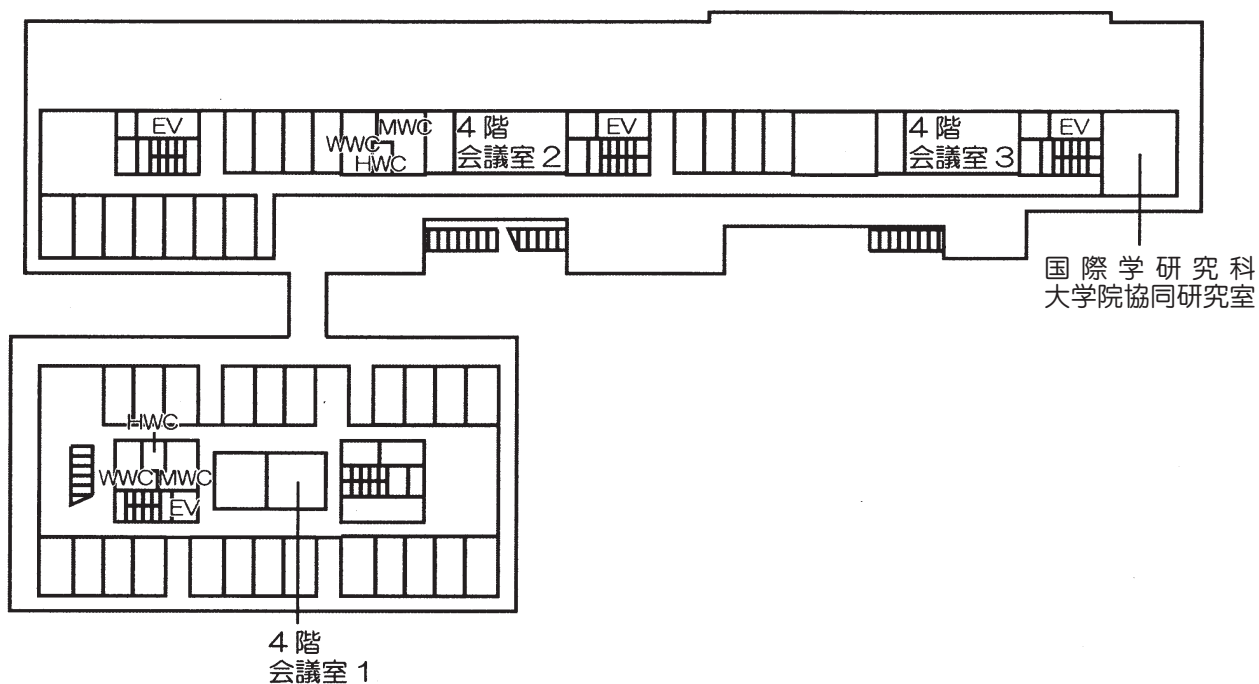


3 階

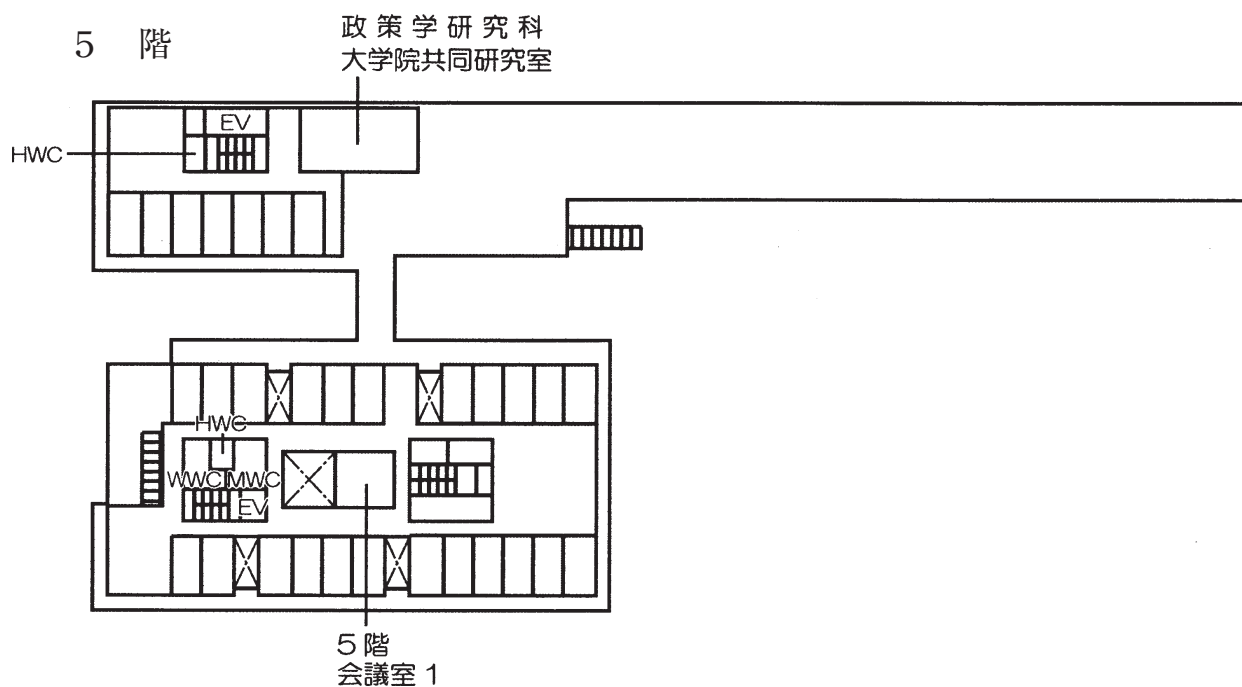




4 階



5 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

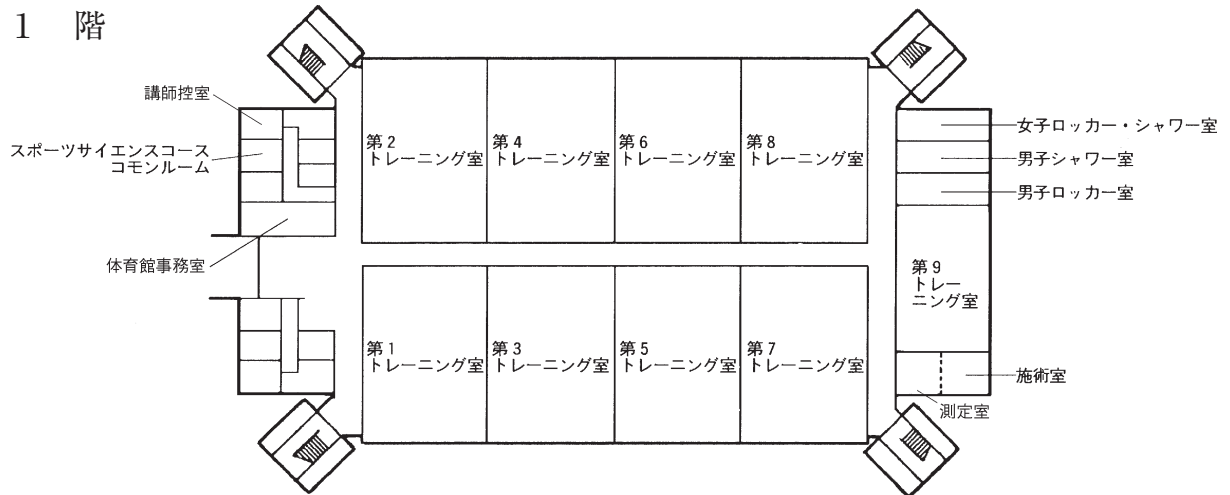
教
員

付
録

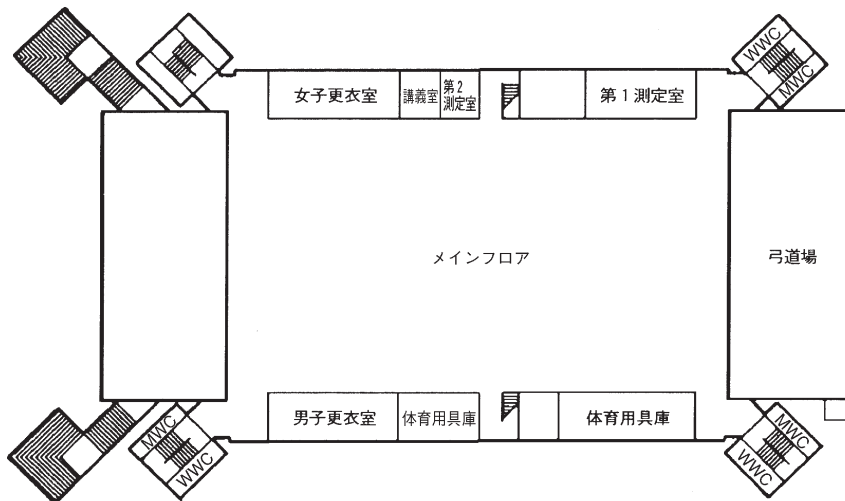


〈深草学舎〉 12 号 館 (体育館)

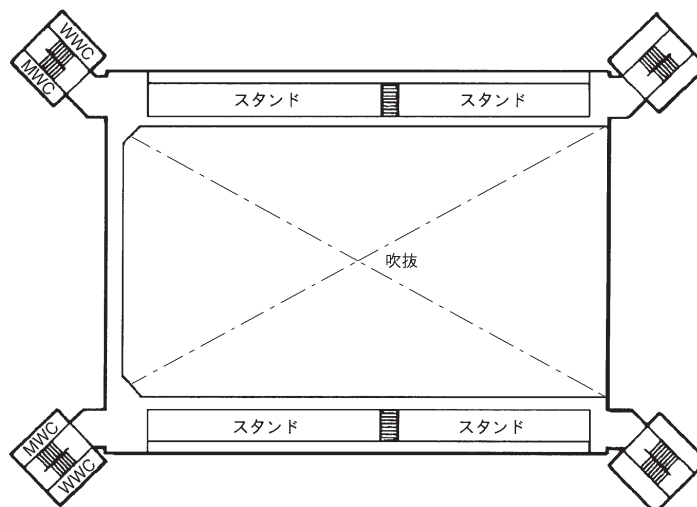
1 階



2 階



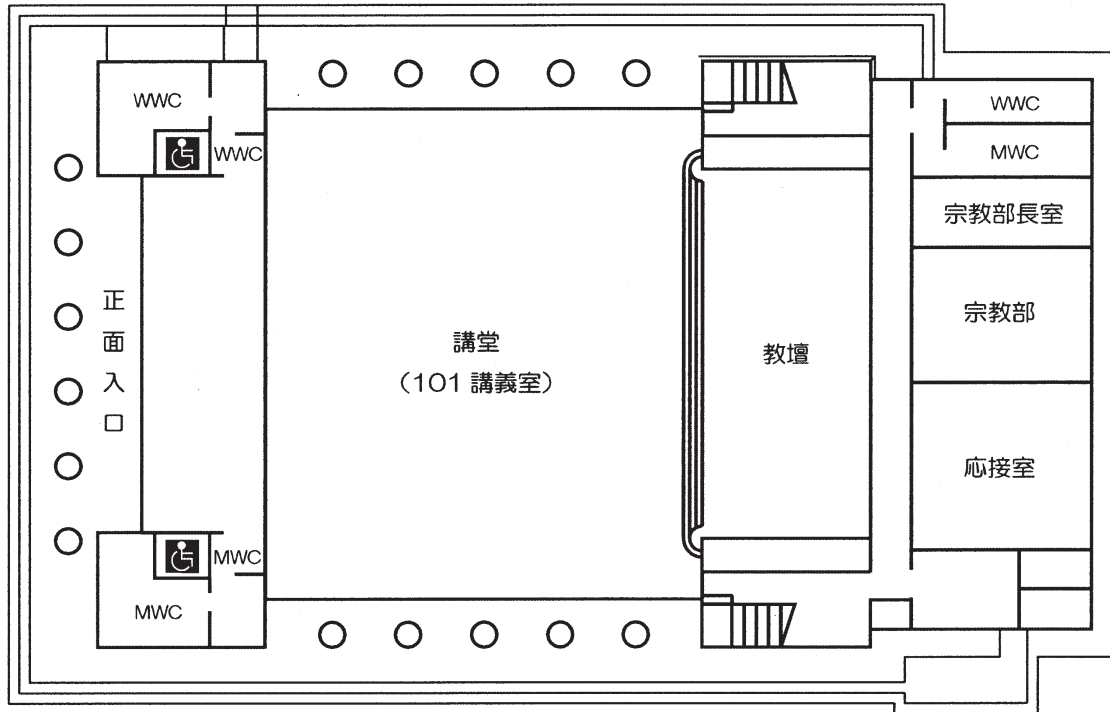
3 階



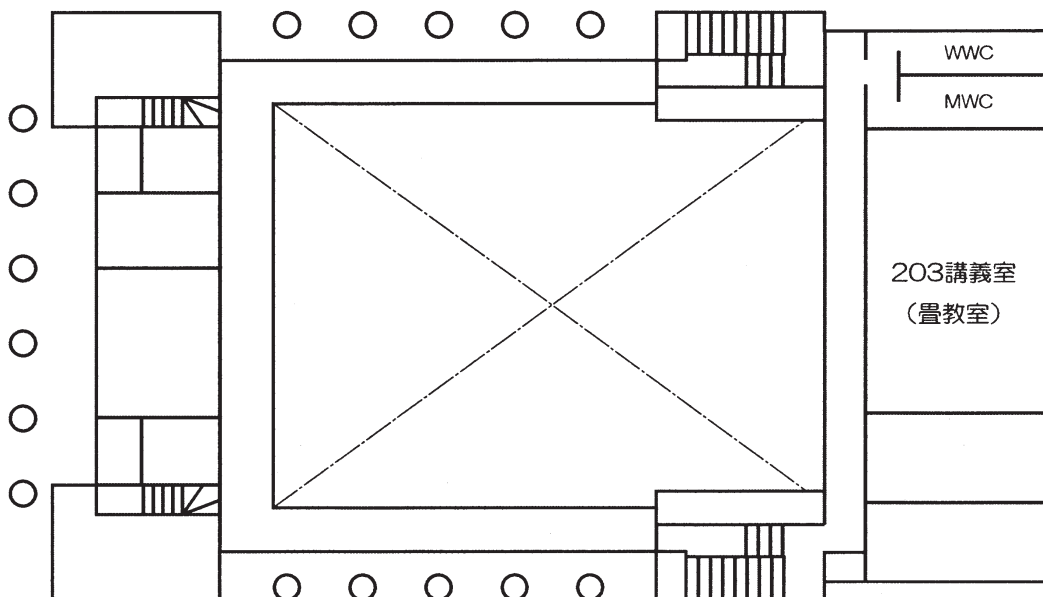


〈深草学舎〉 顕真館

1 階



2 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

員

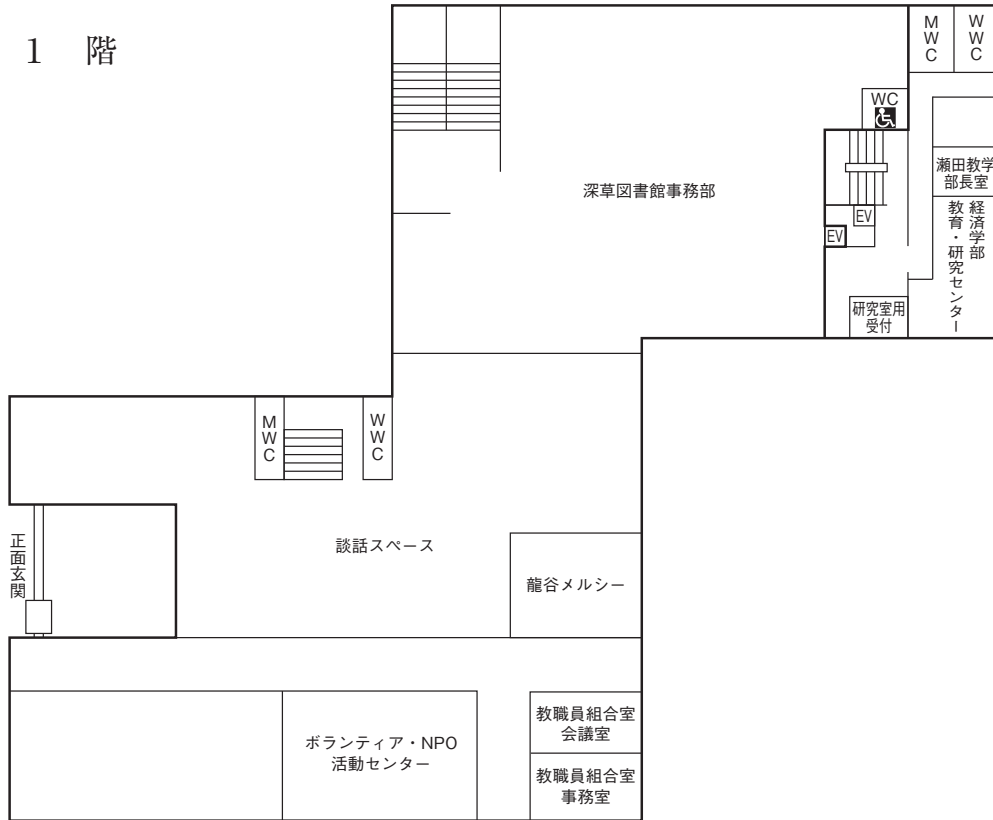
付

録

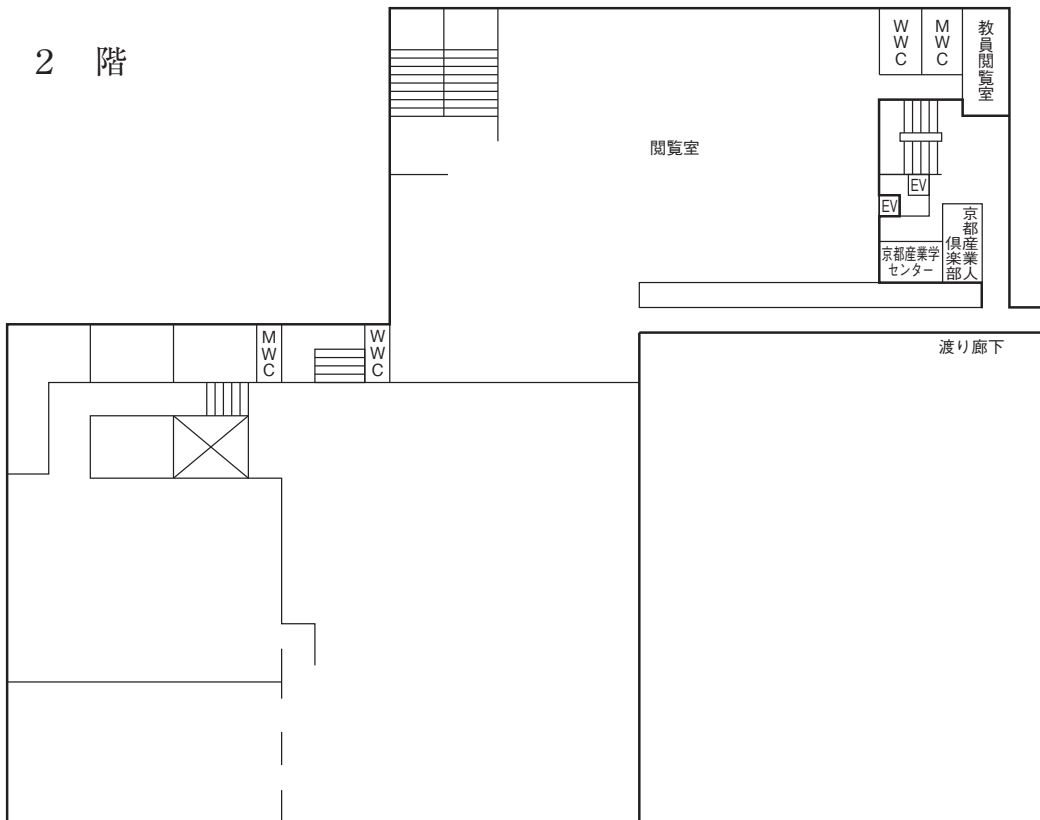
〈深草学舎〉 7 号 館・8 号 館



1 階



2 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引生活
きの

Q

&

A

教

員

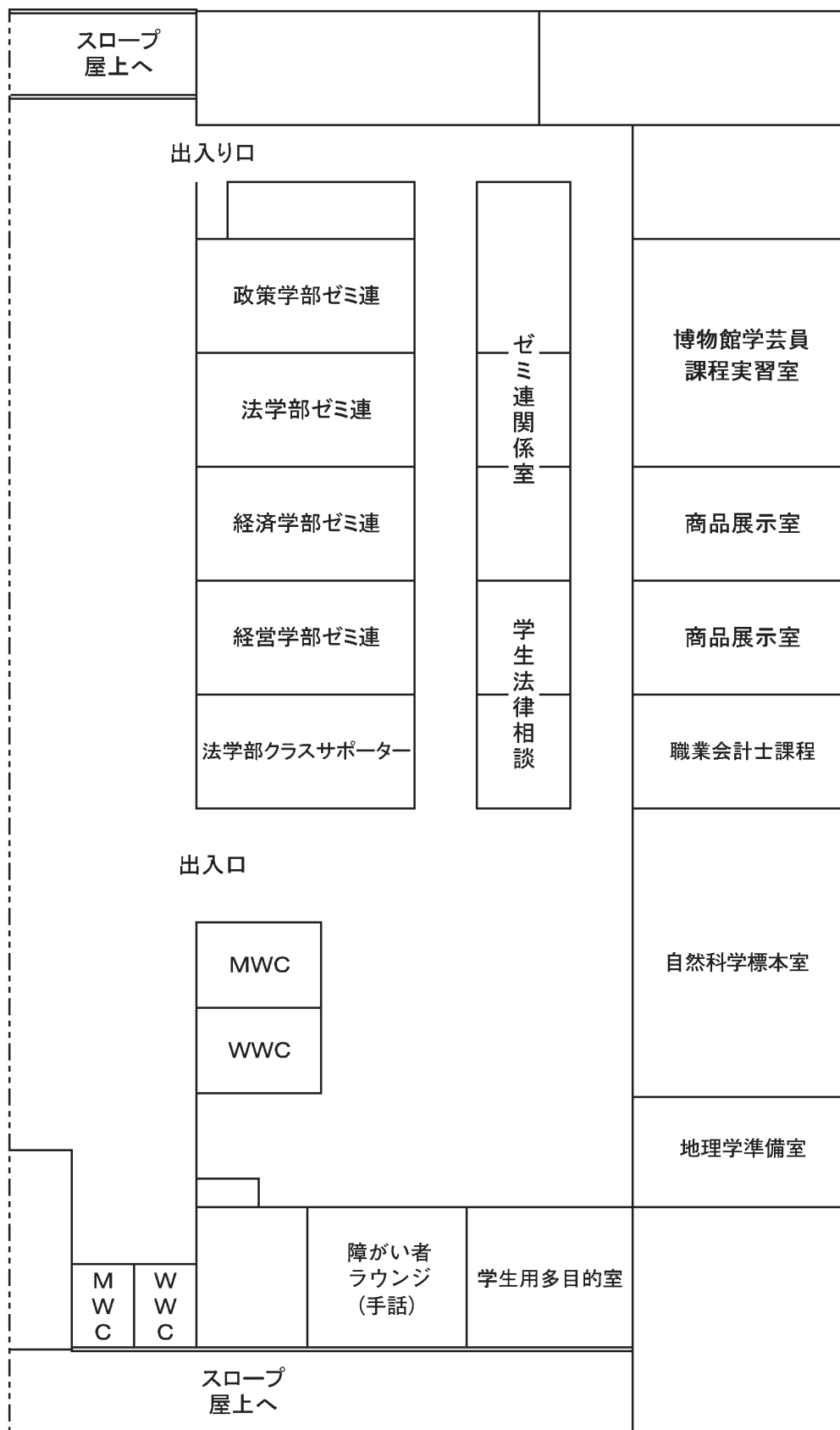
付

録



〈深草学舎〉 紫光館別館

国道
24
号
線



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

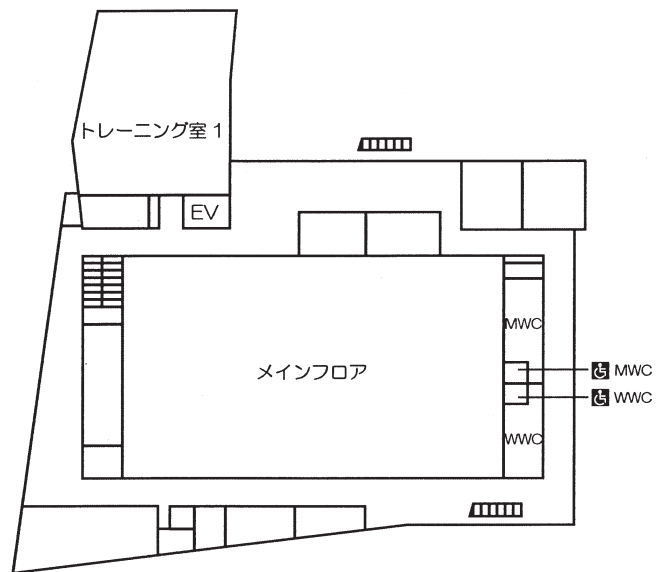
教員

付録

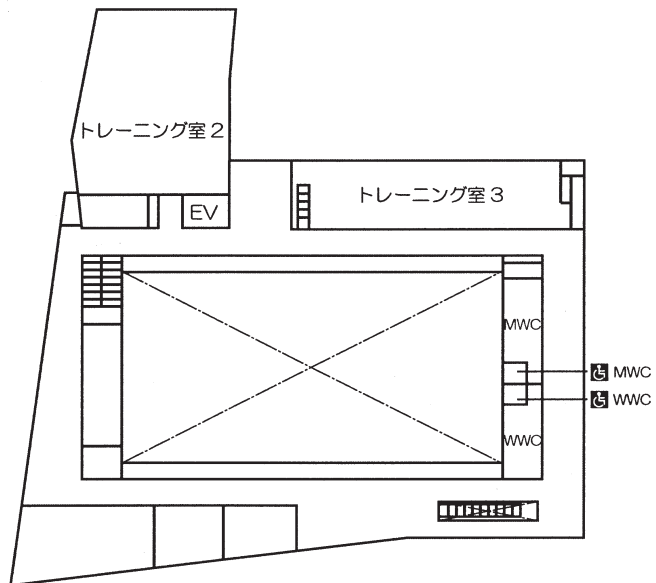


〈深草学舎〉 専 精 館

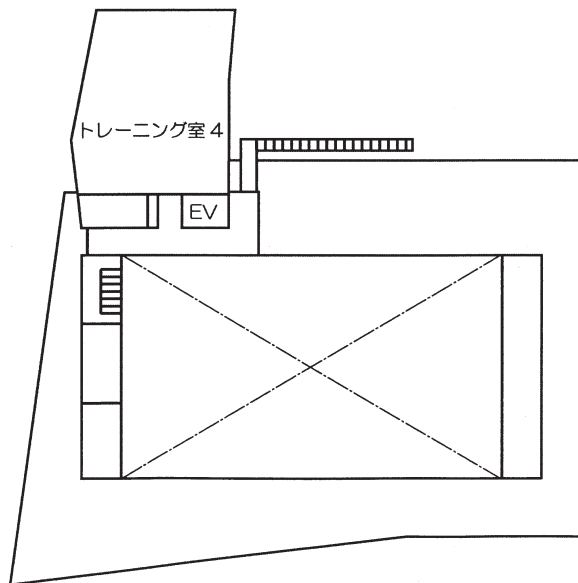
1 階

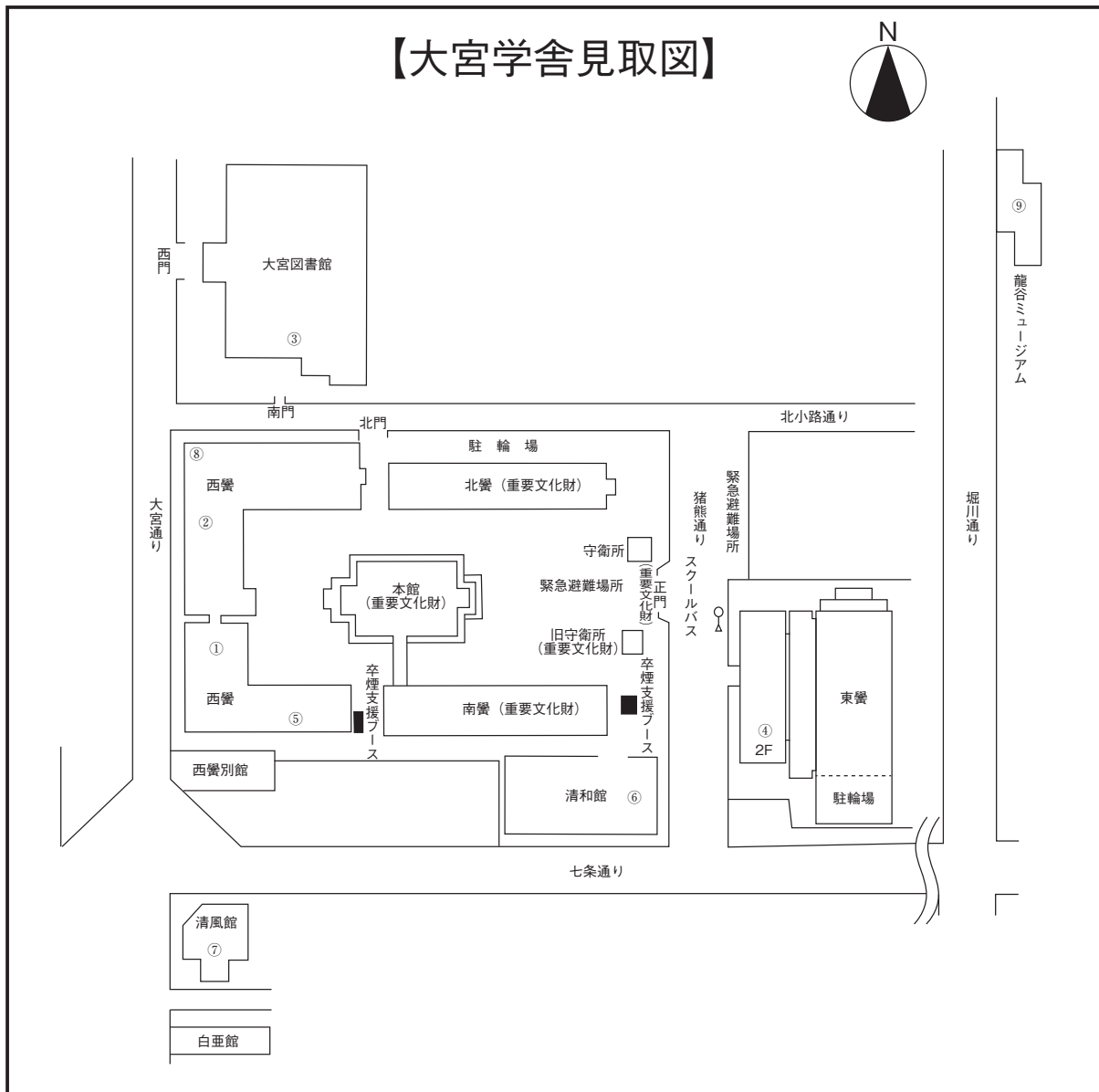


2 階



3 階





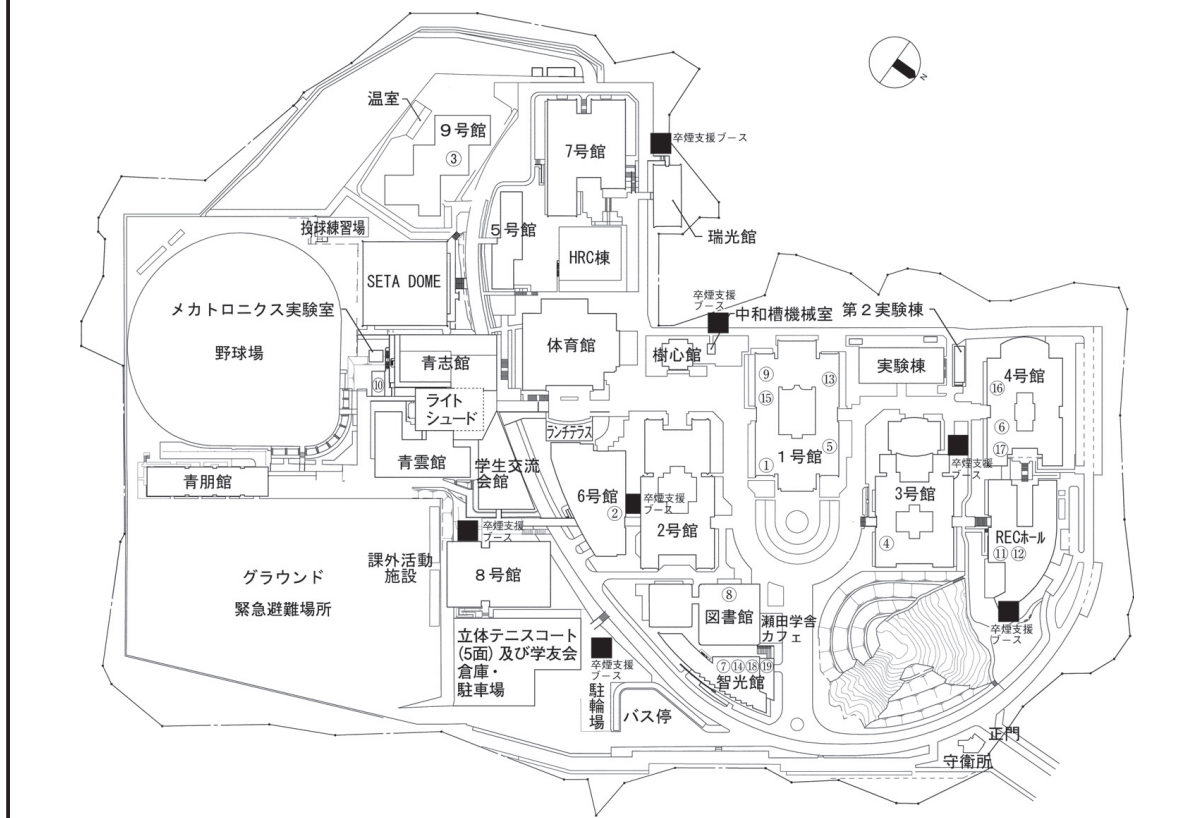
大宮学舎 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1
TEL 075-343-3311 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「075」です。

部署名	事例	ダイヤルイン	FAX
① 文学部教務課	文学部の科目に関すること 教材作成に関すること	343-3317	343-4302
② 講師控室	大学からの通知・連絡	343-3311 (代表)	343-3319
③ 図書館事務部 (大宮図書館)	図書館の利用に関すること	343-3318	343-3345
④ キャリアセンター (大宮)	学生の就職支援及びキャリア開発に関すること	343-3484	343-3485
⑤ 保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関すること	343-3322	343-3490
⑥ 生活協同組合	購買(書籍、文具、チケット等)	352-3981	343-6428
⑦ 情報メディアセンター (大宮)	情報実習室、メディア機器の利用に関すること	366-0612	366-0613
⑧ 世界仏教研究センター 事務部		343-3308	343-3309
⑨ 龍谷ミュージアム事務部		351-2500	351-2577

【瀬田学舎見取図】



瀬田学舎 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
TEL 077-543-5111 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「077」です。

	部署名	事例	ダイヤルイン	FAX
①	理工学部教務課	理工学部の科目に関する事	543-7730	543-7749
②	社会学部教務課	社会学部の科目に関する事	543-7760	543-7615
③	農学部教務課	農学部の科目に関する事	599-5601	599-5608
④	瀬田教育学部 教養教育センター事務部 教職センター(瀬田)	瀬田学舎の教養教育科目に関する事。教職に関する事。教室に関する事。教材作成に関する事	543-7739	543-7674
⑤	講師控室	大学からの通知・連絡	543-7770	-
⑥	学生部(瀬田)	学生生活に関する事	543-7734	543-7889
⑦	情報メディアセンター(瀬田) (メディア教材作成室)	情報処理実習室、メディア機器の利用に関する事 メディア教材作成に関する事	544-7287	544-7289
⑧	瀬田図書館 (図書館事務部)	図書館の利用に関する事	543-7751	543-7769
⑨	研究部(瀬田)	各種研究支援に関する事	543-7741	544-7195
⑩	ボランティア ・NPO活動センター事務部(瀬田)	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事	544-7252	544-7261
⑪	REC事務部(瀬田)	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関する事	543-7743	543-7771
⑫	知的財産センター事務部	知的財産に関する事	544-7270	544-7263
⑬	キャリアセンター(瀬田)	学生の就職支援及びキャリア開発に関する事	543-7735	543-7780
⑭	グローバル教育推進センター(瀬田)	留学・国際交流に関する事	543-7672	544-7251
⑮	瀬田事務部	瀬田学舎全般に関する事	543-7709	543-7729
⑯	保健管理センター(瀬田)	診察、健康診断、健康相談に関する事	543-7781	543-7783
⑰	障がい学生支援室	障がい学生支援に関する事	544-7216	543-7889
⑱	生活協同組合	購買(文具、チケット等)	544-4111	544-4114
⑲	丸善	購買(書籍)	543-7777	543-5135

留学サポートデスクについて

グローバル教育推進センター(和顔館1F)には、
国際学部留学サポートデスクがあります。
留学経験のある日本人アドバイザー4名が担当しており、
様々なサポートをおこなっています。
わからないこと、不安なことがあれば、何でも気軽に相談してください。



留学アドバイザー からのメッセージ

日本を離れ、新しい世界に飛び込むのはとても勇気がいりますよね。留学を実現するために必要なこと、それは情報収集です。留学準備の段階で不安を少しでも解消できるように、留学する時期、国や学校の選び方、留学願書の書き方、学生ビザ等各種情報を提供しています。また、留学前のサポートだけでなく、留学中の質問にメールで答えたり、留学後にはみなさんの自主的な語学勉強会をお手伝いしたりすることで、留学前から留学後まで一貫したサポート体制を提供しています。忘れられない留学経験を作り上げ、将来のステップになるよう、私たちが全力でサポートします！

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

員

付

録

2019年度
国際学部 国際文化学科 履修要項

2019年4月1日発行

編集発行 龍谷大学国際学部
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-645-5645 (直通)
FAX 075-645-6444
e-mail world@ad.ryukoku.ac.jp

印刷 株式会社 NPCコーポレーション

